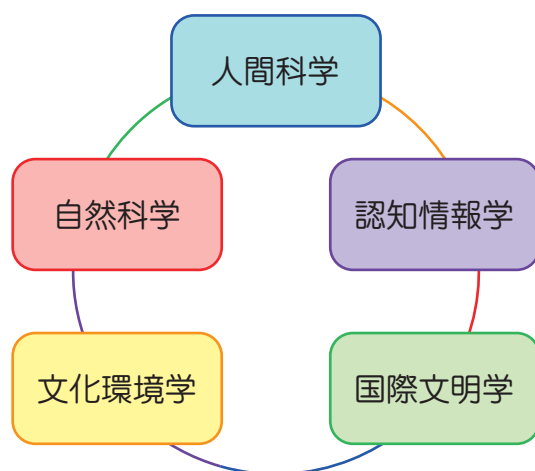


# 総合人間学部便覧

(令和5年度以前入学者用)

Faculty  
of  
Integrated Human Studies



令和8年度

京都大学総合人間学部





# 目 次

京都大学総合人間学部の概要 .....	1
5学系の理念・教育内容 .....	2
教育研究上の目的、総合人間学部ディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシー .....	4
コースツリー .....	5
* 人間科学系 .....	5
* 認知情報学系 .....	6
* 国際文明学系 .....	7
* 文化環境学系 .....	8
* 自然科学系 .....	9
総合人間学部の教育制度について .....	11
* 担任制及び教員アドバイザー制	
* 学系分属（及び転学系）	
* 副専攻制度	
* 指導教員	
* 「研究を他者に語る」	
履修について .....	12
* 履修上の注意事項	
* 学研災について	
* 卒業判定基準単位表 .....	13
* 履修登録について .....	14
・履修登録	
・履修取消制度	
* 総合人間学部の定期試験について .....	15
* 京都大学における災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱い .....	16
* 成績について .....	20
・成績表の開示について	
・成績評価について	
・GPA 制度	
* 卒業論文・卒業研究について .....	21
* 「研究を他者に語る」について .....	22
* 修得単位科目区分変更について .....	22
* 留学により修得した単位の認定について .....	22
* 関係規程等 .....	23
・総合人間学部規程	
・総合人間学部における履修登録単位数の上限に関する内規 .....	24
・総合人間学部試験及び単位認定に関する内規 .....	25
* 主専攻科目表・新旧科目対応表 .....	27
・人間科学系 .....	27
・認知情報学系 .....	33
・国際文明学系 .....	37

・文化環境学系 .....	41
・自然科学系 .....	45
* 特殊講義(学部共通)科目表 .....	48
* 総人ゼミ	
* 副専攻科目表 .....	49
教育職員免許状の取得について .....	50
* 総合人間学部で取得できる免許状の種類及び教科	
* 単位の修得について	
* 教育実習について .....	51
* 介護等体験について .....	51
公認心理師となる資格の取得について .....	52
* 公認心理師の職務	
* 公認心理師の資格	
* 公認心理師に関する科目の単位	
学生生活の諸手続きについて .....	54
* 学部教務掛窓口業務時間について	
* 学生証について	
* 修学上の願出・届出について(休学願・復学願(届)・退学願・海外渡航届・住所変更届・改姓(名)届)	
* 転学部について .....	55
* 各種証明書の発行について	
* 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)の使用について	
悩みごとの相談窓口について .....	56
* 分属、副専攻、進学、就職等の相談について	
* 各種の相談窓口について	
総合人間学部棟の教室使用について .....	58
教員名簿 .....	59
* 人間科学系 .....	59
* 認知情報学系 .....	60
* 国際文明学系 .....	61
* 文化環境学系 .....	62
* 自然科学系 .....	63
京都大学吉田キャンパス案内 .....	65
* 京都大学吉田キャンパス建物配置図 .....	65
* 吉田南構内の安全通行について .....	66
* 吉田南構内建物等配置図・交通規制・駐輪駐車図 .....	67
* 吉田南構内教室等配置図 .....	68
* 吉田南構内教室設備一覧 .....	75



## 京都大学総合人間学部の概要

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され、平成5年4月に第1期生を迎え入れた京都大学で最も新しい学部である。入学定員は120名であり、事実上の総合人間学部の大学院である人間・環境学研究科の教員が主として教育を担当している。

新学部を「総合人間学部」と名づけた理由は、本学部の研究・教育が、各専門分野に限定された個別的な研究・教育を越え、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするものだからである。

「総合人間学」とは、人間存在を人間の内面的な心理や価値、思想の面、あるいは身体面からだけでなく、人間のおかれた社会、政治、経済、文化、歴史的環境、さらには、物質や生物などの自然環境との関係を含めて、総合的に理解しようとする学問である。

現代社会に生きる人間が、人間自身とその人間の形成した文明とを最大の問題として探究しなければならないのは、この探究にこそ、これからの人類生存の可能性が賭けられているからである。このような人類生存や文明の可能性という根本問題を解明していくには、これまでのように限定された狭い分野での研究・教育を進めるだけではもはや不可能となりつつある。つまり人間と人間をとりまく世界とを総体的に捉えていく新たな学問的営為を確立することが重要であり、これこそが総合人間学部における教育に求められている課題である。京都大学の自由の学風と伝統の上に立って、従来の個別科学の枠を越えたより多様で総合的な学問の場となることを本学部は目指している。

また、本学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設ける。これは各自の主専攻の他に異なる学問分野を系統的に履修することにより、幅広い知識を身につけるための制度である。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合には、卒業の際に、学士学位記とは別に副専攻を明記した認定書が発行される。

なお、従来総合人間学部には、人間学科、国際文化学科、基礎科学科、自然環境学科の4学科のもとに13講座23専攻が置かれていたが、平成15年4月よりは1学科(総合人間学科)制とし、5学系制を採っている。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叢智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起している。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総体的な把握がなされねばならない。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するために、**人間科学系**が設置されている。

今日人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは焦眉の急務となっている。脳の機能とは何か、から人間の認知、行動発現、言語機能の探究、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで、深く学ぶために、**認知情報学系**が設置されている。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋と近代主義、ならびに非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されている。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって、国際的で新しい文明の理念を構築するために、**国際文明学系**が設置されている。

世界各地の固有の民族性や地域性、あるいは人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために**文化環境学系**が設置されている。

自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探究し、自然の構造や自然法則の基本原則を明らかにする必要がある。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するために、**自然科学系**が設置されている。

## 5学系の理念・教育内容

### ● ● ● ● 人間科学系 Human Sciences ● ● ● ●

科学技術の加速度的進展や情報化といわれる社会過程の高度な発展に伴って、人間をめぐる社会的・物質的環境は過去数十年の間に著しく変化した。その変化に対応するかのように、既存の人間に対する知では十分説明しきれないような、さまざまな人間行動や社会現象が生起するに至っている。本学系は、人間をめぐるこうした現代的状況を背景にし、また個別科学において貯えられてきた人間についての知を前提にしながら、人間についての全体的で根底的な理解を獲得することを目的としている。この目的を実現していくための道筋としては三つのものが考えられる。第一は、人間の諸活動の成果をもとに人間そのものについての思索を深化させていくという方向、第二は、人間を徹底して社会的文脈の中に置き、その中で人間についての知見を貯えていくという方向、そして第三は、文学を含む文化現象全般から人間についての理解に迫るという方向である。第一の方向は「思想」研究の方向と名づけるべきものであり、そこからは哲学や倫理学の伝統を前提にした人間存在についての思想的解明、あるいは造形芸術や演劇などの人間の創造行為全般についての思想的・歴史的研究がなされる。また第二の「社会」研究の方向からは、人間形成の諸過程・諸問題に関する実証的・理論的解明、あるいは人間の社会行動についての実証的・理論的研究が行われ、第三の「文化」研究の方向からは、文学作品を中心とした表現文化についての研究、さらには歴史学と社会学を踏まえた文化・文学・映画研究が行われる。「思想」「社会」「文化」の三つの方向は相互に有機的に関連しあって、「人間についての全体的で根底的な理解」という本学系の目的を実現することをめざす。

本学系は、思想・社会・文化の三極構造において人間をトータルに把握しようとするものである。抽象度の高い思考（「思想」）と社会的現実についての冷静な分析（「社会」）、それに文学を含む諸文化現象への幅広い教養（「文化」）という三つの極によって構成される問題空間を系統的に学ぶことを通して、人間についての深い洞察と理解をもった、これまでにないタイプの人材が輩出することが期待される。こうした人材は、大学院、各種シンクタンク、教育界、公務員、家庭裁判所調査官、マスコミ関係、流通・広告業界、芸術界など広い範囲で活躍することが予想される。

### ● ● ● ● 認知情報学系 Cognitive and Information Sciences ● ● ● ●

脳・身体・言語・数理情報などに関する研究を通じて、人間および計算機（コンピュータ）の多様な創造世界に関する理解を深めることを目標とする。人間同士あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェースとして行われる。環境の認識と環境への働きかけは、脳内の認知機構と運動制御機構の発現によって実現されるのである。人間相互のコミュニケーションは、脳が構築した言語システムを媒体としており、それを媒介する計算機の情報処理は、情報処理の複雑な数理機構が関与している。また脳の知的作業の最も昇華された世界が、数学的認識であるということができよう。

本学系は、(1)行動科学的・認知科学的・神経科学的手法を用いた脳機能解析により、人間の知性と創造性の基本原理を理解すること、行動科学的実験やシミュレーションなどの数理的手法を通して、多様な運動の制御・学習機構を解明すること、(2)運動不足や偏った食生活と遺伝的要因により発症する生活習慣病の生理学的・病理学的・運動科学的メカニズムや、幼少期からの発達を踏まえたメンタルヘルスの維持について探求し、予防医学の発展に寄与すること、(3)情報の表現とその処理に関する理論を考究し、実践的に応用すること、計算機による学習、推論などの知的な情報処理について理論と応用の両面から探求すること、(4)種々の現象の数学的モデルを構築し、それを数理科学の手法を用いて解析し、我々をとりまく世界の認識を深めること、(5)我々の認識を反映している自然言語・人工言語の構造と機能、生成と理解のプロセスを明らかにし、自然言語や形式言語のメカニズムとその背後の認知のメカニズムを解明すること、(6)外国語習得のメカニズムを探究し、外国語教育の最適環境・政策・カリキュラム・指導法を研究し、外国語学習のための理論と実践の在り方を考究することをめざしている。

このように本学系では、認知科学、行動制御学、身体機能論、情報科学や数理科学、言語科学、外国語教育論を総合的に学ぶ。それにより、従来の理系・文系という枠を越えた幅広い探究能力と人間の認識行動の総合的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけ、社会のどのような分野においても、将来を見据えられるようになることを目指す。

### ● ● ● ● 国際文明学系 Multi-Disciplinary Studies of Civilizations ● ● ● ●

西欧において発展してきた近代主義は、政治参加の大幅な拡大、経済的な繁栄、情報の利便化、そして世界の一体化などをもたらした。その反面で、例えば市場競争の文化・生活構造および人間の感性や価値観のありかたに対する影響、グローバル化と地方文化・生活文化との矛盾、そして深刻な環境問題など、さまざまな問題を生み出している。

本学系では、近代主義について多面的な検討を加えることを念頭に、その現状に対して、政治論・経済論・法律論・社

会論・科学論・メディア論・環境論などを領域横断的に相関させた分析を加えるとともに、西洋史を通して、その歴史的背景を追求し、欧米文化の研究によって、近代主義の文化的表現の解明をめざす。また、日本史を通して、近代主義の受容以前の独自の歴史・文化を分析するとともに、いち早く近代化した日本のあり方を検討する。さらに、東アジア文化との対照を行うことで、近代主義の相対化をめざす。これらを通して、近代主義が生み出した諸問題を解決するにふさわしい、国際的で新たな文明の理念を構築することを、本学系の目的とする。

現代の社会に関する社会科学系諸分野と、日本・東洋・西洋の歴史・文化に関する諸分野の知識・方法論を総合的に修得することをめざす。これによって、既存の文系諸学部とは異なる学際的な教養と柔軟な思考を有する学生を育成する。総合的な社会科学的思考方法を身につけた人材は、新しい学際的な研究分野の開拓をめざした大学院への進学や、民間企業をはじめ官庁・自治体、出版界、中・高教員、学芸員など、多彩な方面で活躍することが期待される。

## ● ● ● ● 文化環境学系 Cultural Environment Studies ● ● ● ●

世界の各地では、地域特有の自然環境に影響を受けつつ、言語・宗教や社会・経済などの諸条件のもとに、固有の民族性や地域性が長い歴史の過程で育まれてきた。これに加えて、とくに16世紀以降、非西欧世界の諸文明は、世界化しようとする西欧文明との衝突と受容を通して、みずからの地域文明の特性を維持しながらも、伝統文化の苦悩に満ちた消長を経験してきた。

本学系は、近代文明のグローバル化が進展する現代にあつて、その基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と将来的な意義を見定める視座を打ち立てる一方で、各文明の地域的特性を多角的に比較しつつ、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を複眼的な視点から解明することをめざす。

世界の諸文明の特質を比較対照しつつ学び、それらを相対化して捉える習慣を身につける。同時に、文明社会の基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と将来的な意義についても理解を深める。人間社会に対する基本的な理解とグローバルな視点に立って、諸文明の交流を通時的かつ共時的に把握し、その交流の現場にかかわりうる包摂的能力を備えた学生を育成する。ジャーナリズム・メディア関連、地域計画関連、国際機関、図書館、博物館、官公庁、商社などの社会における主導的職種、そして、複数の専門領域に通ずることによって新たな問題提起を果敢に試みる学際性豊かな教育研究職に人材を供給する。

そのために、本学系では次の3点を教育の柱にする。

- ① 文明の問題に関しては、日本の常識がかならずしも世界の常識ではないことを理解する。
- ② 文明はたえず交わり合い変わってゆくの、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解する。
- ③ 文化や環境の諸問題を研究する上では、教室や図書館で学ぶことに加えて、現場で学ぶという姿勢が欠かせない。本学系ではフィールドワークに関するトレーニングを通して、現場で学ぶことの重要性を身につけることをめざす。

## ● ● ● ● 自然科学系 Natural Sciences ● ● ● ●

階層構造をなす自然を理解し、自然と人間との共生関係を探究するためには、一見多様で複雑に見える地球環境や物質の構造・性質、そしてヒトを含めた生物・生命現象を物理学、物質科学、生物学、地球科学的手法を用いて調べ、それらの成り立ちや物性・機能、そして変遷を明らかにすることが必要となる。さらに、その中に潜みそれらを支配している要因・基本原理を見だし、お互いの相関関係を論理的、統一的に把握することが重要となる。

本学系では、(1) 物質のもつ基本的性質を原子、分子、電子およびその集合体のレベルから理解し、それらの織りなす多様な物性現象や新奇現象の本質を解明するとともに、今日の科学技術の発展の基礎を修得し、物理学の新しい展開の方向を探究すること、(2) 様々な無機および有機物質と生体との相関を解明し、それらの機能と微視的構造を明らかにするとともに、化学反応の仕組みや制御法を研究して、優れた機能をもつ材料や目的物質を環境負荷なく創製するための基礎を養うこと、(3) DNAレベルから生態系レベルまで、各階層の生命現象と生物の機能をさぐり、また生物の多様性と進化ならびに様々な種間関係とそれらが織りなす生態系の仕組みを探究すること、(4) 自然界を構成する気圏・水圏・地圏の物質構成・構造や化学的・物理学的動態、地球・宇宙のダイナミクスを探究するとともに、宇宙の誕生から地球46億年の歴史を振り返り、地球環境および生命の変遷とその仕組みを解明すること、さらに学系全体として、自然界の森羅万象を対象として、それらを統一的に理解することを目標とする。学生は、自然科学の諸分野の基礎を系統的に学修するとともに、他の学系と連携して人間と自然との共生関係を探究するための総合的な自然観と物質観を養うことをめざす。

これらの学修を通して、基礎研究や環境問題などの総合科学に携わることのできる研究者や科学行政官、博物館学芸員、科学ジャーナリスト、理科教育者等に要請される素養を身につけることができる。また、いずれかの専門を修める場合にも、既成の個別分野にとらわれない非境界的・流動的な新しい領域を開拓できる能力を培うことが期待される。

## 教育研究上の目的

(京都大学通則第3条の3の規定による)

総合人間学部は、人間と文明と自然の結び付きに新たな次元を確立するために、人類が直面する様々な問題を人間活動の広範な諸領域を通底させる形で問い直し、これまでの人文科学、社会科学、自然科学を融合した新しい学問の体系を構築することを、すなわち、新たな「人間の学」の創出を目指す。さらに、このような学問的探求を通じて、科学技術の急速な発展と国際化の進展など著しく変化するこれからの社会に対して、持続的かつ創造的に対処しうる広い視野を持った人材を育成することを目的とする。

## 総合人間学部 ディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシー

### ● ● ● ● ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） ● ● ● ●

総合人間学部は、人間と文明と自然との新たな結びつきを見出す「人間の学」の創出をめざしています。また、この学問的追究を通して、高い倫理性と幅広い視野から創造的かつ持続的に現代の諸問題と向き合い、多様な人々と協働しながらリーダーシップを発揮する人を育成することを目的としています。これを達成するため、以下の点に到達した者に総合人間学部学士号を授与します。

1. 総合人間学部が提供する学際的な学問の場において、人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけていること。
2. 他者や異文化に対する理解を深めた上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを培っていること。
3. 多様な学問分野を学ぶ中で、自らの知的な核となる特定の分野を選択し、その理解を深めていること。
4. 主たる専門分野とは異なる、もう一つの分野も重点的に学ぶことによって、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
5. 卒業論文・卒業研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組み、一定の成果を上げていること。

### ● ● ● ● カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） ● ● ● ●

総合人間学部では、新たなる「人間の学」の創出を主軸として、卒業の認定に関する方針に示した目的を達成するために、多様な学問分野を網羅する教員陣のもとで、教養教育・基礎教育と専門教育を体系的に一体化したカリキュラムを提供します。比較的近い学問分野で構成する学系を複数設置し、各学系のコースツリーならびに個別の学問分野の履修モデルを提示することにより、カリキュラム体系の構成を具体的に示します。講義や演習等として行われる個々の授業科目の内容および、定期試験・レポート・平常点による評価方法の詳細については、シラバスに記載します。

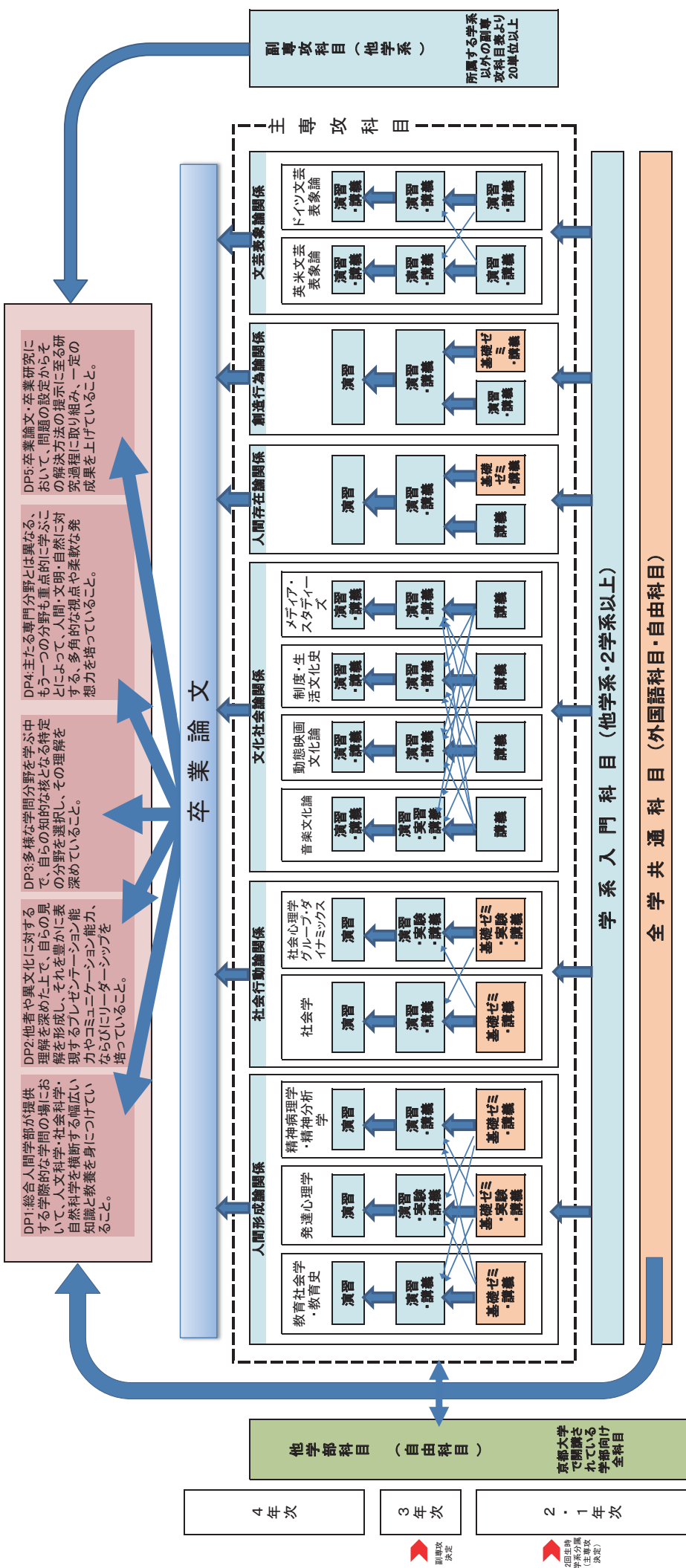
総合人間学部には、以下の指針に従って自律的に学修することを求めます。

1. 文理にまたがる多様な教養・基礎科目、複数の学系の入門科目、複数の外国語科目等を幅広く学び、人間・文明・自然に対する幅広い知識と理解力を修得し、豊かな人間性と高い倫理性を育む。
2. ゼミ・演習等の少人数科目を履修し、教養・基礎から専門の領域にわたる知識と能力を濃密な議論の中で培うとともに、他者に自らの見解を表現するためのプレゼンテーション能力および対話能力を身につける。
3. 学年の進行とともに、自らの学問的関心に応じて一つの学系を主専攻として選択して系統的に学び、自らの知的な核となる専門性を修得する。
4. 主専攻とは異なる学問分野を副専攻として系統的に学び、自らの専門分野に捉われない柔軟で重層的な思考力を養う。
5. 主専攻の分野において指導教員を選び、そのもとで卒業論文・卒業研究に取り組む。学修成果は複数の教員により審査される。こうした研究過程を通して、専門性を深めるとともに、現代の諸問題の解決に挑戦する創造的姿勢と持続力を育む。

- 人間科学系 — Human Sciences
- 認知情報学系 — Cognitive and Information Sciences
- 国際文明学系 — Multi-Disciplinary Studies of Civilizations
- 文化環境学系 — Cultural Environment Studies
- 自然科学系 — Natural Sciences



# 総合人間学部 人間科学系 コースツリー



※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

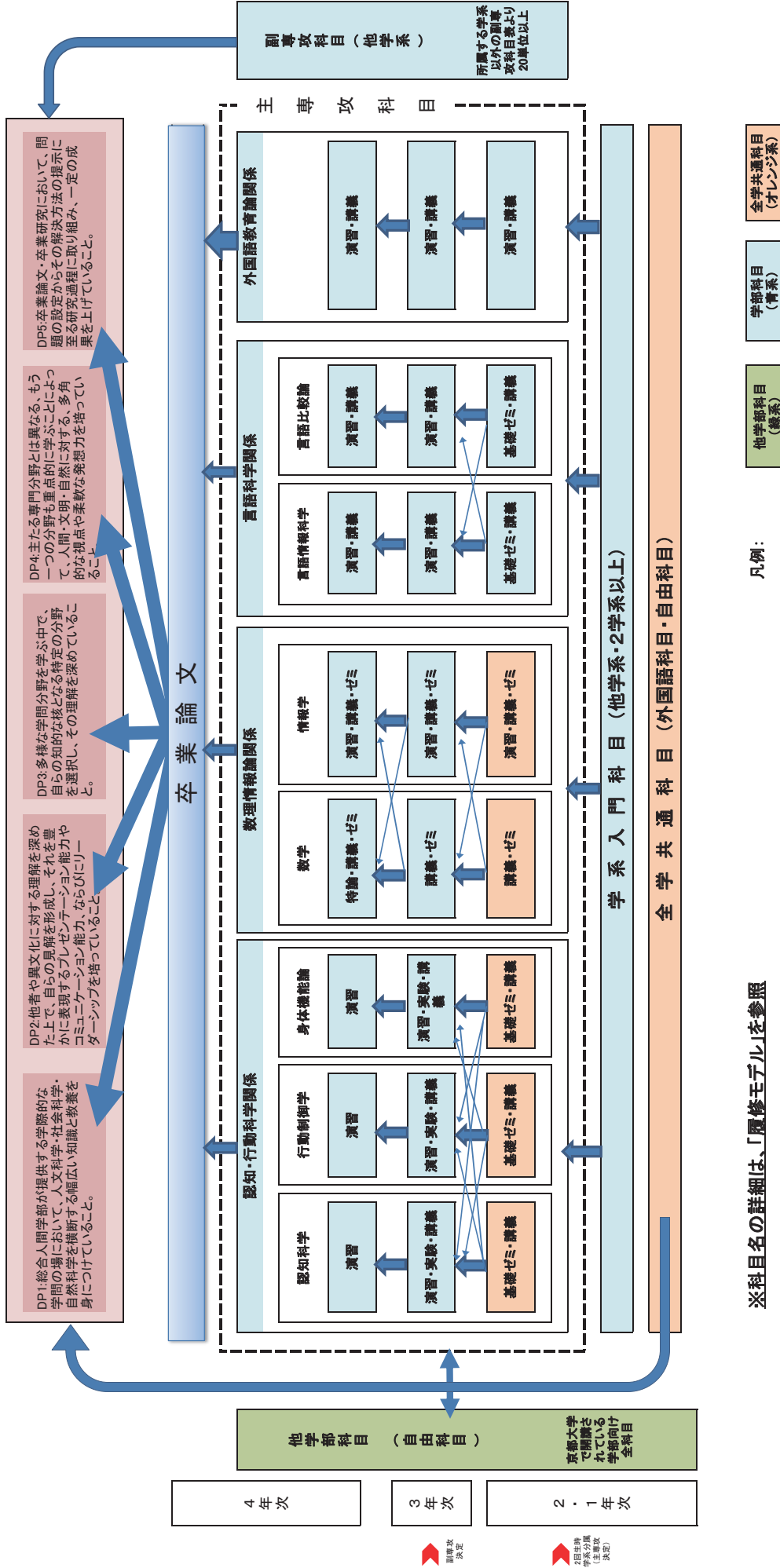
凡例:

他学系科目 (他学系)

学部科目 (書系)

全学共通科目 (オレンジ系)

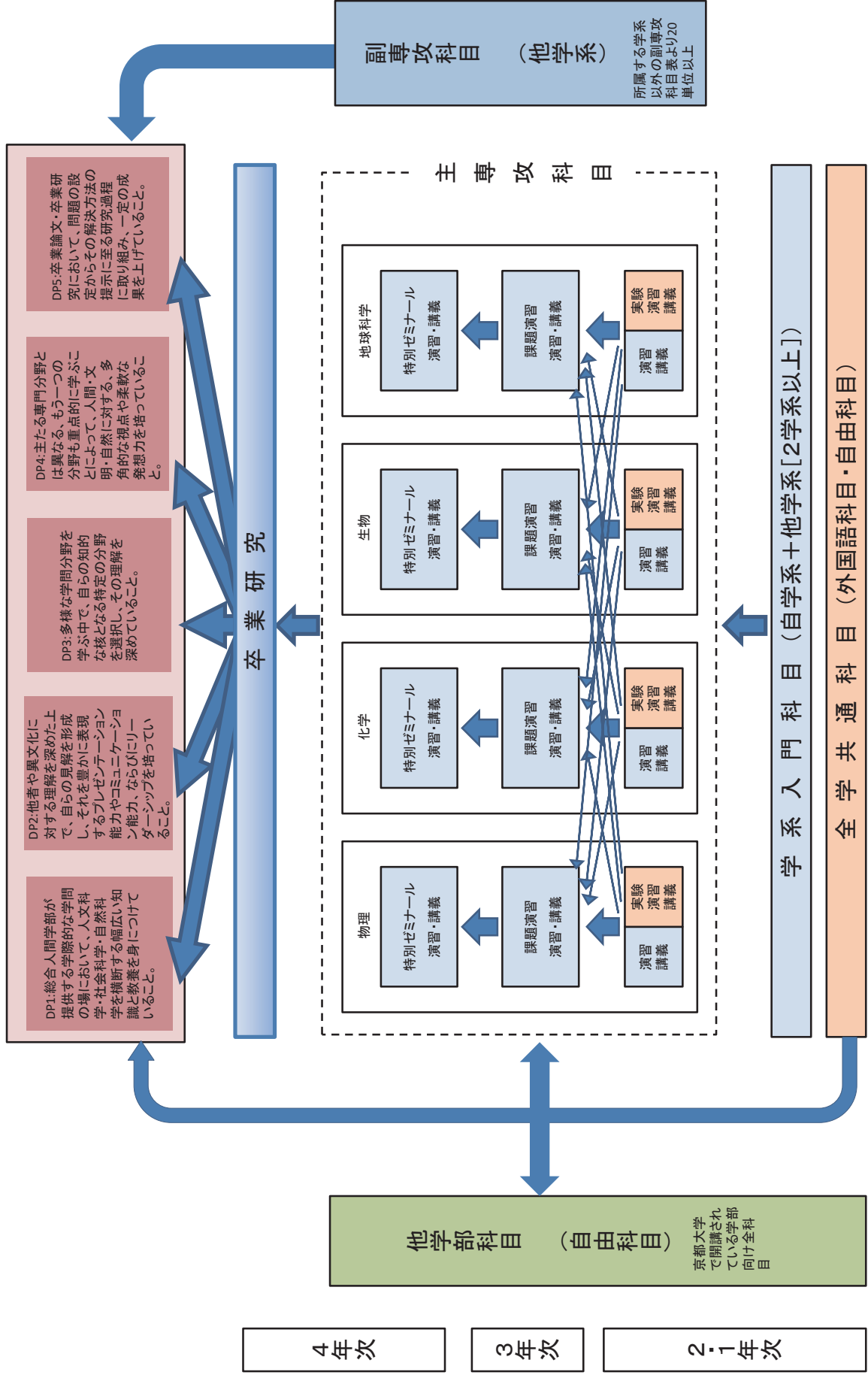
# 総合人間学部 認知情報学系 コースツリー







# 総合人間学部 自然科学系 コースツリー



※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

凡例:

他学部科目 (緑系)

学部科目 (青系)

全学共通科目 (オレンジ系)





## 総合人間学部の教育制度について

### ● ● ● ● 担任制及び教員アドバイザー制 ● ● ● ●

総合人間学部では、担任制(1回生)・教員アドバイザー制(2回生以上)を設け、学生諸君の履修上の相談と学生生活上の相談に応じています。各学年の始めにこれらの教員も参加するガイダンスを実施します。この時はもちろん、いつでも何かわからないこと等あれば、気軽に担任または教員アドバイザーに相談し、アドバイスを受けてください。

担任制により1回生の各クラスに5名の担任を配置します。受け持ちの担任の氏名については4月に掲示しますので各自確認してください。

教員アドバイザー制は、主に2・3回生の時に、履修等の相談をする教員を学生の希望により指名する制度です。教員アドバイザーは、原則として所属する学系の教員を指名し、そうでない場合は、所属する学系の教員を副として指名してください。一人の教員に希望が集中した場合は、学生の意向を聞き調整することがあります。

掲示による指示に従い、希望調査書を提出してください。

### ● ● ● ● 学系分属 ● ● ● ●

**2回生進級時に、主専攻学系への分属が決定します。**

この分属という制度は、各学系の主専攻科目の講義、演習等を履修し、4回生で指導教員の指導の下、最終的に卒業論文・卒業研究を完成させるために設けられています。

1回生の間にはできるだけ視野を広めるとともに、各学系が開講する「入門科目」などによって、各学系の特色や各教員の研究教育活動をよく観察して、初志に合うか吟味してください。

分属は、学生諸君の希望を最大限尊重しますが、学系によっては、設備の制約等のため希望者全員の分属を認めることができない場合もあります。その際の選考方法等については、必要が生じた時点で掲示等により周知します。

### <転学系について>

所属する主専攻学系を変える場合は、11月に転学系願を提出してください。許可された場合、次年度から学系が変更されます。

詳細については、毎年10月上旬に掲示で周知しますので、注意してください。

### ● ● ● ● 副専攻制度 ● ● ● ●

副専攻は、主専攻分野とは別に特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって主専攻以外の分野にも深い知識と広い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を身につける高度な一般教育の実現が期待されます。

副専攻は、【副専攻科目表】の一覧表から自身が所属する学系以外のいずれか1つを選び20単位以上を修得します。

「1つの副専攻から20単位以上」というのはかなり厳しい条件ですので、各副専攻の履修条件等をよく読み、早めに履修計画を立ててください。(副専攻届/対象:3回生全員・4回生未提出者、案内:6月中旬予定、提出:7月下旬予定)

### ● ● ● ● 指導教員(卒業論文・卒業研究の指導)の決定 ● ● ● ●

卒業論文・卒業研究は本学部を卒業するために必須です。卒業論文・卒業研究の指導を受けるために、3回生の7月に指導教員を決めて、「指導教員届」を提出します。

指導教員は、原則として総合人間学部教員(『教員プロフィール』教員一覧表に載っている教員(助教および特定教員(特定准教授、特定講師)は除く)の中から、自分の所属する学系の教員を選ぶこと。『教員プロフィール』の「卒論指導を希望する方へ」を入学時からよく読んで参考にしてください。

3回生のはじめに、「指導教員届」の提出に先立ち、「指導教員志望調査」を行います。教員アドバイザーや志望する指導教員と十分な相談をした上で、志望調査を提出してください。志望者が集中した場合は、調整を行います。(平成30年度入学者からは、教員1人あたり3名以下を目安とします。)

必要な場合には指導教員を変更することができます。また、現在の教員アドバイザーを指導教員とした場合、別途、教員アドバイザーを選択できます。

### ● ● ● ● 「研究を他者に語る」 ● ● ● ●

総合人間学部では、卒業予定学生が、自身の卒業論文・卒業研究の内容を異分野の教員に向けて発表する「研究を他者に語る」と題した取組みを行っています。自分が取り組んでいる研究の内容を異分野の教員に対して「説得的に」語ることで、学術の知とその意義を専門外の人にはわかりやすく語るコミュニケーション能力を身につけるとともに、自分の研究を相対化し客観視することで、多様かつ総合的な視点で物事を観る能力を培うことを目指します。

## 履修について

これから卒業に向けて各学系における必要単位を修得するために、この「総合人間学部便覧」を必ず精読してください。本学部の授業形態には、講義、演習、ゼミナール、実習、実験などがありますが、実際の形態は学系・関係・科目によって少しずつ異なっており、一律には定義できません。講義・演習・ゼミナールは半期単位で1講時(2時間)2単位です。また実験・実習(一部の演習を含む)は半期1講時で1単位ですが、多くの場合2講時連続で実施され、2単位となっています。

履修登録は、原則として前期(4月)・後期(10月)の2回実施されます。前期には前期・通年・前期集中・通年集中の科目を、後期には後期・後期集中の科目を、KULASISにより履修登録してください。

全学共通科目については、「全学共通科目履修の手引き」を必ず精読してください。全学共通科目は複数群から構成されていますが、本学部では外国語科目群(必修)の履修以外は、特に群指定していません。履修登録等においては、国際高等教育院の全学共通科目学生窓口の掲示・KULASIS等に注意し指示に従ってください。

なお、令和2年度以降入学者については、前期・後期それぞれ履修科目として登録することができる上限単位数は、30単位となっています。(後掲の「総合人間学部における履修登録単位数の上限に関する内規」を参照)

### ● ● ● ● 履修上の注意事項 ● ● ● ●

・ 総合人間学部科目の履修において、1回生に配当された科目は1年次に履修しておくことが望まれます。履修していない場合、学系によっては3回生以上に配当された科目の履修が困難になる場合も生じますので、注意してください。

2・3回生においては、卒業に必要な学部科目の大半を履修し、4回生においては、卒業論文・卒業研究の作成に充てる十分な時間を確保することが望まれます。

・ 本便覧に掲載の【卒業判定基準単位数】・【主専攻科目表】・【副専攻科目表】を参照のうえ、履修してください。

・ 総合人間学部科目・全学共通科目等の授業内容等については、KULASISよりシラバスを参照してください。

・ 実験・実習科目の中には、履修可能人数の制約上、履修登録に先立って受講手続きをする必要があるものもあります。これらの科目については、前期または後期の初めに掲示等で詳細を案内しますので、必要な手続きを済ませたうえで履修登録を行ってください。

・ 総合人間学部の主専攻科目表に掲載された学部科目の中には、全学共通科目として提供しているものがあります。このような科目を履修する場合、全学共通科目としてではなく、総合人間学部科目として履修登録してください。

・ 原則として、同じ授業科目名(科目名変更した科目を含む)の科目を2つ以上修得した場合、修得期が早いものの単位を卒業に必要な単位として数え、それ以降に修得したものの単位は卒業に必要な単位として数えられません。ただし、重複履修が認められている科目(主専攻科目表に明示)は、この限りではありません。

・ 他学部科目の履修を希望する場合は、所定の期間(掲示で周知)にKULASIS>「他学部聴講」タブから登録してください。

なお、学部によっては、各学部教務掛窓口での手続きを必要とする場合がありますので、各自において当該学部掲示及び窓口で確認してください。

### ● ● ● ● 学生教育研究災害傷害保険(学研災)について ● ● ● ●

学生教育研究災害傷害保険(略称:学研災)は、正課中、学校行事中、課外活動中、これらに伴う通学中等の事故において、学生が被った傷害に対し適用される保険であり、学生生活を送るうえで重要な役割を果たします。また、学研災の付帯保険として、上記活動中(一部除く)に学生が被った法律上の損害賠償責任(対人・対物)を対象とする学研災付帯賠償責任保険(略称:付帯賠償)があります。

本学では入学の際、原則として学研災・付帯賠償に全員が加入することになっています。

入学時に加入していない学生は下記URLを参照して加入してください。

\* 実験、実習、インターンシップ等の履修にあたり、加入が必要となる場合があります。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campuslife/Insurance>

● ● ● ● ● 卒業判定基準単位表 ● ● ● ● ●

科目区分		履修区分	単位数	備考
主専攻	主専攻科目	選択必修	48	所属する学系の主専攻科目表より。【注1～3】 以下の学系については、次の条件を付す。 ・人間科学系：「講義以外の科目」8単位以上を修得すること。 ・国際文明学系：「総合人間学部科目の講義科目」24単位以上、「基礎演習・基礎ゼミナール科目」4単位以上、および「演習科目」4単位以上を修得すること。 ・自然科学系：「演習科目（基礎演習は含まない）」8単位以上、「総合人間学部科目の課題演習科目」8単位以上を修得すること。
	卒業論文／卒業研究	必修	12	【注4】
	「研究を他者に語る」	必修*	—	「研究を他者に語る」の項を参照。 *平成29年度以前入学者については、実施を推奨する。
副専攻		選択必修	20	所属する学系以外の副専攻より。 副専攻科目表参照。 副専攻番号①～⑩については、講義以外の科目を4単位以上含むこと。
学系入門科目		選択必修	4	所属する学系以外の入門科目より。 2学系以上にわたること。
外国語科目		選択必修	24	全学共通科目の外国語科目群より。 1外国語から12単位以上と その他の1または2外国語から12単位以上。 ・外国人留学生のみ「日本語」を選択することができる。（詳細は、「全学共通科目履修の手引き」の「外国語の履修について」に記載されている「日本語」の頁を参照。） ・外国人留学生（Kyoto iUPの学生を含む）の母語の科目は、外国語科目に含まれない。 ・全学共通科目各群のE科目で修得した単位を英語の単位に含めることができる。英語から12単位を履修する場合は、英語(リーディング)4単位、英語(ライティング・リスニング)A・B各2単位を含むこと。
自由科目		選択必修	32以上	京都大学において、学部学生向けに開講されているすべての科目より。【注5～6】 各科目区分（自由科目を除く）の所定の単位数を超えた単位は、自由科目へ算入される。
合計単位数			140	

【注1】 所属する学系の入門科目（主専攻科目に含まれる）の履修も強く推奨する。

【注2】 学系主任等の認定を受けた「他学系・他学部の学部専門科目」および留学により修得した単位は、16単位まで主専攻に含めることができる。手続きは卒業見込年度9月頃の「修得単位科目区分変更届」の提出による。なお、留学により修得した単位の認定を希望する場合は必ず留学前に所定の手続きを行うこと。これら詳細は22ページを参照すること。

【注3】 「学部特殊講義」については、主専攻または副専攻として認めるものがあるので、「特殊講義(学部共通)科目表」を参照のこと。

【注4】 卒業論文・卒業研究のための演習を課す場合があるので、指導教員に確認のうえ履修すること。

【注5】 教育職員免許状「保健体育」取得に必要な体育実技Ⅱ、教育学部開講の教職に関する科目および学芸員等の資格取得に必要な科目については、本学部の卒業単位に含まれない。なお、公認心理師の資格取得に必要な科目については、本学部の卒業単位に含むことができる。

【注6】 「既修得単位」については、留学により修得した単位と合わせて30単位まで外国語科目または自由科目として認定することができる。ただし、外国語科目としての認定は、平成30年度以前入学者とする。

## ● ● ● ● 履修登録について ● ● ● ●

毎学期始めの指定の期間に、単位を得ようとする授業科目について履修登録を行わなければなりません。履修登録のない科目については、原則として単位は認定されません。また、試験等の受験も認められません。

### ● 履修登録

履修登録手続きは、履修登録期間にKULASISより履修登録し、履修登録確認・修正期間に必ず確認のうえ、必要に応じて追加・修正してください。

詳細は学部教務掛掲示板・KULASISに掲示しますので、その指示に従ってください。

◎前期登録(登録科目:前期・通年・前期集中・通年集中)

◎後期登録(登録科目:後期・後期集中)

**時間割作成期間**(履修候補科目を設定)

※この期間に履修する候補科目を予め設定して時間割を作成し履修登録の準備を行います。履修登録は、履修登録期間に行ってください。

※他学部科目を履修する場合は、他学部聴講申請期間にKULASIS>他学部聴講のタブより申請を行ってください。また、当該科目の開講学部教務担当窓口でも、その他手続き等有無の確認を必ず行ってください。

**履修登録期間**(履修登録科目を決定)

※集中講義も登録してください。登録不備科目があっても、この時点ではエラー表示されません。

履修登録確認・修正期間に必ず確認し、「履修登録入力確認リスト」を保管しておいてください。

**履修登録確認・修正期間**

※不備のあった場合はエラー科目として表示されます。ただし、修正期間中に修正した科目の再確認はできません。

修正のない場合は「履修登録確認表」を、修正した場合は「履修登録入力確認リスト」をプリントアウトし保管しておいてください。この期間以降は修正できません。

**履修登録確定** My Pageの時間割には履修登録された科目のみ表示します。

### ● 履修取消制度

学期の途中に科目の履修登録を取り消すことができる「履修取消制度」を導入しています。

(1) 取消手続きについて

原則として、履修取消期間中に KULASIS において学生本人が履修取消を申請します。

(2) 履修取消期間

学部教務掛掲示板・KULASISに掲示しますので、その指示に従ってください。

(科目の特別な事情に応じてこの期間以外に取消を認める場合があります)

(3) 履修取消を認めない科目

開講学部により履修取消を認めない科目がありますので、各学部教務掛に問い合わせてください。

(4) 履修取消の特例

病気・事故等により長期間にわたって授業に出席できないなどのやむを得ない事由がある場合に限り、特例として履修取消を認める場合があります。詳しくは学部教務掛窓口にお問い合わせください。

(5) 不受験科目の取扱い

成績判定時点で履修登録されているすべての科目を成績評価の対象とします。

すなわち、受験しなかった試験または提出しなかった課題等に対して最低評価を与えたうえで、シラバスに記載された成績評価基準に従って成績評価を行います。

※例:シラバスの成績評価方法・観点及び達成度に「小テスト40点満点、レポート20点満点、期末試験40点満点」と記載されている科目において、期末試験を受験しなかった学生の成績は、期末試験0点とした上で評価する。

## 「総合人間学部の定期試験に関する実施要領」

総合人間学部の定期試験の実施に関しては「総合人間学部試験及び単位認定に関する内規」による他、この実施要領の定めるところによる。

なお、全学共通科目については「全学共通科目の定期試験に関する実施要領」によるものとする。

1. 試験は、原則としてアカデミックカレンダーの前期試験、後期試験の期間内に行う。
  2. 試験は、原則として授業時間割と同じ曜日・時限で実施する。
  3. 試験時間は60分を原則とする。ただし、担当教員の判断により90分以内で適宜行うことができる。
  4. 試験開始後20分以上遅刻した者は、試験室への入室を許可しない
  5. 試験開始後30分経過するまでは、試験教室からの中途退出を許可しない。
  6. 受験に際しては、学生証を机上に提示させる。  
なお、学生証を携帯していない者は、仮受験票により受験させる。仮受験票の発行は学部教務掛で行う。
  7. 長机のある教室においては、原則として一列おきに着席させる。
  8. 試験監督及び試験問題・解答用紙の準備については、担当教員の責任で行う。
  9. 試験中に不正行為があれば、担当教員は学部教務掛へ連絡し、教務委員立会いのうえ行為者に確認書を作成させる。
  10. 教務委員は定期試験中交代で待機することとする。
  11. 不正行為の措置については、「総合人間学部の試験における不正行為者に対する措置について」及び「総合人間学部の試験における不正行為者に対する措置手順」により行う。
  12. 期間外試験及びレポート試験については、各教員の判断で実施することとし、あらかじめ試験調査書に記入する。
- ・ 受験に際して不正行為があった場合、当該年度の全履修科目を無効にする等の措置を行います。
  - ・ 追試験は原則として行いません。ただし、次の場合はそれぞれ担当教員の判断により実施することがあります。
    - (1) 履修授業科目の試験日時が重複した場合。ただし、事前に願出したものに限る。
    - (2) 負傷又は疾病による場合。ただし、医師の診断書により証明されたものに限る。
    - (3) その他不可抗力による場合。
  - ・ 不合格になった科目の再試験は行いません。

(趣旨)

第1条 この要項は、京都大学（以下「本学」という。）の学生の安全確保のため、災害その他の本学学生の安全確保が必要な事態（以下「災害等」という。）が発生し、又は発生するおそれのある場合における授業及び定期試験（以下「授業等」という。）の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

（気象警報等又は交通機関の運休による休講等の措置）

第2条 本学は、災害等が発生し、又は発生するおそれのある場合は、次表に定めるところにより、対面により行う授業（京都大学通則（昭和28年達示第3号。以下「通則」という。）第3条第3項により行う授業を除く。）の休止又は定期試験延期の措置（以下「休講等の措置」という。）をとる。

キャンパス	基準	授業等の取扱い
吉田 キャンパス	京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報若しくは暴風雪警報（以下「気象警報等」という。）が発表された場合	別表1に定めるところによる。
	京都市営バスが災害等の発生又は発生のおそれにより、全面的に運休した、又は計画運休（自然災害による被害を未然に防ぐために交通機関があらかじめその運休を決定し、実施することをいう。以下同じ。）する場合	運休 別表1に定めるところによる。  計画運休 別表2に定めるところによる。
	JR西日本（京都線の京都駅～大阪駅間、琵琶湖線の長浜駅～京都駅間、湖西線の近江塩津駅～京都駅間、奈良線の京都駅～奈良駅間及び嵯峨野線の京都駅～園部駅間）、阪急電鉄（京都線の京都河原町駅～大阪梅田駅間）、京阪電鉄（京阪本線・鴨東線・中之島線の出町柳駅～淀屋橋駅又は中之島駅間）、近畿日本鉄道（京都線の京都駅～大和西大寺駅間）及び京都市営地下鉄（烏丸線の国際会館駅～竹田駅間、東西線の六地藏駅～太秦天神川駅間）のうち、2以上の交通機関が災害等の発生又は発生のおそれにより、全面的に又は部分的に運休した、又は計画運休する場合	
宇治 キャンパス	宇治市又は宇治市を含む地域に気象警報等が発表された場合	別表1に定めるところによる。
	JR西日本（奈良線の京都駅～奈良駅間）及び京阪電鉄（宇治線の中書島駅～宇治駅）の全ての交通機関が災害等の発生又は発生のおそれにより、全面的に又は部分的に運休した、又は計画運休する場合	運休 別表1に定めるところによる。  計画運休 別表2に定めるところによる。
桂 キャンパス	京都市又は京都市を含む地域に気象警報等が発表された場合	別表1に定めるところによる。
	京都市営バス、京阪京都交通バス及びヤサカバスの路線のうち、教育担当理事（以下「担当理事」という。）が別に定める路線が災害等の発生又は発生のおそれにより、全面的に運休した、又は計画運休する場合	運休 別表1に定めるところによる。  計画運休 別表2に定めるところによる。
	JR西日本（京都線の京都駅～大阪駅間）及び阪急電鉄（京都線の京都河原町駅～大阪梅田駅間）の全ての交通機関が災害等の発生又は発生のおそれにより、全面的に又は部分的に運休した、又は計画運休する場合	

2 前項の場合において、担当理事は、各部局の事情を考慮して、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスの全部又は一部において授業等の実施が可能と判断したときは、当該キャンパスの関係する部局の長と調整の上、当該キャンパスの全部又は一部の休講等の措置を終了する。

3 担当理事に事故があるときは、あらかじめ総長が指名する理事が、前項の規定に準じて休講等の措置を終了

するものとする。

- 4 担当理事又は前項の総長が指名する理事は、前2項の規定により休講等の措置を終了した場合は、速やかに総長に報告するものとする。

(理事の判断による休講等の措置)

第3条 前条に定めるもののほか、担当理事は、各部局の事情を考慮して、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスの全部又は一部において学生の安全確保のため休講等の措置をとる必要があると判断したときは、当該キャンパスの関係する部局の長と調整の上、当該キャンパスの全部又は一部において休講等の措置をとることができるものとする。

- 2 担当理事に事故があるときは、あらかじめ総長が指名する理事が、前項の規定に準じて休講等の措置をとるものとする。
- 3 担当理事又は前項の総長が指名する理事は、前2項の規定により休講等の措置をとった場合は、速やかに総長に報告するものとする。
- 4 前条第2項から第4項までの規定は、第1項及び第2項の規定による休講等の措置をとった場合の当該措置の終了及び総長への報告について準用する。

(危機対策本部を設置した場合における休講等の措置)

第4条 前2条に定めるもののほか、本学は、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスを含む地域で震度6弱以上の地震が発生した場合、危機管理計画に基づき、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスにおいて、当分の間、休講等の措置をとる。

- 2 前項に定めるもののほか、京都大学危機管理規程(平成23年達示第64号)第9条第1項に基づき危機対策本部が設置され、当該危機対策本部の本部長(以下「本部長」という。)が学生の安全確保のため必要があると判断した場合は、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスの全部又は一部において、当分の間、休講等の措置をとる。
- 3 前2項の規定により休講等の措置をとった場合の当該措置の終了は、本部長が危機対策本部の設置の原因となった災害等に係る諸状況を勘案して決定する。
- 4 第2条第2項及び第3項並びに前条第4項の規定にかかわらず、前2条の規定による休講等の措置後、当該措置を終了するまでの間に、当該措置の原因となった災害等に関連して危機対策本部が設置された場合の当該措置の終了は、本部長が、当該災害等に係る諸状況を勘案して決定する。

(休講等の措置の周知方法)

第5条 前3条の規定による休講等の措置及び当該措置の終了については、KULASIS 及び本学ホームページ等を通じて、学生及び関係者に周知する。

(定期休業日に行う授業の休止の措置)

第6条 通則第3条第3項の定期休業日に行う授業の休止の措置に関し必要な事項は、当該授業を開講する部局の長が定める。

(通学が困難な場合の救済措置)

第7条 第2条から第4条までの規定による休講等の措置をとらない場合であっても、次の各号のいずれかに該当する事態が発生したことにより学生が授業等に出席できなかったときは、当該学生からの所定の欠席届の提出により、部局長は当該学生に対して必要な措置をとることができる。

- (1) 居住地を含む地域における震度6弱以上の地震の発生
- (2) 居住地を含む地域における避難指示の発令
- (3) 居住地を含む地域における気象警報等の発表
- (4) その他居住地を含む地域又は通学経路における前3号に準ずる災害等の発生

(休講等の措置の代替措置)

第8条 災害等の発生又は発生のおそれにより休講となった授業は、原則として補講を行うものとする。ただし、授業担当教員の判断により、レポートその他の当該授業に相当する学修を課すこと等により代替措置とすることができる。

- 2 災害等の発生又は発生のおそれにより延期となった定期試験の実施方法は、必要に応じて部局間で調整を行った上で、当該定期試験を実施する部局が定める。

(その他)

第9条 この要項に定めるもののほか、災害等が発生し、又は発生するおそれのある場合の授業等の取扱いに関し必要な事項は、担当理事が定める。

附 則

この要項は、平成31年3月12日から実施する。

附 則

この要項は、令和7年4月1日から実施する。

別表1

1・2時限の授業等の取扱い

状況	授業等の取扱い
(1) 午前6時30分の時点で気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生している場合	1・2時限は、休講等の措置をとる。
(2) 午前6時30分から午前8時45分までの間に気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生することとなった場合	
(3) 午前8時45分から午前10時30分までの間に気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生することとなった場合	2時限は、休講等の措置をとる。 1時限の授業等はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、1時限の途中からでも休講等の措置をとる。
(4) 午前10時30分から午前12時00分までの間に気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生することとなった場合	2時限の授業等はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、2時限の途中からでも休講等の措置をとる。

3・4・5時限の授業等の取扱い

状況	授業等の取扱い
(1) 午前6時30分から午前10時30分までの間に気象警報等が解除され、又は交通機関の運休が終了した場合	3・4・5時限は、授業等を実施する。
(2) 午前10時30分の時点で気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生している場合	3・4・5時限は、休講等の措置をとる。
(3) 午前10時30分から午後1時15分までの間に気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生することとなった場合	
(4) 午後1時15分から午後3時00分までの間に気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生することとなった場合	4・5時限は、休講等の措置をとる。 3時限の授業等はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、3時限の途中からでも休講等の措置をとる。
(5) 午後3時00分から午後4時45分までの間に気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生することとなった場合	5時限は、休講等の措置をとる。 4時限の授業等はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、4時限の途中からでも休講等の措置をとる。
(6) 午後4時45分から午後6時15分までの間に気象警報等が発表され、又は交通機関の運休が発生することとなった場合	5時限の授業等はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、5時限の途中からでも休講等の措置をとる。

別表 2

状況	授業等の取扱い
(1) 午後 0 時 3 0 分より前に計画運休が開始される場合	第 2 条第 2 項に規定する休講等の措置の終了の時まで休講等の措置をとる。
(2) 午後 0 時 3 0 分から午後 2 時 4 5 分までの間に計画運休が開始される場合	第 1 時限は授業等を実施し、第 2・3・4・5 時限は第 2 条第 2 項に規定する休講等の措置の終了の時まで休講等の措置をとる。
(3) 午後 2 時 4 5 分から午後 5 時 0 0 分までの間に計画運休が開始される場合	第 1・2 時限は授業等を実施し、第 3・4・5 時限は第 2 条第 2 項に規定する休講等の措置の終了の時まで休講等の措置をとる。
(4) 午後 5 時 0 0 分から午後 6 時 4 5 分までの間に計画運休が開始される場合	第 1・2・3 時限は授業等を実施し、第 4・5 時限は第 2 条第 2 項に規定する休講等の措置の終了の時まで休講等の措置をとる。
(5) 午後 6 時 4 5 分から午後 8 時 3 0 分までの間に計画運休が開始される場合	第 1・2・3・4 時限は授業等を実施し、第 5 時限は第 2 条第 2 項に規定する休講等の措置の終了の時まで休講等の措置をとる。



$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{(在学全期間においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の GP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{在学全期間においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{(当該学期においてGPA算入科目のうち履修登録科目した科目の GP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{当該学期においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

#### (4) GPA の表示

成績表には、不合格となった科目も含めた全ての履修単位に係る成績、「学期 GPA」及び「累積 GPA」を記載します。ただし、不合格となった科目において、再度履修し合格となった場合は不合格を含みません。

成績証明書には、修得した科目の成績のみを記載し、原則として GPA は記載しません。ただし、特に必要がある場合に限り、累積 GPA ならびに在学全期間において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数を記載した成績証明書を学部教務掛窓口で発行します。(証明書自動発行機では発行されません。)

## ● ● ● ● 卒業論文・卒業研究について ● ● ● ●

卒業論文・卒業研究は本学部を卒業するために必須です。卒業論文・卒業研究の指導を受けるためには、必要な要件があります。その要件は各学系(またはその中の教員、またはそのグループ)により異なりますので、教員アドバイザー(2・3回生)、または指導教員(3・4回生)とよく相談し、卒業論文・卒業研究の指導を受けるために必要な単位を修得してください。

### ● 題目提出

卒業見込年度の5月に指導教員から題目の照会がありますので、指示に従い、題目について相談を行ってください。詳細については別途掲示します。

題目変更がある場合には、論文提出時に指導教員の承認を得たうえで学部教務掛に報告してください。

### ● 作成・提出

- ① 「卒業論文・卒業研究」は卒業見込者のみ提出できる。
- ② 「卒業論文・卒業研究」に用いる言語は、日本語、外国語のいずれでもよい。
- ③ 日本語以外の言語を用いた場合は、表題に日本語の表題を併記し、日本語の要旨を付けること。
- ④ 用紙サイズはA4判とし、横書き、縦書きのいずれでもよい。
- ⑤ 提出の際、必ず1200字以内の要旨と目次を付け、ページ数を記載すること。
- ⑥ 表紙は必ず簡易表紙を使用し、所定用紙に卒業論文・卒業研究題目、入学年、主専攻学系、氏名、指導教員名を記載して、表紙全面に貼り付けること。
- ⑦ 「卒業論文・卒業研究」の提出部数は原則として3部とする。ただし、特に指示して4部以上とすることがある。
- ⑧ 参考資料は可能な限り「卒業論文・卒業研究」に綴り込み、別綴じする場合は本文の提出部数分を添付すること。
- ⑨ 「卒業論文・卒業研究」は、1月13日(水)～1月20日(水)16時00分の期間に提出すること(厳守)。これ以降は受け取らない。ただし、4年を超えて在学している者については、これ以外の時期に提出することを認める場合がある。
- ⑩ その他、学系(あるいは指導教員)ごとに指示する場合がありますので、指導教員に確認すること。

### ● 審査等

- ① 卒業論文・卒業研究の審査に当たっては、主査(主たる指導教員)が副査を選出し、複数で行なわれます。
- ② 審査の実施時期・方法等については、当該学系で決定します。
- ③ 卒業論文・卒業研究の発表会は公開で行います。その実施方法等については、当該学系で決定し、掲示で周知します。
- ④ 可否判定は当該学系会議で行い、学部教務委員会に報告されます。

※通常卒業月は3月ですが、卒業要件を満たした者については、6月、9月、12月の卒業を認めることがあります。希望者は指導教員と相談のうえ、卒業希望月の4ヶ月前の月末までに、手続きの詳細について学部教務掛に照会してください。照会が遅れた場合は、すみやかに学部教務掛に相談してください。

## ● ● ● ● 「研究を他者に語る」について ● ● ● ●

「研究を他者に語る」は、卒業予定学生が、自身の卒業論文・卒業研究の内容を異分野の教員(聞き役教員)に「説得的に」語ることを通じて、学術の知とその意義を専門外の人にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力を身につけるとともに、異分野の教員との議論を通じて自分の研究を相対化し客観視することで、多様かつ総合的な視点で物事を観る能力を培うことを目的とした制度です。

平成30年度以降入学生は、「研究を他者に語る」の実施が必修となっています。実施しない場合、卒業が認められません。

### ● 語る内容について

研究上の前提や概念などを共有していない専門外の教員が聞き役教員となります。そのことを十分に考慮した上で、自分の研究にどのような意義があるのか、何を目指しているのか、どのような問題意識を持って研究に取り組んでいるのか、などの点を専門外の人に分かりやすく伝えることを目指してください。

研究の具体的な中身や詳細な論理をすべて理解してもらうことを目指す必要はありません。

発表の良否が卒業判定に影響を及ぼすことはありません。

※実施方法等の詳細については、今後さらに見直す可能性もあるため、ガイダンス、掲示等、ならびに指導教員からの連絡に注意してください。

## ● ● ● ● 修得単位科目区分変更について ● ● ● ●

指導教員等の認定を受けた「他学系・他学部の学部専門科目」は、16単位まで主専攻科目に区分変更することができます。ただし、留学により主専攻科目として修得した単位がある場合は、その単位とあわせて16単位までです。手続きは卒業見込年度9月頃に「修得単位科目区分変更届」を学部教務掛に提出してください。詳細は7月頃に掲示します。

また、以下に挙げる、主専攻科目区分以外への変更についても、上記手続きと同じ時期に「修得単位科目区分変更届」を提出することにより行うことができます。

- ・主専攻科目から副専攻科目への区分変更  
(注)主専攻、副専攻の両方で認められている科目に限る
- ・主専攻科目または副専攻科目から外国語科目(英語)への区分変更  
(注)主専攻または副専攻で認められているE2科目に限る
- ・自由科目から副専攻科目への区分変更  
(注)自由科目に入っている特殊講義のうち副専攻で認められている科目に限る
- ・入門科目から副専攻科目への変更(副専攻が複合領域の場合)  
(注)入門、副専攻の両方で認められている科目に限る

## ● ● ● ● 留学により修得した単位の認定について ● ● ● ●

留学により修得した単位は、会議で認定された場合、主専攻科目、自由科目、外国語科目に合わせて30単位(既修得単位がある場合は既修得単位を30単位から引いた単位数)まで含めることができます。このうち、主専攻科目には、他学系・他学部の専門科目と合わせて16単位まで含めることができます。ただし、外国語科目としての認定は、平成30年度以前入学者とします。手続きについてはKULASISに掲示していますので、単位の認定を希望する場合は必ず留学前に所定の手続きを行ってください。

● 総合人間学部規程

(平成4年10月1日達示第25号制定)

第1 学科

第1条 本学部の学科は、次に掲げるとおりとする。

総合人間学科

第2 入学

第2条 入学者の選抜方法は、教授会で定める。

2 京都大学通則(昭和28年達示第3号。以下「通則」という。)第4条第1項ただし書の規定による入学に関する事項は、教授会で定める。

第3条 入学候補者の決定は、教授会で行う。

第3 修学

第4条 授業は、学部科目及び全学共通科目を必須科目、選択科目及び自由科目に分けて行う。

第5条 学部科目及び全学共通科目の単位数、配当及び授業時間数は、別に定めるところによる。

第5条の2 1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限に関する事項は、教授会で定める。

第6条 通則第19条の規定により他学部の科目を履修しようとする者は、学年の始め又は学期の初めに学部長に願い出て、当該学部の学部長の許可を受けるものとする。

第7条 通則第20条第1項の規定により他の大学又は短期大学の科目を履修しようとする者には、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第8条 通則第20条第2項又は第4項の規定により外国の大学又は短期大学に留学し、その科目を履修しようとする者には、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第9条 修学期間は、4年とする。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次に入学した者の修学期間は、2年とする。

第4 試験

第10条 試験は、科目試験及び論文試験とする。

2 科目試験は、受験の申出をした者に対して行う。

3 論文試験は、所定の科目試験に合格した者に対して行う。ただし、論文題目は、受験科目の範囲内に限る。

第11条 前条の論文は、教授会の指定した教員が審査する。

第12条 試験実施の期日その他については、あらかじめ告知する。

第5 学士の学位授与

第13条 4年以上在学し、学部の定めるところにより、140単位以上を修得した者は、学士試験に合格した者とし、通則第54条に定める学士の学位を授与する。

2 次の各号に掲げる単位数は、教授会の議を経て、前項の単位数に算入することができる。

(1) 第6条、第7条及び第8条の規定により他学部並びに他の大学又は短期大学及び外国の大学又は短期大学において履修し修得した単位数

(2) 通則第21条第1項の規定により短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修により履修し修得した単位数

(3) 通則第22条第1項の規定により本学に入学する前に大学又は短期大学において履修し修得した単位数(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条に定める科目等履修生として修得した単位数を含む。)

(4) 通則第22条第2項の規定により本学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修により履修し修得した単位数

3 第15条の規定により本学他学部又は他大学から本学部に転学した場合における転学前に履修し修得した単位数は、教授会の議を経て、第1項の単位数に通算することがある。

4 第1項の規定にかかわらず、第3年次に入学した者の学士の学位授与に必要な単位数は、別に教授会で定める。

5 第2項第3号の規定により科目等履修生として修得した単位数を第1項の単位数に算入するときは、通則第22条第4項の規定により、教授会の議を経て、一定の期間を第9条第1項の修学期間に通算することがある。

第6 在学

第14条 在学は、8年を超えることができない。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次に入学した者の在学は、4年を超えることができない。

## 第7 転学及び転科

第15条 本学他学部学生若しくは他大学の学生で本学部に転学を志望する者又は本学部学生で転科若しくは他学部に転学を志望する者があるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

## 第8 科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生

第16条 通則第61条第1項の規定により科目等履修生として入学を志望する者には、教授会の議を経て、入学を許可することがある。

第17条 通則第63条第1項の規定により特別聴講学生として入学を志望する者には、教授会の議を経て、入学を許可することがある。

## 第9 研究生

第18条 特定事項の研究を志望する者があるときは、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生の取扱いその他については、京都大学研究生規程(昭和50年達示第37号)による。ただし、在学期間満了後更に研究を継続したい者には、その願い出により、教授会の議を経て、期間の延長を許可することがある。

## 附 則

この規程は、平成4年10月1日から施行する。

[中間の改正規程の附則は、省略した。]

1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。

2 改正後の第13条第1項の規定は、この規程施行の日以後に入学した者から適用し、同日前に入学した者については、なお従前の例による。

[中間の改正規程の附則は、省略した。]

## 附 則

1 この規程は、平成15年6月4日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

2 人間学科、国際文化学科、基礎科学科及び自然環境学科は、改正後の第1条の規定にかかわらず、平成14年度以前に当該学科に入学した者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 人間学科、国際文化学科、基礎科学科及び自然環境学科は、改正後のこの規程にかかわらず、平成14年度以前に当該学科に入学した者が当該学科に在学しなくなる日までの間、当該学科に学科長を置くものとする。

## 附 則

この規程は、平成16年7月30日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

## 附 則

この規程は、平成25年12月26日から施行し、平成25年12月1日から適用する。

## 附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

## 附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

## 附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

## ● 総合人間学部における履修登録単位数の上限に関する内規

(令和2年2月20日学部教授会決定)

### (趣旨)

第1条 本内規は、京都大学総合人間学部規程(平成4年達示第25号)第5条の2の規定に基づき、総合人間学部(以下「本学部」という。)において学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限(以下「上限単位数」という。)に関し、必要な事項を定める。

### (上限単位数)

第2条 上限単位数は、30単位とする。

### (通年開講科目の取扱い)

第3条 通年開講科目については、その単位数の2分の1を1学期分の単位数として扱い、当該学期の履修登録単位数を計算する。

### (上限単位数の特例)

第4条 第2条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者については、第2条に定める上限を超えて履修科目の登録を認

めることができる。

(1) 特に優秀な学修成果をあげたと本学部の長が認めた者

(2) 前号に掲げる者のほか、本学部の長が認めた者

(対象科目)

第5条 上限単位数の対象となる授業科目は、卒業要件に算入することができる全ての授業科目(別表に定める授業科目を除く。)とする。

(その他)

第6条 この内規に定めるもののほか、上限単位数に関し必要な事項は、本学部教務委員会が定める。

#### 附 則

この内規は、令和2年4月1日から施行し、同日以後に本学部に入学者を対象としたカリキュラムが適用される学部学生から適用する。

#### 別表

対 象 外 科 目
授業期間外に行われる集中形式で実施する科目
本学のカリキュラムとは別に他大学等で履修する授業科目

#### 「総合人間学部における履修登録単位数の上限に関する内規」の運用に関する申合せ

(令和3年6月24日学部教務委員会決定)

(令和7年5月29日学部教務委員会決定)

1. 本申合せは「総合人間学部における履修登録単位数の上限に関する内規(以下「内規」という。)」の運用について定める。
2. 内規第4条(1)に定めた者の基準は、以下の①及び②の両方を満たす者とする。
  - ① 卒業要件に算入することができる科目について、80単位以上を修得していること。
  - ② 累積GPAが4.0以上であること。
3. 内規第4条(2)に定めた者としては、災害等を起因とした傷病・障害等はやむを得ない事情による者、留学を許可された者や留学した者などが想定される。
4. 内規第4条(1)に該当すると認められた者は、申立てを行った学期以降、上限を定めずに履修科目の登録を行うことができる。
5. 内規第4条(2)に該当すると認められた者は、申立てを行った学期に限り、必要な科目について上限を超えて履修科目の登録を行うことができる。
6. 履修登録単位数の上限を超えて履修登録することを希望する者は、別紙様式にて学部長に申立てる。

#### ● 総合人間学部試験及び単位認定に関する内規

第1条 総合人間学部の試験及び単位認定に関することについては、この内規の定めるところによる。

##### 第1章 履修登録

第2条 学生は毎学期始めの定められた期日に、単位を得ようとする授業科目について登録を行わなければならない。

第3条 履修登録の無い科目については、原則として単位は認定しない。

##### 第2章 科目試験及び論文試験

第4条 定期試験は、アカデミックカレンダーの前期試験、後期試験の期間に行う。この他、期間外試験、レポート試験等適宜試験を実施することができる。

第5条 定期試験の監督は、教員相互に協力して行う。

第6条 不合格になった授業科目の再試験は行わない。

第7条 追試験は原則として行わない。ただし、次の場合はそれぞれ担当教員の判断により実施することがある。

- (1) 履修授業科目の試験日時が重複した場合。ただし、事前に願い出たものに限る。
- (2) 負傷又は疾病による場合。ただし、医師の診断書により証明されたものに限る。
- (3) その他不可抗力による場合。

第8条 受験に際して不正行為があった場合、当該年度の全履修授業科目を無効にする等の措置を行う。

第9条 卒業論文及び卒業研究については、最終年度の定められた期日までに、そのテーマについて届け出をしなければならない。

第10条 卒業論文及び卒業研究報告は、最終年度の指定された期日までに提出しなければならない。

### 第3章 成績及び単位認定

第11条 教員は終了後、速やかに成績を評価し、これを総合人間学部長に報告するものとする。

第12条 成績は100点を満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とする。ただし、授業科目によっては合、否の区分によることができる。

第13条 成績を評語でもって表す場合は、96～100点をA+、85～95点をA、75～84点をB、65～74点をC、60～64点をD、0～59点をF、合格をP、不合格をFとする。

第14条 一度認定した授業科目の成績は変更しない。また、当該単位の取消は行わない。

第15条 成績については、前期は9月に後期は2月に発表する。

第16条 卒業論文及び卒業研究については、審査及び試問を行って、その成績を判定する。

附 則 この内規は、平成5年7月15日から施行する。

附 則 この内規は、平成11年4月1日から施行する。

附 則 1 この内規は、平成19年4月1日から実施する。

2 改正後の第9条及び第16条の規定は、平成15年度以後に入学した者から適用し、平成14年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則 1 この内規は、平成27年4月1日から実施する。

2 改正後の第13条の規定は、平成27年度以後に入学した者から適用し、平成26年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則 この内規は、令和6年4月1日から実施する。

● 主 専 攻 科 目 表



● 主専攻科目表

【注意事項】

- \* 学部科目・・・総合人間学部の専門科目
- ・ 今年度の不開講科目は、授業科目名の背景を”グレー”で表示
- ・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）
- ・・・授業科目の代表を担当する教員
- ・（非）・・・非常勤講師
- \* 他学部聴講の欄について  
空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目  
印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）  
×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目
- \* 共通開設部局の欄について  
全共・・・全学共通科目として全学に提供している科目（注：他部局学生はKULASISより全学共通科目で履修登録。但し、公認心理師科目を除く。）

人間科学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
入門科目	人間科学入門A	講義	前	1-2	2	2	大倉得史 倉石一郎 石岡 学 永田素彦 柴田 悠 朴 沙羅 木下千花 ■ 菅 利恵 仁井田千絵 上田泰史 TAJAN, Nicolas Pierre		人間科学系入門A	リレー講義	人環	×
	人間科学入門B	講義	後	1-2	2	2	安部 浩 佐藤義之 戸田剛文 青山拓史 柴山智成 武田宙也 田口かおり 小島基洋 須藤秀平 ■ 吉田恭子 霜田洋祐 中村仁紀		人間科学系入門B	リレー講義	人環	×
人間形成論	人間形成論	講義	後	2-4	2	2	倉石一郎				人環	
	人間形成論演習A	演習	前	3-4	2	2	倉石一郎	●	人間形成論演習IA			
	人間形成論演習B	演習	後	3-4	2	2	倉石一郎	●	人間形成論演習IB		人環	
	人間形成史論	講義	前	3-4	2	2	石岡 学				人環	
	人間形成史論演習A	演習	前	3-4	2	2	石岡 学	●				
	人間形成史論演習B	演習	後	3-4	2	2	石岡 学	●			人環	
	関係発達論の応用	講義	前	2-4	2	2	大倉得史		関係発達論		人環	
	関係発達論演習A	演習	前	3-4	2	2	大倉得史	●				
	関係発達論演習B	演習	後	3-4	2	2	大倉得史	●				
	関係発達論I（発達心理学）	講義	前	1	2	2	大倉得史		関係発達論A 関係発達論の構築 関係発達論I	平成30年度より学部専門科目 （平成29年度まで「関係発達論I」 として全学共通科目で開講）	全共	
	心理学研究法	講義	後	1	2	2	黒島妃香 ■ 船曳康子 三好清文 阿部修士 中山真季 粉川尚枝		心理学研究法入門 心理学研究法演習		文学	
	心理学実験	実験	前	2-4	2	4	齋木 潤 月浦 崇 山本洋紀 永田素彦 大倉得史 ■			複数講義		×
	心理学概論	講義	前	1	2	2	蘆田 宏 月浦 崇 西田真也 熊田孝恒 齊藤 智 足立幾磨 高橋雄介 森口佑介 明和政子 永田素彦 ■ 山本真也 田附敏平 坂田英里奈			リレー講義	文学 教育	
	心理演習	演習	後	3-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre			人数制限(15名:文学部科目の履 修登録者を含む)	文学	
	精神病理学・精神分析学(障害者・障害児心理学)	講義	前	3-4	2	2	佐藤泰子(非)		精神病理学・精神分析学講義 精神病理学・精神分析学			
	精神分析I	講義	前	1-4	2	2	藤井あゆみ(非)		精神分析学I		全共	
	精神分析II	講義	後	1-4	2	2	松本卓也		精神分析学II		全共	
	精神病理学・精神分析学演習A	演習	前	3-4	2	2		●			人環	
	精神病理学・精神分析学演習B	演習	後	3-4	2	2	松本卓也	●			人環	
	精神病理学II(精神疾患とその治療)	講義	後	1-4	2	2	松本卓也		精神保健学基礎論B 精神病理学II	平成30年度より学部専門科目 （平成29年度まで「精神病理学II」 として全学共通科目で開講）	全共	
	Psychoanalysis II	講義	後	1-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre				全共	
	心理的アセスメント	講義	前	3-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre					
	臨床精神分析学演習A	演習	前	3-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre	●			人環	
	臨床精神分析学演習B	演習	後	3-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre	●			人環	
	基礎演習:教育・社会・国家	ゼミ	前	1-4	2	2	倉石一郎		教育学基礎ゼミナールA・I	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習:ジェンダー論	ゼミ	前	1-4	2	2	石岡 学		ジェンダー論基礎ゼミナールA・I	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習:発達心理学	ゼミ	前	1-4	2	2	大倉得史		発達心理学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習:現代思想と精神分析	ゼミ	前	1-4	2	2				ILASセミナーと同一科目	全共	
基礎演習:Mental Health and Social Isolation in Japan (日本におけるメンタルヘルスとひきこもり)	ゼミ	前	1-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre		基礎演習:Frontiers in psychopathology(精神病理学のフ ロンティア)	ILASセミナーと同一科目	全共		

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
人間形成論	★ 精神病理学I	左記の★印の科目は <b>全学共通科目</b> に提供される科目です。学部科目としてではなく、 <b>全学共通科目として認定</b> されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注)E2科目は、左記に英語で記載の科目に限り、主専攻科目・副専攻科目として認定されます。							精神保健学基礎論A			
	★ 精神分析学								精神分析学基礎論			
	★ 教育学I								教育学基礎論 現代教育論 教育学 I・III・V			
	★ 教育学II								教育学基礎論 教育的関係論入門 現代教育論 教育学 II・IV・VI			
	★ 教育学基礎ゼミナール								教育学基礎ゼミナールB・II			
	★ ジェンダー論基礎ゼミナール								ジェンダー論基礎ゼミナールB・II			
	★ 行動病理学I								行動病理学基礎論 I 行動病理学基礎論			
	★ 行動病理学II								行動病理学基礎論 II 精神病理学入門			
	★ 心理学I								心理学概論A・心理学基礎論A 心理学 I A・II A こころの科学 臨床心理学入門			
	★ 心理学II								心理学概論B・心理学基礎論B 心理学 I B・II B こころの科学			
	★ 精神病理学・精神分析学講読演習											
	★ 関係発達論II								関係発達論B 関係発達論の展開			
	★ 発達心理学基礎ゼミナール								発達心理学基礎ゼミナールB			
★ Psychopathology I-E2												
★ Psychoanalysis-E2												
社会行動論	人間行動論	講義	前	3-4	2	2	柴田 悠				人環 文学 文(院)	
	比較社会論	講義	前	3-4	2	2	朴 沙羅	社会情報論			人環 文学 文(院) 地球環境	
	人間行動論演習A	演習	前	3-4	2	2	柴田 悠					×
	人間行動論演習B	演習	後	3-4	2	2	柴田 悠					×
	比較社会論演習A	演習	前	3-4	2	2	朴 沙羅	社会情報論演習A				×
	比較社会論演習B	演習	後	3-4	2	2	朴 沙羅	社会情報論演習B				×
	社会心理学演習A	演習	前	3-4	2	2	永田素彦					×
	社会心理学演習B	演習	後	3-4	2	2	永田素彦					×
	社会心理学(社会・集団・家族心理学)	講義	前	1-4	2	2	永田素彦	社会心理学	前期・後期リポート科目 平成30年度より学部専門科目 (平成29年度まで「社会心理学」として全学共通科目で開講)		全共 教育	
	社会心理学(社会・集団・家族心理学)	講義	後	1-4	2	2	永田素彦	社会心理学	前期・後期リポート科目 平成30年度より学部専門科目 (平成29年度まで「社会心理学」として全学共通科目で開講)		全共 教育	
	心理学研究法	講義	後	1	2	2	黒島妃香 ■ 船曳康子 三好清文 阿部修士 中山真孝 粉川尚枝	心理学研究法入門 心理学研究法演習			文学	
	心理学実験	実験	前	2-4	2	4	齋木 潤 月浦 崇 山本洋紀 永田素彦 大倉得史 ■		複数講義			×
	心理学概論	講義	前	1	2	2	蘆田 宏 月浦 崇 西田真也 熊田孝恒 齋藤 智 足立幾磨 高橋雄介 森口佑介 明和政子 永田素彦 ■ 山本真也 田附藍平 坂田英里奈		リレー講義		文学 教育	
	心理演習	演習	後	3-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre		人数制限(15名:文学部科目の履修登録者を含む)		文学	
	グループ・ダイナミクス(産業・組織心理学)	講義	後	1-4	2	2	大門大朗(非)	グループ・ダイナミクス	平成31年度より学部専門科目 (平成30年度まで「グループ・ダイナミクス」として全学共通科目で開講)		全共	
	社会調査のための統計学	講義	後	2-4	2	2	伊藤理史(非)				人環 文学 文(院) 教育 教(院)	
	基礎演習:社会学I	ゼミ	前	1-4	2	2	柴田 悠	社会学基礎ゼミナールA 社会学基礎ゼミナールI	ILASセミナーと同一科目		全共	
基礎演習:社会学II	ゼミ	前	1-4	2	2	朴 沙羅	社会学基礎ゼミナールA 社会学基礎ゼミナールII	ILASセミナーと同一科目		全共		
基礎演習:社会心理学	ゼミ	前	1-4	2	2	永田素彦	社会心理学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目		全共		

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
社会行動論	★ 宗教学各論I(死生学)	左記の★印の科目は <b>全学共通科目</b> に提供される科目です。学部科目としてではなく、 <b>全学共通科目として設定</b> されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。							神話学入門-神話と人間-神話論I			
	★ 宗教学各論II(死生学)								神話と現代神話論II			
	★ 社会学I								社会学基礎論			
	★ 社会学II								社会学基礎論			
	★ 社会学各論I								社会学基礎論			
	★ 社会学各論II								経験社会学II			
	★ 社会学基礎ゼミナールI								社会学基礎ゼミナールB 社会学基礎ゼミナールIII			
	★ 社会学基礎ゼミナールII								社会学基礎ゼミナールB 社会学基礎ゼミナールIV			
	★ 心理学I								心理学概論A・心理学基礎論A 心理学I A・II A ころの科学 臨床心理学入門			
	★ 心理学II								心理学概論B・心理学基礎論B 心理学I B・II B ころの科学			
★ 社会心理学基礎ゼミナール	社会心理学基礎ゼミナールB											
文化社会論	動態映画文化論 I A	講義	前	2-4	2	2	木下千花	●	動態映画文化論A		人環文学文(院)	
	動態映画文化論 I B	講義	後	2-4	2	2	木下千花	●	動態映画文化論B		人環文学文(院)	
	動態映画文化論 II A	講義	前	2-4	2	2	仁井田千絵		動態映画文化論A	令和8年度より重複履修不可	人環文学文(院)	
	動態映画文化論 II B	講義	後	2-4	2	2	仁井田千絵		動態映画文化論B	令和8年度より重複履修不可	人環文学文(院)	
	動態映画文化論演習 I A	演習	前	3-4	2	2	木下千花 ■ 仁井田千絵	●	動態映画文化論演習A		人環	
	動態映画文化論演習 II B	演習	後	3-4	2	2	仁井田千絵 ■ 木下千花	●	動態映画文化論演習B		人環	
	制度・生活文化史	講義	前	2-4	2	2	菅 利恵	●	制度・生活文化史 II A 制度・生活文化史A		人環	
	音楽文化論講義(西洋音楽史A)	講義	前	1-4	2	2	上田泰史 ■ 菅沼起一				人環	
	音楽文化論講義(西洋音楽史B)	講義	後	1-4	2	2	上田泰史 ■ 浅井佑太				人環	
	音楽文化論演習	演習	前	3-4	2	2	上田泰史	●			人環	
	音楽文化論実習(基礎A)	実習	前	1-4	2	2	上田泰史 ■ 妹背佑香(非)				人環	
	音楽文化論実習(基礎B)	実習	後	1-4	2	2	上田泰史 ■ 妹背佑香(非)				人環	
	音楽文化論実習(和声A)	実習	前	1-4	2	2	妹背佑香(非)				人環	
	音楽文化論実習(和声B)	実習	後	1-4	2	2	妹背佑香(非)				人環	
	音楽文化論実習(対位法A)	実習	前	2-4	2	2	上田泰史 ■ 妹背佑香(非)			新設科目	人環	
	音楽文化論実習(対位法B)	実習	後	2-4	2	2	上田泰史 ■ 妹背佑香(非)			新設科目	人環	
	音楽文化論実習(管弦楽法A)	実習	前	2-4	2	2	上田泰史 ■ 妹背佑香(非)			新設科目	人環	
	音楽文化論実習(管弦楽法B)	実習	後	2-4	2	2	上田泰史 ■ 妹背佑香(非)			新設科目	人環	
	音楽文化論特殊講義(西洋の音楽A)	講義	前	2-4	2	2	浅井佑太	●			人環文学文(院)	
	音楽文化論特殊講義(西洋の音楽B)	講義	後	2-4	2	2	浅井佑太	●			人環文学文(院)	
	音楽の理論と分析I(実習)	実習	前集	1-4	2	2	上田泰史 ■ 菅沼起一	●			人環	
	音楽の理論と分析II(講義)	講義	後	1-4	2	2	原 翌(非)	●		令和8年度より重複履修可	人環	
	音楽の理論と分析III(講義)	講義	後	1-4	2	2	上田泰史 ■ 菅沼起一				人環	
	音楽メディア論	講義	前	2-4	2	2	谷口文和(非)				人環文学文(院)	
	映像と音楽(制作実習)	実習	前集	1-4	2	2	木下千花 ■ 七里 圭(非)	●		人数制限(20名)	人環	
	音楽社会論講義	講義	後	1-4	2	2	森谷理紗				人環	
	音楽民族学講義	講義	後	1-4	2	2	上田泰史 ■ 森谷理紗 梶丸 岳 鈴木麻菜美				人環	
	西洋音楽美学概説	講義	後	1-4	2	2	大愛崇晴(非)				人環文学文(院)	
	音楽心理学概説	講義	後	1-4	2	2	正田 悠(非)				人環	
	制度・生活文化史演習A	演習	前	3-4	2	2	菅 利恵	●	制度・生活文化史演習 II A			
	制度・生活文化史演習B	演習	後	3-4	2	2	菅 利恵	●	制度・生活文化史演習 II B		人環	
	メディア・スタディーズ	講義	後	2-4	2	2	近藤和都(非)	●	メディア・スタディーズ I B メディア・スタディーズB		人環文学文(院)	
メディア文化学(特殊講義)	講義	後	2-4	2	2					人環文学文(院)		
★ 日本・東洋音楽史 I	左記の★印の科目は <b>全学共通科目</b> に提供される科目です。学部科目としてではなく、 <b>全学共通科目として設定</b> されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。											令和8年度修得分より認定
★ 日本・東洋音楽史 II												令和8年度修得分より認定
★ 音楽学(西洋の音楽)												令和8年度修得分より認定

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講	
人間存在論	自己存在論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	安部 浩		自己存在論A		全共		
	自己存在論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	安部 浩		自己存在論B		全共		
	自己存在論演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	安部 浩	●	自己存在論演習A		人環		
	自己存在論演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	安部 浩	●	自己存在論演習B		人環 文学 文(院)		
	認識人間学Ⅰ	講義	前	1-4	2	2	青山拓央		認識人間学A		全共		
	認識人間学Ⅱ	講義	後	1-4	2	2	青山拓央		認識人間学B		全共		
	認識人間学演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	青山拓央	●	認識人間学演習ⅠA 認識人間学演習A		人環		
	認識人間学演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	青山拓央	●	認識人間学演習ⅠB 認識人間学演習B		人環		
	哲学・文化史Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	戸田剛文		哲学・文化史A	令和5年度より重複履修不可	全共		
	哲学・文化史Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	戸田剛文		哲学・文化史B	令和5年度より重複履修不可	全共		
	哲学・文化史演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	戸田剛文	●	認識人間学演習ⅡA 哲学・文化史演習A		人環		
	哲学・文化史演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	戸田剛文	●	認識人間学演習ⅡB 哲学・文化史演習B		人環		
	人間実践論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	佐藤義之		人間実践論A		全共		
	人間実践論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	佐藤義之		人間実践論B		全共		
	人間実践論演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	佐藤義之	●	人間実践論演習A		人環 文学 文(院)		
	人間実践論演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	佐藤義之	●	人間実践論演習B		人環 文学 文(院)		
	人間存在論特別演習	演習	後	4	4	4	佐藤義之 ■ 安部 浩 戸田剛文 青山拓央						×
	基礎演習:哲学	ゼミ	前	1-4	2	2	戸田剛文		人間存在論基礎ゼミナールⅠA 哲学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目	全共		
	基礎演習:倫理学	ゼミ	前	1-4	2	2	佐藤義之		人間存在論基礎ゼミナールⅡA 倫理学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目	全共		
	基礎演習:西洋思想史	ゼミ	前	1-4	2	2	安部 浩		人間存在論基礎ゼミナールⅢA 西洋思想史基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目	全共		
	基礎演習:科学論	ゼミ	前	1-4	2	2	青山拓央		人間存在論基礎ゼミナールⅣA 科学論基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目	全共		
	★哲学Ⅰ								哲学基礎論Ⅰ				
	★哲学Ⅱ								哲学基礎論Ⅱ				
	★倫理学Ⅰ								倫理学基礎論Ⅰ				
	★倫理学Ⅱ								倫理学基礎論Ⅱ				
	★論理学Ⅰ								論理学基礎論Ⅰ				
★論理学Ⅱ								論理学基礎論Ⅱ					
★西洋社会思想史Ⅰ								西洋社会思想史基礎論Ⅰ					
★西洋社会思想史Ⅱ								西洋社会思想史基礎論Ⅱ					
★宗教学Ⅰ													
★宗教学Ⅱ													
★科学論Ⅰ								科学論・科学史基礎論Ⅰ					
★科学論Ⅱ								科学論・科学史基礎論Ⅱ					
★哲学基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅠB 哲学基礎ゼミナールⅡ					
★倫理学基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅡB 倫理学基礎ゼミナールⅡ					
★西洋思想史基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅢB 西洋思想史基礎ゼミナールⅡ					
★科学論基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅣB 科学論基礎ゼミナールⅡ					
創造行為論	創造行為論演習A	演習	前	3-4	2	2	武田宙也	●	創造行為論演習ⅡA		人環		
	創造行為論演習B	演習	後	3-4	2	2	武田宙也	●	創造行為論演習ⅡB		人環		
	創造行為論講義演習	演習	後	1-4	2	2	武田宙也	●	創造行為論講義演習B 創造行為論講義演習Ⅱ		全共		
	近代芸術論A	講義	前	1-4	2	2				【隔年開講】	全共		
	近代芸術論B	講義	後	1-4	2	2	榎田彩芳子(非)			【隔年開講】	全共		
	近代芸術論演習A	演習	前	3-4	2	2	上村 博(非)						
	近代芸術論演習B	演習	後	3-4	2	2	鯖江秀樹(非)						
	舞台芸術論A	講義	前	1-4	2	2	栗山智成	●		【隔年開講】	人環		
	舞台芸術論B	講義	前	1-4	2	2		●		【隔年開講】	人環		
	舞台芸術論演習A	演習	後	1-4	2	2		●		【隔年開講】	人環		
	舞台芸術論演習B	演習	後	1-4	2	2	栗山智成	●		【隔年開講】	人環		
	創造ルネッサンス論A	講義	前	2-4	2	2	田口かおり				全共		
	創造ルネッサンス論B	講義	後	2-4	2	2	田口かおり				全共		
	創造ルネッサンス演習A	演習	前	3-4	2	2	田口かおり	●					
	創造ルネッサンス演習B	演習	後	3-4	2	2	田口かおり	●					
	英米文学入門	ゼミ	前	1-4	2	2				平成31年度より重複履修不可 基礎ゼミナール科目として扱う			
	基礎演習:美の思想	ゼミ	前	1-4	2	2	武田宙也		創造行為論講義演習A 創造行為論講義演習Ⅰ	ILASセミナーと同一科目	全共		
	基礎演習:西洋美術の歴史	ゼミ	前	1-4	2	2	田口かおり		創造ルネッサンス論基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目	全共		

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
創造行為論	★ 芸術学I	左記の★印の科目は <b>全学共通科目</b> に提供される科目です。学部科目としてではなく、 <b>全学共通科目として設定</b> されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。							芸術学基礎論 I 芸術学基礎論II 芸術学 I・芸術学III			
	★ 芸術学II								現代芸術基礎論 イタリア美術基礎論 芸術学 II・芸術学IV			
	★ 創造行為総論A								創造行為総論(基礎篇)			
	★ 創造行為総論B								創造行為総論(応用篇)			
	★ 音楽芸術論I								音楽芸術論A			
	★ 音楽芸術論II								音楽芸術論B			
	★ 東洋美術史I								東洋美術史A			
	★ 東洋美術史II								東洋美術史B			
★ 創造ルネッサンス論基礎ゼミナール	創造ルネッサンス論基礎ゼミナールB											
文芸表象論	英米文芸表象論講義A	講義	前	1-4	2	2	小島基洋	●				
	英米文芸表象論講義B	講義	後	1-4	2	2	小島基洋	●				
	英米文芸表象論演習A	演習	前集	4	2	2	吉田恭子		英米文芸表象論演習II A			×
	英米文芸表象論演習A	演習	前集	4	2	2	小島基洋		英米文芸表象論演習II A			×
	英米文芸表象論演習B	演習	後集	4	2	2	吉田恭子		英米文芸表象論演習II B			×
	英米文芸表象論演習B	演習	後集	4	2	2	小島基洋		英米文芸表象論演習II B			×
	英米文芸表象論講読I A	演習	前	1-4	2	2	吉田恭子	●			人環	
	英米文芸表象論講読I B	演習	後	1-4	2	2	吉田恭子	●				
	英米文芸表象論講読II A	演習	後	1-4	2	2	木島葉菜子(非)	●				
	英米文芸表象論講読II B	演習	後	1-4	2	2		●				
	英米文学入門	ゼミ	前	1-4	2	2				平成31年度より重複履修不可 基礎ゼミナール科目として扱う		
	ドイツ文芸表象論講義A	講義	前	2-4	2	2	須藤秀平			令和8年度より重複履修不可		
	ドイツ文芸表象論講義B	講義	後	2-4	2	2	須藤秀平			令和8年度より重複履修不可		
	ドイツ文芸表象論演習A	演習	前	3-4	2	2	須藤秀平	●			人環	
	ドイツ文芸表象論演習B	演習	後	3-4	2	2	須藤秀平	●			人環	
	ドイツ文芸表象論講読A	演習	前	2-4	2	2		●				
	ドイツ文芸表象論講読B	演習	後	2-4	2	2		●			人環	
	言語芸術論講義	講義	前	3-4	2	2	霜田洋祐	●			人環	
	イタリア言語文化論演習 I	演習	前	3-4	2	2	霜田洋祐	●			人環 文学 文(院)	
	イタリア言語文化論演習 II	演習	後	3-4	2	2	霜田洋祐	●			人環 文学 文(院)	



● 主 専 攻 科 目 表



● 主専攻科目表

【注意事項】

- \* 学部科目・・・総合人間学部の専門科目
- ・ 今年度の不開講科目は、授業科目名の背景を”グレー”で表示
- ・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）
- ・・・授業科目の代表を担当する教員
- ・（非）・・・非常勤講師
- \* 他学部聴講の欄について  
空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目  
印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）  
×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目
- \* 共通開設部局の欄について  
全共・・・全学共通科目として全学に提供している科目（注：他部局学生はKULASISより全学共通科目で履修登録。但し、公認心理師科目を除く。）

認知情報学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
入門科目	認知・行動・健康科学入門	講義	後	1-2	2	2	齋木 潤 月浦 崇 神崎素樹■ 秋生翔大 藤田義人 熊田孝恒 森山真衣		認知・行動科学入門	リレー講義	人環	
	数理・情報科学入門	講義	前	1-2	2	2	足立匡義 木坂正史 立木秀樹 日置尋久 DE BRECHT, Matthew THIES, Holger		数理情報論入門	リレー講義	人環	
	言語科学入門	講義	前	1-2	2	2	谷口一美■ 守田貴弘 堀口大樹 柿原武史 PETERSON, Mark GINSBURG, Jason			リレー講義	人環	
認知・行動科学	システム脳科学	講義	前	2-4	2	2		●	認知機能論 認知機能論 I	【隔年開講】	人環	
	システム脳科学演習	演習	後	2-4	2	2		●	認知機能論演習 認知機能論演習 I	【隔年開講】	人環	
	脳と心の生命機能ゼミナール I	ゼミ	前	2-4	2	2	小村 豊	●	認知機能論ゼミA 認知機能論ゼミ I A 脳と心の計算論ゼミA 脳と心の生物学A		全共	
	脳と心の生命機能ゼミナール II	ゼミ	後	2-4	2	2	小村 豊	●	認知機能論ゼミB 認知機能論ゼミ I B 脳と心の計算論ゼミB 脳と心の生物学B		全共	
	視覚認識論	講義	前	2-4	2	2	齋木 潤		認知機能論 II	【隔年開講】		
	視覚認識論演習	演習	後	2-4	2	2	齋木 潤		認知機能論演習 II	【隔年開講】		
	視覚認識論ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	齋木 潤	●			人環	
	視覚認識論ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	齋木 潤	●				
	視覚科学実験	実験	後	3-4	2	4	齋木 潤■ 山本洋紀		視覚科学実験B			×
	認知心理学 I (知覚・認知心理学)	講義	前	1-4	2	2	齋木 潤		視覚科学A 認知心理学 I	平成30年度以降：学部専門科目 (平成29年度以前：全学共通科目 「認知心理学 I」で開講)	全共 文学	
	認知心理学 II (知覚・認知心理学)	講義	後	1-4	2	2	齋木 潤		視覚科学B 認知心理学 II	平成30年度以降：学部専門科目 (平成29年度以前：全学共通科目 「認知心理学 II」で開講)	全共 文学	
	記憶機能論	講義	前	2-4	2	2	月浦 崇			【隔年開講】	人環	
	記憶機能論演習	演習	後	2-4	2	2	月浦 崇			【隔年開講】	人環	
	記憶神経科学ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	月浦 崇	●				
	記憶神経科学ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	月浦 崇	●				
	神経心理学I (神経・生理心理学)	講義	前	1-4	2	2	月浦 崇		認知神経心理学A 神経心理学 I	平成30年度以降：学部専門科目 (平成29年度以前：全学共通科目 「神経心理学 I」で開講)	全共 文学	
	神経心理学II (神経・生理心理学)	講義	後	1-4	2	2	月浦 崇		認知神経心理学B 神経心理学 II	平成30年度以降：学部専門科目 (平成29年度以前：全学共通科目 「神経心理学 II」で開講)	全共 文学	
	応用認知心理学	講義	前	2-4	2	2	中島亮一			【隔年開講】		
	応用認知心理学演習	演習	後	2-4	2	2	中島亮一			【隔年開講】		
	心理情報学	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】		
	心理情報学演習	演習	後	2-4	2	2				【隔年開講】		
	心理情報学ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	熊田孝恒■ 中島亮一	●				
心理情報学ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	中島亮一■ 熊田孝恒	●					
心理学研究法	講義	後	1	2	2	黒島妃香■ 三好清文 中山真孝		心理学研究法入門 心理学研究法演習		文学		
心理学実験	実験	前	2-4	2	4	齋木 潤 山本洋紀 大倉得史■			複数講義		×	

認知情報学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
認知・行動科学	心理学概論	講義	前	1	2	2	藤田 宏 西田真也 齊藤 智 高橋雄介 明和政子 山本真也 坂田英里奈			リレー講義	文 教 育	
	グループ・ダイナミクス(産業・組織心理学)	講義	後	1-4	2	2	大門大朗(非)			平成31年度より学部専門科目(平成30年度まで「グループ・ダイナミクス」として全学共通科目で開講)	全共	
	生活習慣と生体機能障害(人体の構造と機能及び疾病)	講義	前	1-4	2	2	藤田義人		代謝機能論Ⅱ 生活習慣と生体機能障害	前期・後期レポート科目	全共	
	生活習慣と生体機能障害(人体の構造と機能及び疾病)	講義	後	1-4	2	2	藤田義人		代謝機能論Ⅱ 生活習慣と生体機能障害	前期・後期レポート科目	全共	
	応用運動医学ゼミ	ゼミ	後	1-4	2	2			代謝機能論ゼミⅡA			
	分子運動医学ゼミ	ゼミ	前	1-4	2	2			代謝機能論ゼミⅡB			
	精神保健福祉概論(関係行政論)	講義	前	1-4	2	2	船曳康子		精神保健福祉概論	前期・後期レポート科目	全共	
	精神保健福祉概論(関係行政論)	講義	後	1-4	2	2	船曳康子		精神保健福祉概論	前期・後期レポート科目	全共	
	心の発達と問題行動の理解(司法・犯罪心理学)	ゼミ	後	1-4	2	2	船曳康子		発達行動学ゼミ		全共	
	運動制御ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	神崎素樹 ■ 萩生翔大 森山真衣		運動制御ゼミⅠA 運動機能論ゼミⅠA			
	運動制御ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	神崎素樹 ■ 萩生翔大 森山真衣		運動制御ゼミⅠB 運動機能論ゼミⅠB			
	運動の生理学	講義	前	1-4	2	2	神崎素樹			前期・後期レポート科目	全共	
	運動の生理学	講義	後	1-4	2	2	神崎素樹			前期・後期レポート科目	全共	
	身体運動学	講義	前	1-4	2	2	久代恵介		運動のしくみ	前期・後期レポート科目	全共	
	身体運動学	講義	後	1-4	2	2	久代恵介		運動のしくみ	前期・後期レポート科目	人環	
	行動制御実験演習	実験	前集	3-4	2	4	久代恵介					
	スポーツ心理学	講義	前	1-4	2	2	久代恵介			前期・後期レポート科目	全共	
	スポーツ心理学	講義	後	1-4	2	2	久代恵介			前期・後期レポート科目	全共	
	行動制御ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	久代恵介	●		令和7年度より重複履修可	人環	
	行動制御ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	久代恵介	●		令和7年度より重複履修可	人環	
	身体運動の適応と学習	講義	前	1-4	2	2	萩生翔大			前期・後期レポート科目	全共	
	身体運動の適応と学習	講義	後	1-4	2	2	萩生翔大			前期・後期レポート科目	全共	
	認知科学実験	実験	前	3-4	1	2	齋木 潤 小村 豊 月浦 崇 ■ 山本洋紀 熊田孝恒 中島亮一		認知・行動科学実験Ⅰ(認知科学実験)			×
	心理演習	演習	後	3-4	2	2	TAUJAN, Nicolas Pierre			人数制限(15名:文部科学省の履修登録者を含む)	文学	
	分子スポーツ科学	講義	前	1-4	2	2	江川達郎			令和8年度より重複履修不可	全共	
	アダプテッド・スポーツ演習	演習	後	1-4	2	2	江川達郎	●		人数制限(12名:全共科目の履修登録者を含む)	全共	
	分子運動適応学ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	江川達郎	●				
	分子運動適応学ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	江川達郎	●				
	基礎演習:視覚科学	ゼミ	前	1-4	2	2	齋木 潤		視覚科学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習:神経心理学	ゼミ	前	1-4	2	2	月浦 崇		認知神経心理学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習:心の発達ゼミ	ゼミ	前	1-4	2	2	船曳康子			ILASセミナーと同一科目	全共	
	★ 神経科学の基礎											
★ 運動科学I								運動科学				
★ 体力医科学												
★ 健康科学I								健康科学				
★ 健康心理学I												
★ 視覚科学基礎ゼミナール									視覚科学基礎ゼミナールB			
★ 神経心理学基礎ゼミナール									認知神経心理学基礎ゼミナールB			
数理情報論	数理現象論A	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】	人環	
	数理現象論B	講義	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】	人環	
	数理構造論A	講義	前	2-4	2	2	角 大輝	●		【隔年開講】	人環	
	数理構造論B	講義	後	2-4	2	2	木坂正史	●		【隔年開講】	人環	
	数理科学ゼミナール	ゼミ	前	2-4	2	2	足立匡義	●				
	数理科学特論Ⅰ	講義	後集	2-4	2	2					人環	
	数理科学特論Ⅱ	講義	後集	2-4	2	2					人環	
	数理科学特論Ⅲ	講義	後集	2-4	2	2					人環	
	複素解析	講義	前	2-4	2	2	木坂正史		複素解析B	【隔年開講】		
	実解析A	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】		
	実解析B	講義	後	2-4	2	2				【隔年開講】	人環	
	計算機科学の基礎A	講義	後	2-4	2	2	DE BRECHT, Matthew			【隔年開講】	人環	
	計算機科学の基礎B	講義	後	2-4	2	2				【隔年開講】	人環	
	機械学習の基礎(廃止)	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】	人環	
	人工知能	講義	後	2-4	2	2	丸山善宏			【隔年開講】	人環	
	計算論	講義	前	2-4	2	2	THIES, Holger		計算論A	【隔年開講】	人環	
	計算と位相	講義	後	1-4	2	2	立木秀樹		計算論B	令和5年度より全学共通科目「数学探訪」と共通開講	全共 人環	

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
数理情報論	情報処理の方法と演習A (廃止)	演習	前	2-4	2	2			情報処理の方法と演習II A	【隔年開講】		
	情報処理の方法と演習B (廃止)	演習	前	2-4	2	2			情報処理の方法と演習II B	【隔年開講】		
	数理科学論講究	演習	通集	4	8	4	各教員		数理情報論講究I・II			×
	プログラミング演習(Lisp) (廃止)	演習	前	1-4	4	4			情報学概論演習I 情報科学のためのプログラミングI		全共	
	プログラミング演習(関数型言語)	演習	後	1-4	2	2	THIES, Holger		情報処理の方法と演習I 情報科学のためのプログラミングII プログラミング演習(Prolog) プログラミング演習(Haskell)	科目名変更、単位数変更・週時間数変更	全共	
	情報数学I	講義	前	1-4	2	2	三好博之(非)		情報数学基礎論A		全共	
	情報数学II	講義	後	1-4	2	2	三好博之(非)		情報数学基礎論B		全共	
	基礎演習: Introduction to Logic, Proofs and Programs	ゼミ	前	1-4	2	2	THIES, Holger			ILASセミナーと同一科目	全共	
	★微積分学A											
	★微積分学B											
	★微積分学(講義・演義)A											
	★微積分学(講義・演義)B											
	★線形代数学A											
	★線形代数学B											
	★線形代数学(講義・演義)A											
	★線形代数学(講義・演義)B											
	★数理論理学A											
	★数理論理学B											
	★線形代数学統論											
	★微積分学統論Iーベクトル解析								微積分学統論A			
	★微積分学統論IIー微分方程式								微積分学統論B			
	★確率論基礎											
	★数理統計											
	★非線型数学											
	★応用数学セミナー								非線型数学セミナー			
	★関数論								関数論			
	★数値計算の基礎											
	★情報AI基礎[全学向]								情報科学A 情報の科学(全学向) / 情報学概論A 情報の科学(理系向) 情報基礎[全学向]	科目名変更		
	★情報ネットワーク								情報科学B、情報ネットワーク(全学向)			
	★情報AI基礎演習[全学向]								情報科学演習 コンピュータリテラシー演習 情報基礎演習[全学向]	科目名変更		
★プログラミング演習(Ruby)								プログラミングの基礎I				
★プログラミング演習(Java)								プログラミングの基礎II				
★プログラミング演習(数理的应用)								数学とプログラミング プログラミング演習(数学への応用)				
★人工知能入門									新規科目			
★プログラミング演習(人工知能)									新規科目			
★Information Network-E2												
言語科学	言語構造機能論	講義	前	2-4	2	2	守田貴弘	●	言語構造論A・B 言語構造論		全共 文学	
	言語構造機能論演習	演習	後	2-4	2	2	GINSBURG, Jason	●	言語構造論演習A・B 言語構造論演習			
	言語比較論II	講義	前	2-4	2	2	堀口大樹	●	言語機能論A・B 言語機能論		全共 文学(院)	
	言語比較論演習II	演習	前	2-4	2	2	堀口大樹	●	言語機能論演習A・B 言語機能論演習		人環 文学(院)	
	言語認知論	講義	前	2-4	2	2	谷口一美	●	言語認知論B、言語情報論II		全共	
	言語認知論演習	演習	後	2-4	2	2	谷口一美	●	言語認知論演習A・B			
	言語比較論I	講義	前	2-4	2	2	伊藤克将	●	言語比較論A・B 言語比較論		全共 人環 文学(院)	
	言語比較論演習I	演習	前	2-4	2	2	西脇麻衣子	●	言語比較論演習A・B 言語比較論演習		人環	
	言語運用論	講義	前	2-4	2	2	杉浦秀行(非)				人環	
	少数言語論	講義	前	2-4	2	2	柿原武史	●			全共	
	言語科学ゼミナールI	ゼミ	後	1-4	2	2	守田貴弘		言語科学ゼミナールIA・IB	令和2年度より重複履修不可		
	言語科学ゼミナールII	ゼミ	後	1-4	2	2	伊藤克将		言語科学ゼミナールIIA・IIB	令和2年度より重複履修不可		
	言語科学ゼミナールIV	ゼミ	後	2-4	2	2	柿原武史		言語科学ゼミナールIVA・IVB	令和7年度より重複履修不可		
★言語科学I								言語科学基礎論I				
★言語科学II								言語科学基礎論II				

関 係	授業科目名	授業 形態	開 講 期	対 象 回 生	単 位 数	週 時 間 数	担 当 教 員	重 複 履 修	旧 科 目 名	備 考	共 通 開 設 部 局	他 学 部 聴 講
外 国 語 教 育 論	英語学習指導論	講義	前	1-4	2	2	中森 誉之		英語構造・表現論A	平成31年度より重複履修不可 【隔年開講】	全共 人環	
	英語統合技能論	演習	前	1-4	2	2				令和3年度より重複履修不可 【隔年開講】	全共 人環	
	初級英語修得論	演習	後	2-4	2	2	中森 誉之			【隔年開講】 新規科目	全共 人環	
	中級英語修得論	講義	後	2-4	2	2				【隔年開講】	全共 人環	
	技術支援型言語教育論	演習	後	2-4	2	2	PETERSON, Mark		英語構造・表現論演習B 英語コミュニケーション論		人環	
	言語教育政策論	講義	後	2-4	2	2	西山 教行	●			人環	
	言語教育政策論演習	演習	前	2-4	2	2	西山 教行	●				
	日本語教育論 I	講義	後	2-4	2	2			日本語教育論	【隔年開講】	人環	
	日本語教育論 II	講義	後	2-4	2	2	森 篤嗣(非)			【隔年開講】	人環	
基礎演習・異文化間教育入門	ゼミ	前	1-4	2	2	西山 教行		基礎演習・言語政策入門	ILASセミナーと同一科目	全共		

● 主 專 攻 科 目 表



● 主専攻科目表

【注意事項】

- \* 学部科目・・・総合人間学部の専門科目
- ・ 今年度の不開講科目は、授業科目名の背景を“グレー”で表示
- ・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）
- ・・・授業科目の代表を担当する教員
- ・（非）・・・非常勤講師
- \* 他学部聴講の欄について
- 空白・・・他学部学生の聴講が可能科目
- 印・・・他学部学生の聴講が可能科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）
- ×・・・他学部学生の聴講が不可能科目
- \* 共通開設部局の欄について
- 全共・・・全学共通科目として全学に提供している科目（注：他部局学生はKULASISより全学共通科目で履修登録。但し、公認心理師科目を除く。）

国際文明学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
入門科目	国際文明学入門A	講義	前	1-2	2	2	細見和之 柴山桂太 齋藤嘉臣 浅野耕太 佐野 亘 小林哲也	●	国際文明学系入門A	リレー講義	人環	
	国際文明学入門B	講義	後	1-2	2	2	BHATTE, Pallavi Kamalakar 福元健之 熊谷隆之 二宮美那子 福谷 彬 長谷川千尋 池田寛子	●	国際文明学系入門B	リレー講義	人環	
社会 相 関 論	文明構造論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	小野寺史郎	●		【隔年開講】	人環 文学文(院)	
	文明構造論ⅠB	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】	人環 文学文(院)	
	文明構造論ⅢA	講義	前	2-4	2	2	細見和之	●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅢB	講義	後	2-4	2	2	細見和之	●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅣA	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅣB	講義	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅠA	演習	後	3-4	2	2	小野寺史郎	●		【隔年開講】	人環 文学文(院)	
	文明構造論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2		●		【隔年開講】	人環 文学文(院)	
	文明構造論演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅣA	演習	前	3-4	2	2	小林哲也	●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅣB	演習	後	3-4	2	2	小林哲也	●		【隔年開講】		
	現代社会論ⅠA	講義	前	2-4	2	2					文学	
	現代社会論ⅠB	講義	後	2-4	2	2					文学	
	現代社会論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	佐藤一進(非)			【隔年開講】		
	現代社会論ⅡB	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】		
	多文化社会論ⅠA	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	多文化社会論ⅠB	講義	前	2-4	2	2	森口由香	●		【隔年開講】		
	多文化社会論ⅡA	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】	人環	
	多文化社会論ⅡB	講義	前	2-4	2	2	藤岡真樹(非)	●		【隔年開講】	人環	
	多文化社会論演習ⅠA	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	多文化社会論演習ⅠB	演習	後	2-4	2	2	森口由香	●		【隔年開講】		
	国際関係論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	齋藤嘉臣					
	国際関係論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	齋藤嘉臣					
	国際関係論ⅣA	講義	前	2-4	2	2	大川良文(非)		国際関係論Ⅳ	【隔年開講】		
	国際関係論ⅣB	講義	前	2-4	2	2			国際関係論Ⅳ	【隔年開講】		
	地域研究基礎ゼミナールA	ゼミ	前	1-4	2	2					全共	
	地域研究基礎ゼミナールB	ゼミ	後	1-4	2	2					全共	
	国際関係論演習ⅠA	演習	前	2-4	2	2	齋藤嘉臣	●			人環	
	国際関係論演習ⅠB	演習	後	2-4	2	2	齋藤嘉臣	●			人環	
国家・社会法システム論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	菊池亨輔			令和5年度より重複履修不可			
国家・社会法システム論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	菊池亨輔			令和5年度より重複履修不可			
国家・社会法システム論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	小畑史子						
国家・社会法システム論ⅡB	講義	後	2-4	2	2	小畑史子						
国家・社会法システム論ⅢA	講義	前	2-4	2	2	見平 典						
国家・社会法システム論ⅢB	講義	後	2-4	2	2	見平 典						
国家・社会法システム論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	菊池亨輔	●					
国家・社会法システム論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	菊池亨輔	●					

国際文明学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
社会 相 関 論	国家・社会法システム論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	小畑史子	●			人環	
	国家・社会法システム論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	小畑史子	●			人環	
	国家・社会法システム論演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2	見平 典	●			人環	
	国家・社会法システム論演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2	見平 典	●			人環	
	社会経済システム論ⅠA	講義	前	1-4	2	2	柴山桂太			全共科目「社会経済システム論」として提供	全共	
	社会経済システム論ⅠB	講義	後	1-4	2	2	柴山桂太			全共科目「社会経済システム論」として提供	全共	
	社会経済システム論ⅢA	講義	前	2-4	2	2	大黒弘慈	●		【隔年開講】		
	社会経済システム論ⅢB	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	社会統計論A	講義	後	1-4	2	2				【隔年開講】		
	社会統計論B	講義	前	1-4	2	2	小巻泰之(非)			【隔年開講】		
	社会経済システム論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	柴山桂太	●				
	社会経済システム論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	柴山桂太	●				
	社会経済システム論演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2	大黒弘慈	●			人環	
	社会経済システム論演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2	大黒弘慈	●			人環	
	公共政策論Ⅰ	講義	後	1-4	2	2	佐野 亘		公共政策論ⅠB		全共	
	公共政策論Ⅱ	講義	後	1-4	2	2	浅野耕太		公共政策論ⅡB		全共 公共政策	
	公共政策論基礎ゼミナールⅡB	ゼミ	後	1-4	2	2				【隔年開講】	全共	
	公共政策論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	佐野 亘	●				
	公共政策論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	佐野 亘	●				
	公共政策論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	浅野耕太	●				
	公共政策論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	浅野耕太	●				
	公共政策論演習ⅢA	演習	前集	3-4	2	2	宇佐美誠	●				
	公共政策論演習ⅢB	演習	後集	3-4	2	2	宇佐美誠	●				
	基礎演習：公共政策論Ⅰ	ゼミ	前	1-4	2	2	佐野 亘		公共政策論基礎ゼミナールⅠA	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習：公共政策論Ⅱ	ゼミ	前	1-4	2	2			公共政策論基礎ゼミナールⅡA	ILASセミナーと同一科目 【隔年開講】	全共	
	基礎演習：労働法	ゼミ	前	1-4	2	2	小畑史子		労使関係論基礎ゼミナールA 労使関係法基礎ゼミナールA 労働と法基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習：法哲学	ゼミ	前	1-4	2	2	菊池亨輔		法哲学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習：現代社会と法	ゼミ	前	1-4	2	2	見平 典		現代法システム論基礎ゼミナールA・Ⅰ	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習：国際政治論	ゼミ	前	1-4	2	2	齋藤嘉臣		国際政治論基礎ゼミナールA・Ⅰ	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習：経済思想	ゼミ	前	1-4	2	2	大黒弘慈		現代経済論基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習：環境経済・政策論	ゼミ	前	1-4	2	2	浅野耕太		環境経済・政策論基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目 【隔年開講】	全共	
	基礎演習：社会経済システム論	ゼミ	前	1-4	2	2	柴山桂太		社会・経済システム原論基礎ゼミナールⅠA・A	統合型複合科目の一部と同一科目	全共	
★ 日本国憲法												
★ 統治機構論								憲法(基本原理・統治機構)				
★ 国際法入門												
★ 法学								法学基礎論				
★ 労働と法								労使関係論A・B 労使関係法A・B 労働と法Ⅰ・Ⅱ				
★ 労働と法基礎ゼミナール								労使関係論基礎ゼミナールB 労使関係法基礎ゼミナールB 労働と法基礎ゼミナールⅡ				
★ 法哲学基礎ゼミナール								法哲学基礎ゼミナールⅡ				
★ 現代社会と法基礎ゼミナール								現代法システム論基礎ゼミナールB・Ⅱ				
★ 環境と法												
★ 思想と法												
★ 政治学Ⅰ								政治学基礎論A				
★ 政治学Ⅱ								政治学基礎論B				
★ 国際政治論Ⅰ								現代国際政治論				
★ 国際政治論Ⅱ								国際政治論				
★ 国際政治論基礎ゼミナール								国際政治論基礎ゼミナールB・Ⅱ				
★ 経済学Ⅰ								経済学基礎論A 経済学ⅠA・ⅡA				
★ 経済学Ⅱ								経済学基礎論B 経済学ⅠB・ⅡB				
★ 経済原論基礎ゼミナール								現代経済論基礎ゼミナールB				
★ 統計リテラシー								社会統計学基礎論A 社会統計学A				
★ 社会・経済システム原論基礎ゼミナール								社会・経済システム原論基礎ゼミナールⅠB・B				
★ 公共政策論基礎ゼミナールⅠ								公共政策論基礎ゼミナールⅠB				
★ 環境経済・政策論基礎ゼミナール								環境経済・政策論基礎ゼミナールB				
歴史 文 化 社 会 論	欧米歴史社会論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	福元健之	●			人環 文学 文(院)	
	欧米歴史社会論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	福元健之	●			人環 文学 文(院)	
	欧米歴史社会論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	佐藤公美	●			人環 文学 文(院)	
	欧米歴史社会論ⅡB	講義	後	2-4	2	2	佐藤公美	●			人環 文学 文(院)	

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
歴史文化社会論	Contemporary and Modern History I	講義	前	2-4	2	2	BHATTE, Pallavi Kamalakar	●	Contemporary History I		人環	
	Contemporary and Modern History II	講義	後	2-4	2	2	BHATTE, Pallavi Kamalakar	●	Contemporary History II		人環	
	欧米歴史社会論演習 I A	演習	前	3-4	2	2	佐藤公美	●			人環 文学文(院)	
	欧米歴史社会論演習 I B	演習	後	3-4	2	2	佐藤公美	●			人環 文学文(院)	
	欧米歴史社会論演習 II A	演習	前	3-4	2	2	福元健之	●			人環	
	欧米歴史社会論演習 II B	演習	後	3-4	2	2	福元健之	●			人環	
	日本歴史文化論 I A	講義	前	3-4	2	2	吉江 崇	●			人環 文学文(院)	
	日本歴史文化論 I B	講義	後	3-4	2	2	吉江 崇	●			人環 文学文(院)	
	日本歴史文化論 II A	講義	前	3-4	2	2	熊谷隆之	●			人環 文学文(院)	
	日本歴史文化論 II B	講義	後	3-4	2	2	熊谷隆之	●			人環 文学文(院)	
	日本歴史文化論演習 I A	演習	前	3-4	2	2	吉江 崇	●			人環	
	日本歴史文化論演習 I B	演習	後	3-4	2	2	吉江 崇	●			人環	
	日本歴史文化論演習 II A	演習	前	3-4	2	2	熊谷隆之					
	日本歴史文化論演習 II B	演習	後	3-4	2	2	熊谷隆之					
	基礎演習: 日本古代・中世政治文化論 I	ゼミ	前	1-4	2	2	吉江 崇		日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール I A	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習: 日本古代・中世政治文化論 II	ゼミ	前	1-4	2	2	熊谷隆之		日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール II A	ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習: 民主主義と学問の歴史と未来	ゼミ	前	1-4	2	2	福元健之		ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナール I A 基礎演習: 近世西洋史学 基礎演習: 中近世西洋史学 基礎演習: 西洋近世史学 基礎演習: ヨーロッパ近現代史入門	ILASセミナーと同一科目 科目名変更	全共	
	基礎演習: Contemporary History	ゼミ	前	1-4	2	2	BHATTE, Pallavi Kamalakar			ILASセミナーと同一科目	全共	
	基礎演習: ヨーロッパ中世史料入門	ゼミ	前	1-4	2	2				ILASセミナーと同一科目	全共	
	中国社会論 I A	講義	前	2-4	2	2	辻 正博	●			人環 文学文(院)	
	中国社会論 I B	講義	後	2-4	2	2	辻 正博	●			人環 文学文(院)	
	中国社会論 II A	講義	前	2-4	2	2	福谷 彬	●			人環	
	中国社会論 II B	講義	後	2-4	2	2	福谷 彬	●			人環	
	中国社会論演習 I A	演習	前	3-4	2	2	辻 正博	●			人環	
	中国社会論演習 I B	演習	後	3-4	2	2	辻 正博	●			人環	
	中国社会論演習 II A	演習	前	3-4	2	2	福谷 彬				人環	
	中国社会論演習 II B	演習	後	3-4	2	2	福谷 彬				人環	
	中国文字文化論	講義	前	1-4	2	2	松江 崇		中国文字文化論A	平成31年度より重複履修不可		
	中国書誌論	講義	後	1-4	2	2	松江 崇		中国文字文化論B	平成31年度より重複履修不可		
	中国古典講読論A	講義	前	1-4	2	2	二宮美那子	●	中国古典講読A			
	中国古典講読論B	講義	後	1-4	2	2	二宮美那子	●	中国古典講読B			
	中国文化論演習 II A	演習	前	3-4	2	2	二宮美那子	●			人環	
	中国文化論演習 II B	演習	後	3-4	2	2	二宮美那子	●			人環	
	基礎演習: 中国史の基礎資料	ゼミ	前	1-4	2	2	辻 正博		東洋史文献講読演習 I A 東洋史文献講読演習A	ILASセミナーと同一科目 基礎ゼミナール科目として認定	全共	
	基礎演習: 中国社会思想史の基礎資料	ゼミ	前	1-4	2	2	福谷 彬			ILASセミナーと同一科目	全共	
	日本語学・日本文学 I A	講義	前	2-4	2	2	佐野 宏	●			人環 文学文(院)	
	日本語学・日本文学 I B	講義	後	2-4	2	2	佐野 宏	●			人環 文学文(院)	
	日本語学・日本文学 II A	講義	前	2-4	2	2	長谷川千尋	●			人環 文学文(院)	
	日本語学・日本文学 II B	講義	後	2-4	2	2	長谷川千尋	●			人環 文学文(院)	
	日本語学・日本文学 III A	講義	前	2-4	2	2	須田千里	●			人環 文学文(院)	
日本語学・日本文学 III B	講義	後	2-4	2	2	須田千里	●			人環 文学文(院)		
日本語学・日本文学 IV A	講義	前	2-4	2	2	岡村弘樹(非)	●			人環 文学文(院)		
日本語学・日本文学 IV B	講義	後	2-4	2	2	岡村弘樹(非)	●			人環 文学文(院)		
日本語学・日本文学 VA	講義	前	2-4	2	2	土佐 朋子(非)	●			文学文(院)		
日本語学・日本文学 VB	講義	後	2-4	2	2	土佐 朋子(非)	●			文学文(院)		

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講	
歴史文化 社会論	日本語学・日本文学ⅥA	講義	前	3-4	2	2		●			文学文(院)		
	日本語学・日本文学ⅥB	講義	後	3-4	2	2		●			文学文(院)		
	日本語学・日本文学Ⅶ	講義	前集	3-4	2	2		●			文学文(院)		
	日本語学・日本文学演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	佐野 宏	●			人環		
	日本語学・日本文学演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	佐野 宏	●			人環		
	日本語学・日本文学演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	長谷川千尋	●			人環		
	日本語学・日本文学演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	長谷川千尋	●			人環		
	日本語学・日本文学演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2	須田千里	●			人環		
	日本語学・日本文学演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2	須田千里	●			人環		
	日本語学・日本文学演習ⅣA	演習	前	3-4	2	2	澤西祐典(非)	●			人環 文学文(院)		
	日本語学・日本文学演習ⅣB	演習	後	3-4	2	2	澤西祐典(非)	●			人環 文学文(院)		
	日本語学・日本文学演習ⅤA	演習	前	3-4	2	2		●			文学文(院)		
	日本語学・日本文学演習ⅤB	演習	後	3-4	2	2		●			文学文(院)		
	書論・書写演習A	演習	前	2-4	2	2	長谷川千尋						
	書論・書写演習B	演習	後	2-4	2	2	長谷川千尋						
	日本古典講読論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	長谷川千尋	●	古典講読A 日本古典講読論A			全共	
	日本古典講読論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	長谷川千尋	●	古典講読B 日本古典講読論B			全共	
	日本語学文献講読論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	佐野 宏	●	日本語学文献講読A 日本語学文献講読論A			全共	
	日本語学文献講読論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	佐野 宏	●	日本語学文献講読B 日本語学文献講読論B			全共	
	基礎演習：日本近代文学	ゼミ	前	1-4	2	2	須田千里		日本近代文学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全共	
	西欧近現代表象文化論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	合田典世	●				人環	
	西欧近現代表象文化論ⅠB	講義	後	2-4	2	2		●				人環	
	西欧近現代表象文化論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	池田寛子			令和8年度より重複履修不可		人環	
	西欧近現代表象文化論ⅡB	講義	後	2-4	2	2				令和8年度より重複履修不可			
	西欧近現代表象文化論ⅢA	講義	前	2-4	2	2	冨家葉子					文学	
	西欧近現代表象文化論ⅢB	講義	後	2-4	2	2	冨家葉子					文学	
	西欧近現代表象文化論ⅣA	講義	前	2-4	2	2	中村仁紀	●				人環	
	西欧近現代表象文化論ⅣB	講義	後	2-4	2	2		●				人環	
	西欧近現代表象文化論演習ⅡA	演習	前	2-4	2	2	池田寛子	●				人環	
	西欧近現代表象文化論演習ⅡB	演習	後	2-4	2	2	池田寛子	●				人環	
	西欧近現代表象文化論演習ⅢA	演習	前	2-4	2	2	合田典世	●				人環	
	西欧近現代表象文化論演習ⅢB	演習	後	2-4	2	2	合田典世	●				人環	
	西欧近現代表象文化論演習ⅣA	演習	前	3-4	2	2	中村仁紀	●				人環	
	西欧近現代表象文化論演習ⅣB	演習	後	3-4	2	2	中村仁紀	●				人環	
	英米文学入門	ゼミ	前	1-4	2	2					平成31年度より重複履修不可 基礎ゼミナール科目として扱う		
	西欧古代・中世表象文化論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	早瀬 篤	●				文学	
西欧古代・中世表象文化論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	早瀬 篤	●				文学		
★ 日本史Ⅰ										令和6年度修得点より認定			
★ 日本史Ⅱ										令和6年度修得点より認定			
★ 日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ								日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠB					
★ 日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅡ								日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅡB					
★ 東洋史Ⅰ								東洋史学基礎論 東洋史ⅠA					
★ 東洋史Ⅱ								アジア史基礎論 東洋史ⅠB					
★ 東洋史基礎ゼミナールⅠ								東洋史学文献講読演習B 東洋史学文献講読演習ⅠB	基礎ゼミナール科目として認定 東洋史基礎ゼミナールⅡは含まない				
★ 日本近代文学基礎ゼミナール													
★ 西洋史Ⅰ										令和8年度修得点より認定			
★ 西洋史Ⅱ										令和8年度修得点より認定			
★ ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールⅠ										令和8年度修得点より認定			
★ ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールⅡB										令和8年度修得点より認定			

左記の★印の科目は**全学共通科目**に提供される科目です。学部科目としてではなく、**全学共通科目として認定**されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照してください。

● 主 専 攻 科 目 表



● 主専攻科目表

【注意事項】

- \* 学部科目・・・総合人間学部の専門科目
- ・ 今年度の不開講科目は、授業科目名の背景を”グレー”で表示
- ・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）
- ・・・授業科目の代表を担当する教員
- ・（非）・・・非常勤講師
- \* 他学部聴講の欄について
  - 空白・・・他学部学生の聴講が可能科目
  - 印・・・他学部学生の聴講が可能科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）
  - ×・・・他学部学生の聴講が不可能科目
- \* 共通開設部局の欄について
  - 全共・・・全学共通科目として全学に提供している科目（注：他部局学生はKULASISより全学共通科目で履修登録。但し、公認心理師科目を除く。）

文化環境学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
入門科目	文化環境学入門	講義	前	1-2	2	2	勝又直也 津守陽 ■ 徳永悠 前田昌弘 岩谷彰子 小島泰雄 三代川寛子 太田出 中筋朋 中嶋節子 風間計博 山村亜希 久木元美琴 郭晏錫		文化環境学系入門	リレー講義	人環	
比較文明論	東アジア比較文芸論A	講義	前	2-4	2	2	津守陽	●			人環 文学文(院)	
	東アジア比較文芸論B	講義	後	2-4	2	2	津守陽	●			人環 文学文(院)	
	東アジア比較文芸論演習A	演習	前	2-4	2	2		●			人環 文学	
	東アジア比較文芸論演習B	演習	後	2-4	2	2	津守陽	●			人環	
	東アジア文化交渉論A	講義	前	2-4	2	2	太田出	●	東北アジア文化・社会論 I A・A		人環 文学文(院)	
	東アジア文化交渉論B	講義	後	2-4	2	2	太田出	●	東北アジア文化・社会論 I B・B		人環 文学文(院)	
	東アジア文化交渉論演習A	演習	前	2-4	2	2	太田出	●	東北アジア文化・社会論演習 I A・A		人環	
	東アジア文化交渉論演習B	演習	後	2-4	2	2		●	東北アジア文化・社会論演習 I B・B		人環	
	東アジア比較思想論A (廃止)	講義	前	2-4	2	2		●			人環	
	東アジア比較思想論B (廃止)	講義	後	2-4	2	2		●			人環	
	東アジア比較思想論演習A (廃止)	演習	前	2-4	2	2		●			人環	
	東アジア比較思想論演習B (廃止)	演習	後	2-4	2	2		●			人環	
	トランス東アジア文化思想論A	講義	前	2-4	2	2	郭晏錫	●			人環	
	トランス東アジア文化思想論B	講義	後	2-4	2	2	郭晏錫	●		令和6年度より重複履修可	人環	
	トランス東アジア文化思想論演習A	演習	前	2-4	2	2	郭晏錫	●			人環	
	トランス東アジア文化思想論演習B	演習	後	2-4	2	2	郭晏錫	●		令和6年度より重複履修可	人環	
	ディアスポラ思想文化論A	講義	前	2-4	2	2	勝又直也	●	文化交渉複合論 I A 文化交渉複合論A		人環	
	ディアスポラ思想文化論B	講義	後	2-4	2	2	勝又直也	●	文化交渉複合論 I B 文化交渉複合論B		人環	
	ディアスポラ思想文化論演習A	演習	前	2-4	2	2		●	文化交渉複合論演習 I A 文化交渉複合論演習A			
	ディアスポラ思想文化論演習B	演習	後	2-4	2	2	勝又直也	●	文化交渉複合論演習 I B 文化交渉複合論演習B			
	ユーラシア文化複合論A	講義	前	2-4	2	2	帯谷知可	●	ユーラシア文化複合論 I A			
	中東現代史	講義	前	2-4	2	2	三代川寛子		比較動態文化論A・I A・B・I B ポストコロニアル思想文化論A・B			
	共生世界論演習	演習	後	2-4	2	2	三代川寛子		比較動態文化論演習A・I A・B・I B ポストコロニアル思想文化論演習A・B			
	ポストコロニアル思想文化論基礎ゼミナール	ゼミ	前	1-2	2	2						
	現代中東世界論	講義	前集	2-4	2	2		●				
	近代移民史A	講義	前	1-4	2	2	徳永悠		近現代民族移動論 I A 近現代民族移動論A	【隔年開講】	人環	
	近代移民史B	講義	後	1-4	2	2			近現代民族移動論 I B 近現代民族移動論B	【隔年開講】	人環	
	近代移民史演習A	演習	前	2-4	2	2	徳永悠	●	近現代民族移動論演習 I A 近現代民族移動論演習A		人環	
	近代移民史演習B	演習	後	2-4	2	2	徳永悠	●	近現代民族移動論演習 I B 近現代民族移動論演習B		人環	
	近代移民史基礎ゼミナール	ゼミ	前	1-2	2	2						
比較パラダイム文明論A	講義	前	2-4	2	2		●	比較パラダイム文明論 I A		人環		
比較パラダイム文明論B	講義	後	2-4	2	2	中筋朋	●	比較パラダイム文明論 I B		人環		
比較パラダイム文明論演習A	演習	前	2-4	2	2	中筋朋	●	比較パラダイム文明論演習 I A		人環 文学		
比較パラダイム文明論演習B	演習	後	2-4	2	2	中筋朋	●	比較パラダイム文明論演習 I B		人環 文学		
基礎演習:東洋史入門	ゼミ	前	1-4	2	2	太田出		東洋史文献講読演習A・II A	ILASセミナーと同一科目	全共		

文化環境学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講	
比較文明論	★ 東洋史I	左記の★印の科目は <b>全学共通科目</b> に提供される科目です。学部科目としてではなく、 <b>全学共通科目として認定</b> されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。						●	アジア史基礎論、東洋史ⅡA				
	★ 東洋史Ⅱ								東洋史学基礎論、東洋史ⅡB				
	★ 東洋史基礎ゼミナールⅡ								東洋史文献講読演習B 東洋史文献講読演習ⅡB				東洋史基礎ゼミナールⅡは含まない
文化・地域環境論	環境構成論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	中嶋節子	●				人環	
	環境構成論Ⅱ	講義	前	2-4	2	2	前田昌弘	●				人環	
	環境構成論Ⅲ	講義	前	2-4	2	2		●					
	環境構成論Ⅳ	講義	前	2-4	2	2	川崎修良(非)	●				人環	
	環境構成論演習Ⅰ	演習	後	2-4	2	2	中嶋節子	●		【隔年開講】		人環	
	環境構成論演習Ⅱ	演習	後	2-4	2	2	前田昌弘	●		【隔年開講】		人環	
	環境構成論演習Ⅲ	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】			
	環境構成論演習Ⅳ	演習	後	2-4	2	2	川崎修良(非)	●		【隔年開講】		人環	
	環境構成論実習Ⅰ	実習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		人環	
	環境構成論実習Ⅱ	実習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		人環	
	環境構成論実習Ⅲ	実習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		人環	
	環境構成論実習Ⅳ	実習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】			
	環境構成論特別演習A	演習	前	4	2	2	中嶋節子 ■ 前田昌弘 藤原 学			隔週		人環	
	環境構成論特別演習B	演習	後	4	2	2	中嶋節子 ■ 前田昌弘 藤原 学			隔週		人環	
	社会人類学演習A	演習	前	2-4	2	2	岩谷彩子	●					
	社会人類学演習B	演習	後	2-4	2	2	岩谷彩子	●					
	文化人類学演習A	演習	前	3-4	2	2	風間計博	●	環境人類学演習A				
	文化人類学演習B	演習	後	3-4	2	2	風間計博	●	環境人類学演習B				
	文化実践論A	講義	前	3-4	2	2	DE ANTONI, Andrea		文化行為論A			人環	
	文化実践論B	講義	後	3-4	2	2	DE ANTONI, Andrea		文化行為論B			人環	
	生態人類学演習A	演習	前	2-4	2	2	安岡宏和						
	生態人類学演習B	演習	後	2-4	2	2	山越 言						
	文化人類学方法A	演習	前	4	2	2	風間計博						
	文化人類学方法B	演習	後	4	2	2	風間計博						
	社会人類学方法A	演習	前	4	2	2	岩谷彩子						
	社会人類学方法B	演習	後	4	2	2	岩谷彩子						
	宗教人類学方法A	演習	前	4	2	2	DE ANTONI, Andrea				新設科目		
	宗教人類学方法B	演習	後	4	2	2	DE ANTONI, Andrea				新設科目		
	地域空間論IA	講義	前	2-4	2	2	小島泰雄				【隔年開講】		人環 文学文(院)
	地域空間論IB	講義	前	2-4	2	2					【隔年開講】		人環 文学文(院)
	地域空間論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	山村亜希	●			【隔年開講】 令和6年度より重複履修可		人環 文学文(院)
	地域空間論ⅡB	講義	前	2-4	2	2		●	地域空間論Ⅱ		【隔年開講】 令和5年度より重複履修可		人環 文学文(院)
	地域空間論ⅢA	講義	前	2-4	2	2	久木元美琴	●	地域空間論Ⅲ		令和8年度より重複履修可		人環 文学文(院)
	地域空間論ⅢB	講義	前	2-4	2	2		●			令和8年度より重複履修可		人環 文学文(院)
	地域空間論Ⅳ	講義	前集	2-4	2	2					【隔年開講】		人環
	地域空間論Ⅴ	講義	前集	2-4	2	2	堀 健彦(非)				【隔年開講】		人環
	地域空間論演習Ⅰ	演習	前	2-4	2	2	小島泰雄	●			令和5年度より重複履修可		
	地域空間論演習Ⅱ	演習	後	2-4	2	2	山村亜希	●			令和5年度より重複履修可		人環 文学文(院)
	地域空間論演習Ⅲ	演習	後	2-4	2	2	久木元美琴	●			令和8年度より重複履修可		人環 文学文(院)
	地域空間論演習Ⅳ	演習	前	4	2	2	山村亜希 ■ 小島泰雄 久木元美琴				リレー講義		×
	基礎演習:中国を地理学から考える	ゼミ	前	1-4	2	2	小島泰雄		地理学基礎ゼミナールⅢ 基礎演習:地域地理学	ILASセミナーと同一科目		全共	
	基礎演習:都市地理学	ゼミ	前	1-4	2	2	久木元美琴		地理学基礎ゼミナールⅡ 基礎演習:地理情報	ILASセミナーと同一科目		全共	
基礎演習:歴史地理学	ゼミ	前	1-4	2	2	山村亜希		地理学基礎ゼミナールⅣ	ILASセミナーと同一科目		全共		
基礎演習:文化人類学調査法	ゼミ	前	1-4	2	2	風間計博 ■ 梶丸 岳		文化人類学調査演習A・演習	ILASセミナーと同一科目		全共		
基礎演習:社会人類学調査法	ゼミ	前	1-4	2	2	岩谷彩子		社会人類学調査演習A 社会人類学調査法	ILASセミナーと同一科目		全共		
★ 都市空間論								生活空間論 生活環境構成論 居住環境史 環境構成論ⅠA・ⅡA・ⅢA					
★ 都市空間論各論Ⅰ		左記の★、☆印の科目は <b>全学共通科目</b> です。学部科目としてではなく、 <b>全学共通科目として認定</b> されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 (★は総合人間学部が提供する科目)						居住空間史 環境構成論ⅢB 都市空間史論					
★ 都市空間論各論Ⅱ								風土空間論 環境構成論ⅠB 都市空間保全論					

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講	
文化・ 地域 環境 論	★ 都市空間論基礎ゼミナールⅠ								生活空間論基礎ゼミナール 環境構成論基礎ゼミナールⅠ				
	★ 都市空間論基礎ゼミナールⅡ								居住環境史基礎ゼミナール 環境構成論基礎ゼミナールⅢ				
	★ 国学A									平成31年度修得分より認定			
	★ 国学B									平成31年度修得分より認定			
	★ 文化人類学Ⅰ								文化人類学基礎論				
	★ 文化人類学Ⅱ								象徴人類学基礎論				
	★ 宗教人類学								宗教人類学基礎論				
	★ 生態人類学Ⅰ								生態人類学基礎論 生態人類学				
	★ 生態人類学Ⅱ								生態人類学各論				
	★ 文化人類学各論Ⅰ								文化人類学各論				
	★ 文化人類学各論Ⅱ								文化人類学フィールド論				
	★ 文化人類学調査演習								文化人類学調査演習 文化人類学調査演習B				
	★ 社会人類学調査演習								社会人類学調査演習 社会人類学調査演習B				
	★ 自然地理学								自然地理学の基礎				
	★ 人文地理学								人文地理学の基礎				
	★ 地域地理学								地域地理学の基礎				
	★ 人文地理学各論Ⅰ(都市)												
	★ 人文地理学各論Ⅱ(村落)												
	☆ 人文地理学各論Ⅲ(歴史地理)												
	☆ 人文地理学各論Ⅳ(地理情報)									人文地理学各論Ⅳ(地域情報)			
	★ 人文地理学各論Ⅴ(経済地理)												
	★ 地域地理学各論Ⅰ(日本)												
	★ 地域地理学各論Ⅱ(欧米)												
	★ 地域地理学各論Ⅲ(アジア・アフリカ)												
	★ 地理学基礎ゼミナールⅠ(読図)									地理学基礎ゼミナールⅤ			
	★ 地理学基礎ゼミナールⅡ(作図)									地理学基礎ゼミナールⅠ			
★ 地理学基礎ゼミナールⅢ(地理情報)									地理情報処理基礎ゼミナール 地理学基礎ゼミナールⅢ(地理情報処理)				

左記の★、☆印の科目は**全学共通科目**です。学部科目としてではなく、**全学共通科目として履修**されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。  
(★は総合人間学部が提供する科目)



● 主 專 攻 科 目 表



## ● 主専攻科目表

### 【注意事項】

\* 学部科目・・・総合人間学部の専門科目

・ 今年度の不開講科目は、授業科目名の背景を「グレー」で表示

●・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）

■・・・授業科目の代表を担当する教員

・（非）・・・非常勤講師

\* 他学部聴講の欄について

空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目

印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）

×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目

\* 共通開設部局の欄について

全共・・・全学共通科目として全学に提供している科目（注：他部局学生はKULASISより全学共通科目で履修登録。但し、公認心理師科目を除く。）

## 自然科学系

	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
入門科目	自然科学入門A	講義	前	1-2	2	2	木下俊哉 森成隆夫 渡邊雅之 市岡孝朗 今吉 格 西川完途 原壮太郎	高木紀明■ 藤原直樹 瀬戸口浩彰 宮下英明 土屋 徹 角野 歩 陳 奕同	自然科学系入門A	リレー講義		人環
	自然科学入門B	講義	後	1-2	2	2	小木曾哲 加藤 護 浅沼 尚 田部勢津久 津江広人 吉田寿雄■ 許 健	石村豊穂 内本喜晴 小松直樹 廣戸 聡 藤田健一 吉田鉄平	自然科学系入門B	リレー講義		人環
	地球と生命の起源と進化	講義	前	1-2	2	2	小松直樹■ 浅沼 尚	宮下英明 藤井悠里		リレー講義		
	量子力学Ⅰ	講義	後	2-4	2	2	木下俊哉					
	量子力学Ⅱ	講義	前	3-4	2	2	藤原直樹					
	物性物理学Ⅰ	講義	後	3-4	2	2	吉田鉄平		物性基礎論 物性基礎論Ⅰ	【隔年開講】		
	物性物理学Ⅱ	講義	前	3-4	2	2			物性基礎論 物性基礎論Ⅱ	【隔年開講】		
	統計力学	講義	後	3-4	2	2	森成隆夫					
	物質分析論	講義	前	2-4	2	2	浅沼 尚					
	物質機能論	講義	前	2-4	2	2	内本喜晴					
	物質構造論	講義	前	2-4	2	2	田部勢津久					
	物質変換論	講義	前	2-4	2	2	吉田寿雄					
	分子構造論	講義	前	2-4	2	2	小松直樹					
	分子反応論	講義	後	2-4	2	2	藤田健一					
	フロンティア化学	講義	後	1-4	2	2	藤田健一■ 新林卓也 高見大地	高橋弘樹 許 健		リレー講義		
	生体分子機能論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	土屋 徹		生体分子機能論 生体分子機能論A			
	生体分子機能論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	宮下英明		生体分子機能論 生体分子機能論B			
	細胞生物学A	講義	前	2-4	2	2	今吉 格		細胞生物学			
	細胞生物学B	講義	後	2-4	2	2	角野 歩		細胞生物学			
	生物適応変異論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	西川完途		生物適応変異論 生物適応変異論A	【隔年開講】		人環
	生物適応変異論Ⅱ	講義	前	2-4	2	2			生物適応変異論 生物適応変異論B	【隔年開講】		人環
	生物多様性・生態学	講義	前	2-4	2	2	市岡孝朗			【隔年開講】		人環
	物理数学演習	演習	後	2-4	4	4	吉田鉄平■ 佐野光貴	渡邊雅之				
	量子力学演習	演習	前	2-4	4	4	木下俊哉■ 小山田明(非)					
	物質構造機能論演習A	演習	後	2-4	2	2	浅沼 尚		物質構造機能論演習			
	物質構造機能論演習B	演習	後	2-4	2	2			物質構造機能論演習			
	物質構造機能論演習C	演習	後	2-4	2	2	内本喜晴					
	物質構造機能論演習E	演習	後	2-4	2	2	吉田寿雄■ 高見大地					
	分子構造機能論演習A	演習	前	2-4	2	2	津江広人■ 高橋弘樹					
	分子構造機能論演習B	演習	後	2-4	2	2	廣戸 聡■ 新林卓也					
	分子細胞生物学演習A	演習	後	2-4	2	2	土屋 徹	●		【隔年開講】		
	分子細胞生物学演習B	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	分子細胞生物学演習	演習	通集	2-4	4	2	今吉 格■ 角野 歩	●				
	自然史演習A	演習	前	2-4	2	2	市岡孝朗■ 西川完途	原壮太郎	●			人環
	自然史演習A	演習	前	2-4	2	2	瀬戸口浩彰		●			人環
	自然史演習A	演習	前	2-4	2	2	宮下英明		●			
	自然史演習B	演習	後	2-4	2	2	市岡孝朗■ 西川完途	原壮太郎	●			人環
	自然史演習B	演習	後	2-4	2	2	瀬戸口浩彰		●			人環
	自然史演習B	演習	後	2-4	2	2	宮下英明		●			

授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
地球科学演習A	演習	前	2-4	2	2	小木曾哲 石村豊穂 桑野太輔	加藤 護 ■ 藤井悠里	地球科学演習			×
地球科学演習B	演習	後	2-4	2	2	小木曾哲 石村豊穂 桑野太輔	加藤 護 ■ 藤井悠里	地球科学演習			×
課題演習:(物理科学)レーザー物理学	演習	前	2-4	4	4			課題演習:物理科学・光と物質 課題演習:物理科学	【隔年開講】		
課題演習:(物理科学)表面構造解析	演習	後	2-4	4	4	高木紀明		課題演習:物理科学 課題演習:(物理科学)構造と物性	【隔年開講】		
課題演習:(物理科学)光電子分光	演習	後	2-4	4	4			課題演習:(物理科学)共鳴現象 課題演習:物理科学 課題演習:物理科学・核磁気共鳴	【隔年開講】		
課題演習:(物理科学)核磁気共鳴	演習	前	2-4	4	4	藤原直樹		課題演習:物理科学 課題演習:物理科学・電子と波動 課題演習:(物理科学)高圧・核磁気共鳴	【隔年開講】		
課題演習:(物理科学)物理シミュレーション	演習	前	2-4	4	4	森成隆夫			【隔年開講】		
課題演習:物質の構造と機能	演習	前	2-4	8	8	田部勢津久 ■ 吉田寿雄 許 健	内本喜晴 浅沼 尚 高見大地				
課題演習:分子の構造と機能	演習	後	2-4	8	8	小松直樹 藤田健一 高橋弘樹	津江広人 ■ 廣戸 聡 新林卓也				
課題演習:生物学A	演習	前	2-4	4	4	土屋 徹 ■ 市岡孝朗 今吉 格 角野 歩 原壮太郎	瀬戸口浩彰 宮下英明 西川完途 佐藤博俊	●			
課題演習:生物学B	演習	後	2-4	4	4	土屋 徹 ■ 市岡孝朗 今吉 格 角野 歩 原壮太郎	瀬戸口浩彰 宮下英明 西川完途 佐藤博俊	●			
課題演習:地球科学A	演習	前	2-4	4	4	小木曾哲 石村豊穂 桑野太輔	加藤 護 ■ 藤井悠里	●	課題演習:地球科学		×
課題演習:地球科学B	演習	後	2-4	4	4	小木曾哲 石村豊穂 桑野太輔	加藤 護 ■ 藤井悠里	●	課題演習:地球科学		×
総合フィールド演習	演習	前集	1-4	2	2				複数講義 ※ 乗船を伴う科目のため、 KULASISからの履修登録不可。 ガイダンスに出席した学生の中より 教員が履修許可者を決定します。 履修登録は事務にて行います。 履修希望者は、後日掲示予定のガイ ダンス等掲示を各自で確認し、ガイ ダンスに必ず出席してください。	人環	
自然科学特別ゼミナールⅠ	演習	後集	3-4	2	2	全員			※履修登録は各教員別		×
自然科学特別ゼミナールⅡA	演習	前集	4	2	2	全員		自然科学特別ゼミナールA	※履修登録は各教員別		×
自然科学特別ゼミナールⅡB	演習	後集	4	2	2	全員		自然科学特別ゼミナールB	※履修登録は各教員別		×
基礎演習:植物野外実習	ゼミ	前集	1-4	2	2			生物学実習Ⅲ(植物野外観察コース) 基礎演習:植物野外実習(高山植物の観察)	ILASセミナーと同一科目	全共	
基礎演習:微生物ってなに?~身の回りの微生物	ゼミ	前	1-4	2	2	宮下英明		環境微生物概論 基礎演習:環境微生物概論	ILASセミナーと同一科目	全共	
★微積分学A											
★微積分学(講義・演義)A											
★微積分学B											
★微積分学(講義・演義)B											
★線形代数学A											
★線形代数学(講義・演義)A											
★線形代数学B											
★線形代数学(講義・演義)B											
★関数論											
★確率論基礎											
★数理統計											
★物理学基礎論A											
★物理学基礎論B											
★初修物理学A											
★初修物理学B											
★熱力学											
★物理学実験											
★力学続論											
★統計物理学											
★振動・波動論											
★電磁気学続論											
★解析力学											
★量子物理学											

左記の★、☆印の科目は**金学共通科目**です。学部科目としてではなく、**金学共通科目として認定**されます。担当教員等は金学共通科目履修の手引きを参照すること。  
(★は総合人間学部が提供する科目)

授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	共通開設部局	他学部聴講
★ 基礎物理化学(量子論)								基礎物理化学A	基礎物理化学要論の履修にあたっては、基礎物理化学(量子論)・基礎物理化学(熱力学)との重複履修について注意が必要です。全学共通科目履修の手引きやKULASISに掲載されている案内を必ず確認して下さい。不明の点があれば、化学分野教務担当教員に問い合わせして下さい。		
★ 基礎物理化学(熱力学)								基礎物理化学B			
★ 基礎物理化学要論								基礎有機化学A			
★ 基礎有機化学I								基礎有機化学B			
★ 基礎有機化学II											
★ 基礎化学実験											
★ 有機化学演習A								構造有機化学入門			
★ 有機化学演習B								反応有機化学入門			
★ 無機化学入門A											
★ 無機化学入門B											
★ 探究型化学課題演習III -有機化合物の化学-											
☆ 生化学入門								生化学入門101,102			
☆ 細胞と分子の基礎生物学											
★ 生物・生命科学入門											
★ 「生命の進化」概論								「生命と地球の共進化」概論			
★ 植物自然史I								生命科学概論A			
★ 植物自然史II								植物系統進化学			
★ 真菌自然史								真菌自然史A・B 真菌自然史 I・II			
★ 動物自然史								動物自然史A 動物自然史I	科目名変更		
★ 動物自然史II (廃止)								動物自然史B	廃止		
★ 行動生態学入門											
★ 藻類学概論											
★ 生物学実習I [基礎コース]								生物学実習 III			
★ 生物学実習II [自然史コース]								生物学実習 I・II			
★ 生物学実習III [細胞と分子生物学コース]								生物学実習 III			
★ 地球科学実験								地球科学実験A			
★ 基礎地球科学A (地球システムの歴史と変遷)								基礎地球科学IA 基礎地球科学A (地球システムの構造と挙動)			
★ 基礎地球科学B (地球システムと環境)								基礎地球科学IB 基礎地球科学B (地球システムの変動と変遷)			
★ 基礎地球科学A (現在の地球の活動と私たち)								基礎地球科学IIA 基礎地球科学A (宇宙誕生から現在まで)			
★ 基礎地球科学B (地球誕生から現在まで)								基礎地球科学IIB 基礎地球科学B (現在の地球環境の仕組み)			
★ フィールド地球科学								Field地球科学A・B Field地球科学 I・II			
★ 太陽系と地球の物質								Material地球科学A・B			

左記の★、☆印の科目は**全学共通科目**です。学部科目としてはなく、**全学共通科目として認定**されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。  
(★は総合人間学部が提供する科目)

## ● 特殊講義(学部共通)科目表

特殊講義は、総合人間学部共通科目として開講される学部専門科目です。  
 学系によっては、主専攻科目または副専攻科目として認められます。(副専攻として認定を希望する場合は学部教務掛へ申し出てください)

学部共通科目	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	主専攻・副専攻認定					旧科目名	備考	他学部聴講
									人間科学系	認知情報学系	国際文明学系	文化環境学系	自然科学系			
	学部特殊講義 I A (発達教育学)	講義		2-4	2	2			○							
	総合人間学としての精神分析	講義	後	2-4	2	2	平井正三(非)		○				学部特殊講義 I B (総合人間学としての精神分析)	令和5年度より人環と共通科目		
	学部特殊講義 I C (環境倫理学:Environmental Ethics)	講義		1-4	2	2			○							
	学部特殊講義 I D (環境倫理学セミナー:Ningen and Kankyo in the Philosophies of William James and John Dewey)	演習		1-4	2	2			○							
	学部特殊講義 II A (こころの科学 I)	講義		2-4	2	2				○						
	学部特殊講義 II B (こころの科学 II)	講義		2-4	2	2				○						
	学部特殊講義 III A (歴史社会論)	講義		2-4	2	2		●			○					
	学部特殊講義 III B (歴史社会論)	講義		2-4	2	2		●			○					
	現代社会論(メディア社会史入門)	講義	前	2-4	2	2					○		学部特殊講義 III C (現代文明論)	令和6年度より重複履修不可		
	文化・地域環境論(文化人類学入門)	演習	前	2-4	2	2	梶丸 岳■ 風間計博 岩谷彩子					○	学部特殊講義 IV A (文化人類学調査実践演習)	文学部と共通科目		
	文化・地域環境論(建築読解入門)	講義	後	2-4	2	2	藤原 学■ 中嶋節子 前田昌弘					○	学部特殊講義 IV B (建築読解入門)			
	学部特殊講義 V A	講義		2-4	2	2						○	○			
	学部特殊講義 V B	講義		2-4	2	2										

## ● 総人ゼミ

総合人間学部では、平成19年度後期よりさまざまなテーマを掲げる「総人ゼミ」(全体名称)が開講されています。

この「総人ゼミ」は、多彩な研究分野を持つ教員からなる本学部の特色を生かし、少人数のゼミ形式で教員と学生の皆さんの距離を近くし、教員一人一人の研究内容に触れる機会を提供することで、学生の皆さんの学問への関心を高めることを目的としています。本を輪読するゼミもあれば、講義と実験を組み合わせたゼミやフィールドに出て体験するゼミ等、いろいろな形で実施されます。

「総人ゼミ」は、学部の教授会で認められたゼミです。しかし、単位はありません。原則として1回生対象ですが、2回生以上で関心のある人の参加も歓迎します。教員と直接に対話して学問に触れるよい機会です。

総合人間学部の皆さんがたくさん参加されることを期待しています。

ゼミの種類や具体的な内容については4月頃と10月頃に掲示予定です。質問がありましたら、学部教務掛でおたずねください。

● ● ● ● ● 副専攻科目表 ● ● ● ● ●

副専攻は、主専攻分野とは別に特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって主専攻以外の分野にも深い知識と広い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を身につける高度一般教育の実現が期待されます。

● 副専攻の選び方

副専攻は、次の一覧表の①～⑩から自分が所属する学系以外のいずれか1つを選んでください。ただし、「1つの副専攻から20単位以上」というのはかなり厳しい条件ですから、各副専攻の履修条件等をよく読み、早めに履修計画を立ててください。

各学系で主専攻科目として認定する特殊講義は、各学系が提供する副専攻科目(その学系の副専攻が複数ある場合はすべての副専攻における副専攻科目)として適用されます。また、複合領域においてもそれぞれの関係の学系の科目として認められます。

副専攻名		<ul style="list-style-type: none"> <li>・下記の関係科目群(主専攻科目表にある学部科目・全学共通科目)より履修すること</li> <li>・授業形態が「講義」以外の科目を4単位以上修得すること</li> <li>・入門科目は含まない</li> </ul>	
①	人間社会論	人間科学系	人間形成論関係科目／社会行動論関係科目／文化社会論関係科目
②	思想文化論	人間科学系	人間存在論関係科目／創造行為論関係科目／文芸表象論関係科目
③	認知・行動科学	認知情報学系	認知・行動科学関係科目
④	数理情報科学	認知情報学系	数理情報論関係科目
⑤	言語科学	認知情報学系	言語科学関係科目／外国語教育論関係科目
⑥	現代文明論	国際文明学系	社会相関論関係科目
⑦	歴史文化社会論	国際文明学系	歴史文化社会関係科目
⑧	比較文明論	文化環境学系	比較文明論関係科目
⑨	文化・地域環境論	文化環境学系	文化・地域環境論関係科目
⑩	自然科学	自然科学系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学系</li> <li>・全学共通科目から以下の科目を含めることができる。 物理学概論A・B, 化学概論I・II, 生活と環境の化学, 自然と環境の化学, 地球科学入門, 地球の営みI・II</li> </ul>

(複合領域) 副専攻名		<ul style="list-style-type: none"> <li>・副専攻研究について</li> <li>複合領域を選択する場合、所定の単位を修得済みであれば、副専攻研究を履修することができる。希望する場合は、指導する教員と研究テーマ・内容等を相談のうえ、前期履修登録時に学部教務掛に履修を申し出ること。</li> <li>副専攻研究(4単位)を履修する場合には、a, cは各6単位以上でよい。</li> <li>副専攻研究を登録できるのは、a～cあわせて10単位以上(副専攻研究指導教員の担当する演習等を含む)を修得した後とする。</li> </ul>	
⑪	(複合領域) 現代文明と科学 人間科学系、国際文明学系、文化環境学系を主専攻とするものが選択できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副専攻領域(自然科学系および認知情報学系)の科目から、下記に従って履修すること。</li> <li>a. <b>2つ以上</b>の副専攻領域の<b>学部科目</b>から授業形態が「講義」科目を8単位以上。 自然科学系の入門科目を含む。(認知情報学系の入門科目は含まない)</li> <li>b. <b>2つ以上</b>の副専攻領域の<b>学部科目</b>から授業形態が演習・実験・実習・ゼミを4単位以上。</li> <li>c. 主専攻科目表に記載されたすべての学部科目・全学共通科目から8単位以上。 人間科学系の「科学論I・II」、国際文明学系の「現代社会論IA・IB」を含めることができる。</li> </ul>	
⑫	(複合領域) 文化総合研究 認知情報学系、自然科学系を主専攻とするものが選択できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副専攻領域(人間科学系、国際文明学系、文化環境学系の科目、および認知情報学系の言語科学関係科目／外国語教育論関係科目)の中から下記に従って履修すること。</li> <li>(ただし、認知情報学系を主専攻とするものは、認知情報学系の言語科学関係科目／外国語教育論関係科目を副専攻科目にはできない)</li> <li>a. <b>2つ以上</b>の副専攻領域の<b>学部科目</b>から授業形態が「講義」科目を8単位以上。 人間科学系、国際文明学系、文化環境学系の入門科目を含む。 (認知情報学系の入門科目は含まない)</li> <li>b. <b>2つ以上</b>の副専攻領域の<b>学部科目</b>から授業形態が演習・実験・実習・ゼミを4単位以上。</li> <li>c. 主専攻科目表に記載されたすべての学部科目・全学共通科目から8単位以上。</li> </ul>	

## 教育職員免許状取得について

高等学校、中学校または養護学校の教育職員になることを希望する学生は、教育職員免許法に定めるところにしたがって、大学で所定の単位を修得し所定の手続きを行えば免許状が授与されます。

教育職員免許状取得についての情報は、本便覧の他、総合人間学部の掲示、及びKULASIS>共通掲示板>「全学生向け共通掲示板」のページに掲載の『・本学の教職課程及び免許取得に関する基本情報についてはこちら』に掲載されており、本学における教職課程及び免許状取得に関する基本情報等を掲載しているので、必ず確認すること。

また、KULASIS>上記と同ページのInformation>分類選択「教員免許」に教職科目の履修や教育実習に関する情報が随時更新掲載されているので、その情報も併せて必ず確認し見落としのないように注意すること。

### ● ● ● ● 総合人間学部で取得できる免許状の種類及び教科 ● ● ● ●

#### 平成30年度以前入学者

種 類	教 科
中学校一種	国語・社会・数学・理科・保健体育・英語・ドイツ語・フランス語
高等学校一種	国語・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・情報・英語・ドイツ語・フランス語

#### 平成31年度以降入学者

種 類	教 科
中学校一種	国語・社会・数学・理科・英語
高等学校一種	国語・地理歴史・公民・数学・理科・情報・英語

### ● ● ● ● 単位の修得について ● ● ● ●

#### **【重要】平成31年4月以降の教職課程の変更及び経過措置について**

教育職員免許法施行規則等の改正に伴い、平成31年4月1日から教職課程が新課程に移行したが、入学時期や所属、身分、所要資格を得た時期等によって適用される経過措置が異なる。そのため、自身が旧法適用であるか新法適用であるかをよく確認の上、必要な科目を履修すること。（旧法適用者と新法適用者では、必要な単位数や科目が異なる。）

なお、経過措置及び適用法の詳細については、KULASIS>共通掲示板>「全学生向け共通掲示板」のInformation>分類選択「教員免許」に掲載されているので、必ず確認すること。

#### **【新法】**

単位は『教科及び教科の指導法に関する科目』、『教育の基礎的理解に関する科目』、『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』、『教育実践に関する科目』、及び『大学が独自に設定する科目』に区分され、それぞれ必要な単位を修得しなければならない。

- ① 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、教科に関する専門的事項を含んだ科目の単位は、当該学部で開講している授業科目の中から対応する科目の単位を修得すること。（各教科の科目表は、学部教務掛で希望者に配付）

#### **【旧法】**

単位は『教科に関する科目』、『教科又は教職に関する科目』、『教職に関する科目』に区分され、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。詳細は必ず学生便覧で確認してください。免許状取得希望者は履修カルテ(単位修得状況)を学部教務掛で配付します。

- ① 「教科に関する科目」の単位は、総合人間学部で開講されている授業科目から指定された科目を履修し、単位を修得すること。（各教科の科目表は、学部教務掛で希望者に配付）

- ② 「教科又は教職に関する科目」は、教科に関する科目及び教職に関する科目の必要単位数を超えて修得した場合、その単位を当該単位として充当する。
- ③ 「教職に関する科目」の単位は、教育学部で開講されている授業科目から指定された科目を履修し、単位を修得すること。

すべての教科について、「教科及び教職に関する科目」のほかに、『「日本国憲法」2単位』、『体育3単位以上』、『外国語コミュニケーション2単位』、『情報機器の操作2単位』を修得しなければならない。

また、教育学部で開講の「民族と教育(隔年開講)」 「人権教育論(隔年開講)」を履修しておくことを推奨する。

## ● ● ● ● 教育実習について ● ● ● ●

教育実習は「教職に関する科目」(旧法)、「教育実践に関する科目」(新法)として必修になっています。

教育実習は実習に係る事前及び事後指導(いずれも講義)並びに中・高等学校で行う実習からなっています。

教員職員免許状取得希望者は必ず説明会(3回生時)に参加し、また事前指導を受けたいうえで教育実習に参加してください。

なお、教育実習の総括として事後指導を実施しますから、同様に参加してください。いずれについても掲示で周知しますので、各自で確認し、見落とさないように注意してください。

教育実習に参加できるのは学部4回生(中学校免許状取得希望者は3回生からでも可能な場合があります。)で教育職員免許状取得希望者に限ります。

教育職員免許状取得希望者は、旧法:『教科及び教職に関する科目』、新法:『教科及び教科の指導法に関する科目』、『教育の基礎的理解に関する科目』、『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』、『教育実践に関する科目』、及び『大学が独自に設定する科目』の大部分を3回生までに修得しておかなければなりません。これらの科目が未修得の場合、教育実習に参加できないことがあります。

### ● 教育実習実施に当たっての注意事項

教育実習への参加には、健康診断証明書が必要となるため、当該年度に実施される学生一般定期健康診断を必ず受検しなければなりません。なお、胸部X線検査についても必要ですので、省略せず受検してください。

また、事故対策として、「学生教育研究災害傷害保険」(学研災)と「学研災付帯賠償責任保険」(付帯賠償)に加入していない場合は、教育実習に参加できません。

## ● ● ● ● 介護等体験について ● ● ● ●

中学校教諭普通免許状取得希望者については、特別支援学校で2日間と社会福祉施設等(保育所を除く)で5日間、合計7日間の介護等体験が必要となります。説明会の開催、申込み手続きについては、掲示により周知します。

### ● 介護等体験実施に当たっての注意事項

介護等体験への参加には、健康診断証明書が必要となるため、当該年度に実施される学生一般定期健康診断を必ず受検しなければなりません。なお、胸部X線検査についても必要ですので、省略せず受検してください。

また、事故対策として、「学生教育研究災害傷害保険」(学研災)と「学研災付帯賠償責任保険」(付帯賠償)に加入していない場合は、介護等体験に参加できません。

### 【保険に関する問い合わせ窓口】

学務部厚生課厚生掛/TEL:075-753-2539

## 公認心理師となる資格の取得について

京都大学では、総合人間学部、教育学部及び文学部において、平成30年度以降の入学者が、在学中に公認心理師受験の要件となっている科目を取得できるようにしています。

ただし、学部を卒業することで自動的に受験資格が得られるのではなく、必要となる科目や実習を計画的に履修し、そのうえ卒業後は大学院修士課程にて必要科目を修得するか、あるいは特定の機関で実務経験を2年ないし3年積むことで、受験資格を得ることができます。

### ● ● ● ● 公認心理師の職務 ● ● ● ●

公認心理師は、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げるような業務を行うものである。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供、専門的、技術的な助言と指導を与えるもの

(公認心理師法第2条)

### ● ● ● ● 公認心理師の資格 ● ● ● ●

【平成30年度以降の入学者(公認心理師法施行後入学者)について】

公認心理師となるには、下記の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、公認心理師試験合格後に、公認心理師登録簿に、氏名、生年月日その他の文部科学省令・厚生労働省令で定める事項の登録を受けなければならない。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づく大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めて卒業し、かつ、同法に基づく大学院において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めてその課程を修了した者その他に準ずるものとして文部科学省令・厚生労働省令で定める者
- (2) 学校教育法に基づく大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めて卒業した者その他に準ずるものとして文部科学省令・厚生労働省令で定める者であって、文部科学省令・厚生労働省令で定める施設において文部科学省令・厚生労働省令で定める期間以上公認心理師法第2条第1号から第3号までに掲げる行為の業務に従事したもの
- (3) 文部科学大臣及び厚生労働大臣が(1)(2)に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認定した者

(同法第4条、第7条、第28条)

### ● ● ● ● 公認心理師に関する科目の単位 ● ● ● ●

前記の大学において履修すべき公認心理師となるために必要な科目(25科目)は、下記のとおりである。また、「京都大学公認心理師情報ページ」URLに記載の「3. 受験資格の要件となる指定科目について」の項目「1. 在学生」に掲載の「読み替え科目リスト(学内限定)」からも確認できる。

なお、履修方法については、4月に実施する公認心理師履修ガイダンスで指導を行うので、毎年必ず参

加すること。欠席した場合、指定科目を履修できなくなることがあるので注意されたい。

また、文部科学省令・厚生労働省令で定める科目毎、対応する科目については2単位以上の履修が必要である。

(公認心理師法施行規則第1条及び第2条、公認心理師法附則第2条第1項第1号から第4号)

**【公認心理師となるために必要な科目(25科目)】**

1. 公認心理師の職責
2. 心理学概論
3. 臨床心理学概論
4. 心理学研究法
5. 心理学統計法
6. 心理学実験
7. 知覚・認知心理学
8. 学習・言語心理学
9. 感情・人格心理学
10. 神経・生理心理学
11. 社会・集団・家族心理学
12. 発達心理学
13. 障害者・障害児心理学
14. 心理的アセスメント
15. 心理学的支援法
16. 健康・医療心理学
17. 福祉心理学
18. 教育・学校心理学
19. 司法・犯罪心理学
20. 産業・組織心理学
21. 人体の構造と機能及び疾病
22. 精神疾患とその治療
23. 関係行政論
24. 心理演習
25. 心理実習(80時間以上) (本学では90時間で開講)

**【京都大学公認心理師情報ページ URL】**

[https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/graduate/qualification\\_obtain\\_/kounin-cp/](https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/graduate/qualification_obtain_/kounin-cp/)

## 学生生活の諸手続きについて

### ● ● ● ● 学部教務掛窓口業務時間について ● ● ● ●

月～金曜日 9:00～17:00（創立記念日、冬季休業日を除く）

[注]土曜、日曜、祝日等の窓口業務は行っていません。それ以外にも行事等により、窓口業務を休止する場合がありますので、掲示に注意してください。

### ● ● ● ● 学生証について ● ● ● ●

学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯していなければなりません。附属図書館（中央図書館等）や学術情報メディアセンターの利用証も兼ね、各施設への入退館認証や証明書自動発行機も利用できます。また、京大生協組合員証を兼ねています。諸証明等関係書類の交付時には、学生証によって身分を確認するので提示してください。

#### ● 学生証再交付願

紛失・破損等をした場合は、速やかに学部教務掛へ再交付を願い出てください。

**紛失・盗難・破損時等での再交付は有料**となります。あらかじめ京大生協で「学生証再発行クーポン券」を購入のうえ、再交付願（窓口で交付）を提出してください。紛失・盗難の場合は、第三者による悪用を防止するために警察の届出受理番号が必要となりますので、直ちに警察へ届け出て、届出受理番号を控えておいてください。京大生協組合員の方は生協に連絡し、電子マネー機能を停止してください。

改姓名などその他の理由で再交付する場合は、無償の場合がありますので、学部教務掛に問い合わせてください。

### ● ● ● ● 修学上の願い出・届け出について ● ● ● ●

#### ● 休学願

疾病その他の理由により、3ヶ月以上修学ができない場合、または既に休学している者が引き続き休学期間の延長をする場合には、速やかに願い出てください。なお、疾病により休学する場合は診断書が必要です。

#### ● 復学願（届）

休学期間に復学する場合は、以下により速やかに復学願（届）を提出してください。

- ・疾病以外の場合・・・復学届を提出してください。
- ・疾病による場合・・・本学所定の「京都大学復学診断書」により医療機関の診断を受け、その診断書と共に復学を願い出てください。

#### ● 退学願

やむを得ない事情により、退学しなければならなくなった場合には、事前に願い出てください。

休学・退学の願い出は遡及して認められません。必ず事実発生の1ヶ月前までに所定の手続きを経て、学部教務掛へ願い出てください。願い出が1ヶ月前より遅れる場合は個別にご相談ください。（遅延すると、希望する日付で許可されないことや授業料納付で不利益が生じることがあります。）

#### ● 海外渡航届

在学中に海外へ行く場合（外国人留学生が一時帰国する場合を含む）に提出してください。

ただし、3ヶ月以上にわたる渡航の場合は、休学を願い出なければなりません。

なお、外国の大学に留学し単位認定を希望するものは、留学前にクラス担任、アドバイザー、指導教員等と相談し、所定の手続きをしてください。

## ● 住所変更届

本人及び家族の住所が変更になった場合は、速やかにKULASIS上で修正手続きをしてください。

## ● 改姓(名)届

姓・名が変わった場合は、住民票記載事項証明書を添えて、速やかに届け出てください。

## ● ● ● ● 転学部について ● ● ● ●

他の学部へ転学部を希望する場合は、毎年9月上旬に掲示で周知しますので、注意してください。

希望する学部の資格照会手続きを経た後、有資格者は出願書類の交付を受け、転学部希望先の教務掛の指示に従ってください。

## ● ● ● ● 各種証明書の発行について ● ● ● ●

証明書は、証明書発行サービスから申し込みの上、発行してください。発行方法は、学内の証明書自動発行機(無料)のほか、コンビニエンスストア発行やPDF発行(有料・24時間対応)が可能です。

証明書発行サービスへは、KULASISの全学生向け共通掲示板のリンク集や、全学生共通ポータル(<https://student.iimc.kyoto-u.ac.jp/>)からもアクセスできます。

証明書自動発行機及びコンビニ、PDFで発行できない証明書を希望する場合、学部教務掛に問い合わせてください。証明書によっては、7日間程度(土・日・祝日等を除く)時間を要する場合がありますので、時間に余裕を持って問い合わせてください。

なお、卒業証明書と成績証明書(全ての修得単位が記載されたもの)は、卒業日からの発行となります。ただし、証明書自動発行機での発行は、卒業月の末日までです。(学内の大学院進学者は、在学中は証明書自動発行機で発行できます。)

## ● ● ● ● 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)の使用について ● ● ● ●

学生の修学上の経済的負担を軽減することにより、学校教育の振興に寄与することを目的とした運賃の割引制度があります。この制度は、学生がつぎの目的等のため、鉄道を利用して片道の営業距離で101km以上の旅行をする際に運賃の割引(割引率はJRの場合2割引)を受けることができます。

JR以外にも近畿日本鉄道、関西汽船等割引制度を行っているところがありますので、当該会社に照会して割引可能な場合は当該会社の指示に従ってください。

- ア 休暇、所用による帰省
- イ 実験・実習などの正課の教育活動
- ウ 大学が認めた特別教育活動または体育・文化に関する正課外の教育活動
- エ 就職又は進学のための受験等
- オ 大学が修学上適当と認めた見学又は行事の参加
- カ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- キ 保護者の旅行への随行

・有効期間は発行日から3ヶ月間です。(ただし、卒業時は卒業月末まで。)

・学割証の使用に際しては、定められた諸事項を厳守してください。

**\* 記名人以外の使用などの違反をした場合は、多額の運賃追徴があり、以後学割証の発行停止処分(本人だけでなく、大学が発行停止処分を受ける場合もある)などがありますから、決して不正使用しないでください。**

### ● ● ● ● 分属、副専攻、進学、就職等の相談について ● ● ● ●

それぞれの相談は、担任・教員アドバイザー・指導教員にしてください。また、学部教務掛でも相談に応じています。

### ● ● ● ● 各種の相談窓口について ● ● ● ●

大学生活を送るなかで、みなさんはさまざまな悩みを抱えることがあるかもしれません。大学では、「人間・環境学研究科／総合人間学部学生相談室」「総合人間学部／人間・環境学研究科人権相談窓口」「学生総合支援機構学生相談センター」「京都大学DRC」といった相談窓口を設けています。悩みを一人で抱え込み、深刻化してしまう前に、ぜひ相談に訪れてみてください。どの窓口を利用してもかまいません。もちろん、相談内容については、秘密が厳守されますので、安心してご相談ください。

#### 【人間・環境学研究科／総合人間学部学生相談室】

学業や進路、日常生活の悩みなどを幅広く相談できる場として学生相談室を開設しています。カウンセラー（公認心理師・臨床心理士）が相談にあたります。相談時間は、1回最長50分です。

● 場所：総合人間学部棟1階（1104講義室の北隣）

● 開室時間

・月曜日～金曜日 9時～17時（祝日を除く）（13時～14時は休室）

・留学生に対する相談（Counseling for foreign students）

→木曜日・金曜日 / Thursday・Friday 12:30～14:00（祝日を除く）

● HP [https://www.h.kyoto-u.ac.jp/student/consultation/student\\_counseling\\_room/](https://www.h.kyoto-u.ac.jp/student/consultation/student_counseling_room/)

（総人HP 学生向け情報 > 相談窓口 > 学生相談室）

X（旧Twitter） [https://x.com/SouJin\\_CoRoom](https://x.com/SouJin_CoRoom)

#### 【総合人間学部／人間・環境学研究科人権相談窓口】

総合人間学部と人間・環境学研究科では、人権と差別の問題への取り組みの一環として、部局の相談窓口を設けています。

人権に関する悩みをお持ちの方は、人権相談窓口の担当者に連絡を取ってください。担当者の連絡先は人権相談窓口HPをご確認ください。

● HP [https://www.h.kyoto-u.ac.jp/student/consultation/human\\_rights/](https://www.h.kyoto-u.ac.jp/student/consultation/human_rights/)

（総人HP 学生向け情報 > 相談窓口 > 人権相談窓口）

#### 【学生総合支援機構学生相談センター】

大学全体の相談窓口です。学生相談、心理相談の専門スタッフが全学学生の相談に応じます。学内に5か所の相談室（北部、吉田、吉田南、桂、宇治）があります。

● 相談申し込みの方法

申し込みの際は、相談を希望する相談室を選んで、相談申込フォームか、相談室まで直接来室されるか、メール・電話にて申し込んでください。メールの場合、件名に「相談申し込み」という言葉を入れて、氏名、所属・学年ならびに連絡先を必ず明記してください。合わせて、ご希望の相談日時を複数ご提示ください。折り返し連絡します。

● HP <https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/ssc/>

● 場所及び連絡先

北部相談室

京都大学吉田キャンパス 北部構内 旧演習林事務室内

電話：075-753-2587

E-mail: [hokubu-ssc@mail.assdr.kyoto-u.ac.jp](mailto:hokubu-ssc@mail.assdr.kyoto-u.ac.jp)

#### 吉田相談室

京都大学吉田キャンパス 本部構内 学務部棟(旧石油化学教室本館)2階

電話:075-753-2596

E-mail:yoshida-ssc@mail.assdr.kyoto-u.ac.jp

#### 吉田南相談室

京都大学吉田キャンパス 吉田南構内 楽友会館1階

電話:075-753-2547

E-mail:yoshidaminami-ssc@mail.assdr.kyoto-u.ac.jp

#### 桂相談室

京都大学桂キャンパス Bクラスター 船井交流センター3階

電話:075-383-7317

E-mail:katsura-ssc@mail.assdr.kyoto-u.ac.jp

#### 宇治相談室

京都大学宇治キャンパス 生協会館2階

電話:0774-38-4554

E-mail:uji-ssc@mail.assdr.kyoto-u.ac.jp

#### ●開室時間

9時～17時(月曜日～金曜日\*祝日を除く)

#### 【ハラスメントについて】

もしあなたが、セクシャル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなどのハラスメントを受けていると感じた場合には、一人で悩まず、誰か信頼できる人に相談することが大切です。大学では、上記の人権相談窓口で相談を受け付けています。人権相談窓口では、相談者の意向を尊重しながら、解決の方向性を探ります。本人や友人だけで解決を図ることが難しい場合も少なくありません。深刻な状況になる前に、ぜひ相談窓口を利用してください。相談者のプライバシーには万全の注意を払いますので、安心してご相談ください。

#### 【京都大学DRC:Disability Resource Center (学生総合支援機構 障害学生支援部門)】

障害のある学生など、修学上の困難を抱える学生をサポートするために設置しています。学習や大学生活をスムーズに進められるよう、必要に応じて利用してください。

●HP <https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/>

#### ●場所及び連絡先

吉田キャンパス本部構内 学務部棟(旧石油化学教室本館)1階

電話:075-753-2317

E-mail:drc@mail.assdr.kyoto-u.ac.jp

#### ●開室時間

9時～17時(月曜日～金曜日\*祝日を除く)

①総合人間学部学生が、総合人間学部棟内の講義室、演習室を講義時間以外に使用する場合には、使用者本人(代表者)が使用日の3日前までに学生証を提示し、氏名と連絡先を直接届け出てください。

電話による申込みは、間違いが生じやすくトラブルのもとになるのでいっさい受け付けません。

②使用時間は、月曜日～金曜日の午前8時から午後7時までとします。

なお、午後7時以降の使用については、妥当と認めた場合午後9時まで使用を許可することがあります。

また、原則として、土・日曜日、祝日、休業中、定期試験期間中および特に指定された日の使用は認めません。

③使用にあたっては、使用者が責任をもって行うものとし、次の事項を遵守してください。

- ・ 館内の設備、器具等が無断で使用し、また移動させないこと。
- ・ 使用後はすみやかに清掃等を行い使用前の状態に復すること。
- ・ 使用目的は勉強会や読書会等に限定し、楽器演奏、合唱や演劇練習は、講義や研究活動および執務の迷惑になるので禁止。
- ・ 教室内での飲食及び構内での喫煙は禁止。

以上の心得に違反した場合は、以後の使用をいっさい認めません。

- 人間科学系 — Human Sciences
- 認知情報学系 — Cognitive and Information Sciences
- 国際文明学系 — Multi-Disciplinary Studies of Civilizations
- 文化環境学系 — Cultural Environment Studies
- 自然科学系 — Natural Sciences



## ● 教員名簿／人間科学系 — Human Sciences —

この名簿は、総合人間学部の教育を担当する教員について掲載しています。(職名・五十音順)  
メールアドレスは、『教員プロフィール』または総合人間学部／人間・環境学研究科ホームページの教員一覧に掲載されています(注:非常勤講師のメールアドレスは掲載されていません)。

氏名	フリガナ	所属	職名		
青山 拓央	アオヤマ タクオ	人間・環境学研究科	教授		
安部 浩	アベ ヒロシ	人間・環境学研究科	教授		
石岡 学	イシオカ マナブ	人間・環境学研究科	教授		
大倉 得史	オオクラ トクシ	人間・環境学研究科	教授		
木下 千花	キタシタ チカ	人間・環境学研究科	教授		
倉石 一郎	クラシ イチロウ	人間・環境学研究科	教授		
栗山 智成	クリヤマ トモナリ	人間・環境学研究科	教授		
小島 基洋	コジマ モトヒロ	人間・環境学研究科	教授		
佐藤 義之	サトウ ヨシユキ	人間・環境学研究科	教授		
柴田 悠	シバタ ハルカ	人間・環境学研究科	教授		
菅 利恵	スガ リエ	人間・環境学研究科	教授		
武田 宙也	タケダ ヒロナリ	人間・環境学研究科	教授		
戸田 剛文	トダ タケフミ	人間・環境学研究科	教授		
永田 素彦	ナガタ モトヒコ	人間・環境学研究科	教授		
吉田 恭子	ヨシダ キョウコ	人間・環境学研究科	教授		
TAJAN, Nicolas Pierre	タジャン, ニコラ ピエール	人間・環境学研究科	准教授		
朴 沙羅	パク サラ	地球環境学堂	准教授		
松本 卓也	マツモト タクヤ	人間・環境学研究科	准教授		
上田 泰史	ウエダ ヤスシ	人間・環境学研究科	准教授		
霜田 洋祐	シモダ ヨウスケ	人間・環境学研究科	准教授		
須藤 秀平	スドウ シュウヘイ	人間・環境学研究科	准教授		
田口 かおり	タグチ カオリ	人間・環境学研究科	准教授		
仁井田 千絵	ニイタ チェ	人間・環境学研究科	准教授		
蘆田 宏	アシダ ヒロシ	文学研究科	教授		
齊藤 智	サイトウ サトル	教育学研究科	教授		
西田 眞也	ニシダ シンヤ	情報学研究科	教授		
明和 政子	ミョウワ マサコ	教育学研究科	教授		
森口 佑介	モリグチ ユウスケ	文学研究科	教授		
山本 真也	ヤマモト シンヤ	人と社会の未来研究院	教授		
足立 幾磨	アダチ イクマ	ヒト行動進化研究センター	准教授		
高橋 雄介	タカハシ ユウスケ	国際高等教育院	准教授		
田附 紘平	タツケ コウヘイ	教育学研究科	准教授		
浅井 佑太	アサイ ユウタ	人文科学研究科	准教授		
森谷 理紗	モリヤ リサ	人文科学研究科	特定准教授		
菅沼 起一	スガヌマ キイチ	白眉センター	特定助教		
鈴木 麻菜美	スズキ マナミ	アジア・アフリカ地域研究研究科	特任助教		
伊藤 理史	イトウ リシ		非常勤講師		
佐藤 泰子	サトウ ヤスコ		非常勤講師		
大門 大朗	ダイモン ヒロアキ		非常勤講師		
平井 正三	ヒライ ショウゾウ		非常勤講師		
藤井 あゆみ	フジイ アユミ		非常勤講師		
妹背 佑香	イモセ ユウカ		非常勤講師		
植田 彩芳子	ウエダ サヨコ		非常勤講師		
上村 博	ウエムラ ヒロシ		非常勤講師		
大愛 崇晴	オオアイ タカハル		非常勤講師		
木島 菜菜子	コノシマ ナナコ		非常勤講師		
近藤 和都	コントウ カズト		非常勤講師		
鯖江 秀樹	サバエ ヒデキ		非常勤講師		
七里 圭	シチリ ケイ		非常勤講師		
正田 悠	ショウダ ハルカ		非常勤講師		
谷口 文和	タニグチ フミカズ		非常勤講師		
原 墨	ハラ イ		非常勤講師		

## ● 教員名簿／認知情報学系 — Cognitive and Information Sciences —

この名簿は、総合人間学部の教育を担当する教員について掲載しています。(職名・五十音順)  
メールアドレスは、『教員プロフィール』または総合人間学部／人間・環境学研究科ホームページの教員一覧に掲載されています(注:非常勤講師のメールアドレスは掲載されていません)。

氏名	フリガナ	所属	職名		
足立 匡義	アダチ タクヨシ	人間・環境学研究科	教授		
上木 直昌	ウエキ ナオマサ	人間・環境学研究科	教授		
柿原 武史	カキハラ タケシ	人間・環境学研究科	教授		
木坂 正史	キサカ マサシ	人間・環境学研究科	教授		
久代 恵介	クノ ケイスケ	人間・環境学研究科	教授		
熊田 孝恒	クマダ タカツネ	情報学研究科	教授		
神崎 素樹	コウザキ モトキ	人間・環境学研究科	教授		
小村 豊	コムラ ユタカ	人間・環境学研究科	教授		
齋木 潤	サイキ ジュン	人間・環境学研究科	教授		
角 大輝	スミ ヒロキ	人間・環境学研究科	教授		
谷口 一美	タニグチ カズミ	人間・環境学研究科	教授		
立木 秀樹	ツイキ ヒデキ	人間・環境学研究科	教授		
月浦 崇	ツキウラ タカシ	人間・環境学研究科	教授		
DEBRECHT, Matthew	デアブレクト, マシュー	人間・環境学研究科	教授		
中森 誉之	ナカモリ タカユキ	人間・環境学研究科	教授		
西山 教行	ニシヤマ ノユキ	人間・環境学研究科	教授		
日置 尋久	ヒオキ ヒロヒサ	人間・環境学研究科	教授		
船曳 康子	フナヒキ ヤスコ	人間・環境学研究科	教授		
守田 貴弘	モリタ タカヒロ	人間・環境学研究科	教授		
伊藤 克将	イトウ カツマサ	人間・環境学研究科	准教授		
江川 達郎	エガワ タツロウ	人間・環境学研究科	准教授		
GINSBURG, Jason	ギンズバーグ, ジェイソン	人間・環境学研究科	准教授		
THIES, Holger	ティース, ホルガー	人間・環境学研究科	准教授		
中島 亮一	ナカシマ リョウイチ	情報学研究科	准教授		
西脇 麻衣子	ニシワキ マイコ	人間・環境学研究科	准教授		
萩生 翔大	ハキオ ショウタ	人間・環境学研究科	准教授		
林 雅行	ハヤシ マサユキ	人間・環境学研究科	准教授		
PETERSON, Mark	ピーターソン, マーク	人間・環境学研究科	准教授		
藤田 義人	フジタ ヨシヒト	人間・環境学研究科	准教授		
堀口 大樹	ホリグチ ダイキ	人間・環境学研究科	准教授		
丸山 善宏	マルヤマ ヨシヒロ	人間・環境学研究科	准教授		
竹村 藍	タケムラ アイ	人間・環境学研究科	助教		
森山 真衣	モリヤマ マイ	人間・環境学研究科	助教		
山本 洋紀	ヤマモト ヒロキ	人間・環境学研究科	助教		
阿部 修士	アベ ノブヒト	人と社会の未来研究院	教授		
黒島 妃香	クロシマ ヒカ	文学研究科	教授		
中山 真孝	ナカヤマ マサタカ	人と社会の未来研究院	准教授		
三好 清文	ミヨシ キヨフミ	情報学研究科	助教		
粉川 尚枝	コナカワ ヒサエ	人と社会の未来研究院	特定助教		
杉浦 秀行	スギウラ ヒデユキ		非常勤講師		
三好 博之	ミヨシ ヒロユキ		非常勤講師		
森 篤嗣	モリ アツシ		非常勤講師		

## ● 教員名簿／国際文明学系 — Multi-Disciplinary Studies of Civilizations —

この名簿は、総合人間学部の教育を担当する教員について掲載しています。(職名・五十音順)  
メールアドレスは、『教員プロフィール』または総合人間学部／人間・環境学研究科ホームページの教員一覧に掲載されています(注:非常勤講師のメールアドレスは掲載されていません)。

氏名	フリガナ	所属	職名		
浅野 耕太	アサノ コウタ	人間・環境学研究科	教授		
池田 寛子	イケダ ヒロコ	人間・環境学研究科	教授		
小野寺 史郎	オノデラ シロウ	人間・環境学研究科	教授		
小畑 史子	オハタ フミコ	人間・環境学研究科	教授		
熊谷 隆之	クマガイ タカユキ	人間・環境学研究科	教授		
齋藤 嘉臣	サイトウ ヨシオミ	人間・環境学研究科	教授		
佐野 宏	サノ ヒロシ	人間・環境学研究科	教授		
佐野 亘	サノ ワタル	人間・環境学研究科	教授		
須田 千里	スダ チカト	人間・環境学研究科	教授		
大黒 弘慈	ダイコク コウジ	人間・環境学研究科	教授		
辻 正博	ツジ マサヒロ	人間・環境学研究科	教授		
長谷川 千尋	ハセガワ チヒロ	人間・環境学研究科	教授		
細見 和之	ホジミ カズユキ	人間・環境学研究科	教授		
松江 崇	マツエ タカシ	人間・環境学研究科	教授		
見平 典	ミヒラ ツカサ	地球環境学学	教授		
森口 由香	モリグチ ユカ	人間・環境学研究科	教授		
吉江 崇	ヨシエ タカシ	人間・環境学研究科	教授		
菊池 亨輔	キクチ キョウスケ	人間・環境学研究科	准教授		
合田 典世	ゴウダ ミチヨ	人間・環境学研究科	准教授		
小林 哲也	コバヤシ テツヤ	人間・環境学研究科	准教授		
柴山 桂太	シバヤマ ケイタ	人間・環境学研究科	准教授		
中村 仁紀	ナカムラ ヨシキ	人間・環境学研究科	准教授		
二宮 美那子	ニノミヤ ミナコ	人間・環境学研究科	准教授		
福谷 彬	フクタニ アキラ	人間・環境学研究科	准教授		
福元 健之	フクモト ケンシ	人間・環境学研究科	准教授		
BHATTE, Pallavi Kamlakar	ハッテ, パッラウイ カムラカル	人間・環境学研究科	講師		
家入 葉子	イエiri ヨウコ	文学研究科	教授		
宇佐美 誠	ウサミ マコト	地球環境学学	教授		
佐藤 公美	サトウ ヒトミ	文学研究科	教授		
早瀬 篤	ハヤセ アツシ	文学研究科	准教授		
大川 良文	オオカワ ヨシフミ		非常勤講師		
岡村 弘樹	オカムラ ヒロキ		非常勤講師		
小巻 泰之	コマキ ヤスユキ		非常勤講師		
佐藤 一進	サトウ タカミチ		非常勤講師		
澤西 祐典	サワニシ ユウスケ		非常勤講師		
土佐 朋子	トサ トモコ		非常勤講師		
藤岡 真樹	フジオカ マサキ		非常勤講師		

## ● 教員名簿／文化環境学系 — Cultural Environment Studies —

この名簿は、総合人間学部の教育を担当する教員について掲載しています。(職名・五十音順)  
メールアドレスは、『教員プロフィール』または総合人間学部／人間・環境学研究科ホームページの教員一覧に掲載されています(注:非常勤講師のメールアドレスは掲載されていません)。

氏名	フリガナ	所属	職名		
岩谷 彩子	イワタニ アヤコ	人間・環境学研究科	教授		
太田 出	オオタ イズル	人間・環境学研究科	教授		
風間 計博	カザマ カスヒロ	人間・環境学研究科	教授		
勝又 直也	カツマタ ナオキ	人間・環境学研究科	教授		
小島 泰雄	コジマ ヤスオ	人間・環境学研究科	教授		
津守 陽	ツモリ アキ	人間・環境学研究科	教授		
中嶋 節子	ナカジマ セツコ	人間・環境学研究科	教授		
前田 昌弘	マエタ マサヒロ	人間・環境学研究科	教授		
山村 亜希	ヤマムラ アキ	人間・環境学研究科	教授		
郭 旻錫	カク ミンソク	人間・環境学研究科	准教授		
久木元 美琴	クキモト ミコト	人間・環境学研究科	准教授		
DE ANTONI, Andrea	デ'アントーニ, アントレア	人間・環境学研究科	准教授		
徳永 悠	トクナガ ユウ	人間・環境学研究科	准教授		
中筋 朋	ナカスジ トモ	人間・環境学研究科	准教授		
三代川 寛子	ミヨカワ ヒロコ	人間・環境学研究科	准教授		
梶丸 岳	カジマル ガク	人間・環境学研究科	助教		
藤原 学	フジワラ マナブ	人間・環境学研究科	助教		
帯谷 知可	オビヤナカ	東南アジア地域研究研究所	教授		
安岡 宏和	ヤスオカ ヒロカズ	アジア・アフリカ地域研究研究所	教授		
山越 言	ヤマコシ ゲン	アジア・アフリカ地域研究研究所	教授		
川崎 修良	カワサキ ノブヨシ		非常勤講師		
堀 健彦	ホリ タケヒコ		非常勤講師		

## ● 教員名簿／自然科学系 — Natural Sciences —

この名簿は、総合人間学部の教育を担当する教員について掲載しています。(職名・五十音順)  
メールアドレスは、『教員プロフィール』または総合人間学部／人間・環境学研究科ホームページの教員一覧に掲載されています(注:非常勤講師のメールアドレスは掲載されていません)。

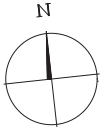
氏名	フリガナ	所属	職名		
石村 豊徳	イシムラトヨホ	人間・環境学研究科	教授		
市岡 孝朗	イチオカ タカオ	地球環境学堂	教授		
今吉 格	イマヨシ イタル	生命科学研究科	教授		
内本 喜晴	ウチモト ヨシハル	人間・環境学研究科	教授		
木下 俊哉	キノシタトシヤ	人間・環境学研究科	教授		
小木曾 哲	コギソ テツ	人間・環境学研究科	教授		
小松 直樹	コマツ ナオキ	人間・環境学研究科	教授		
瀬戸口 浩彰	セトグチ ヒロアキ	人間・環境学研究科	教授		
高木 紀明	タカギ ノリアキ	人間・環境学研究科	教授		
田部 勢津久	タナベ セツヒサ	地球環境学堂	教授		
津江 広人	ツエ ヒロヒト	人間・環境学研究科	教授		
西川 完途	ニシカワ カント	地球環境学堂	教授		
藤田 健一	フジタ ケンイチ	人間・環境学研究科	教授		
藤原 直樹	フジワラ ナオキ	人間・環境学研究科	教授		
宮下 英明	ミヤシタ ヒデアキ	人間・環境学研究科	教授		
森成 隆夫	モリナリ タカオ	人間・環境学研究科	教授		
吉田 鉄平	ヨシダ テツペイ	人間・環境学研究科	教授		
吉田 寿雄	ヨシダ ヒサオ	人間・環境学研究科	教授		
加藤 護	カトウ マモル	人間・環境学研究科	准教授		
角野 歩	ツミノ アユミ	生命科学研究科	准教授		
土屋 徹	ツチヤトオル	人間・環境学研究科	准教授		
廣戸 聡	ヒロト サトル	人間・環境学研究科	准教授		
浅沼 尚	アサヌマ ヒサシ	人間・環境学研究科	講師		
桑野 太輔	クワノ タイスケ	人間・環境学研究科	助教		
佐藤 博俊	サトウ ヒロシ	人間・環境学研究科	助教		
佐野 光貞	サノ ミツサダ	人間・環境学研究科	助教		
許 健	シュウ ケン	地球環境学堂	助教		
新林 卓也	シンバヤシ タクヤ	人間・環境学研究科	助教		
高橋 弘樹	タカハシ ヒロキ	人間・環境学研究科	助教		
高見 大地	タカミ ダイチ	人間・環境学研究科	助教		
陳 奕同	チン ヤクトウ	人間・環境学研究科	助教		
藤井 悠里	フジイ ユリ	人間・環境学研究科	助教		
渡邊 雅之	ワタナベ マサユキ	人間・環境学研究科	助教		
原 壮大朗	ハラ ソウタロウ	人間・環境学研究科	特定助教		
小山田 明	オヤマダ アキラ		非常勤講師		



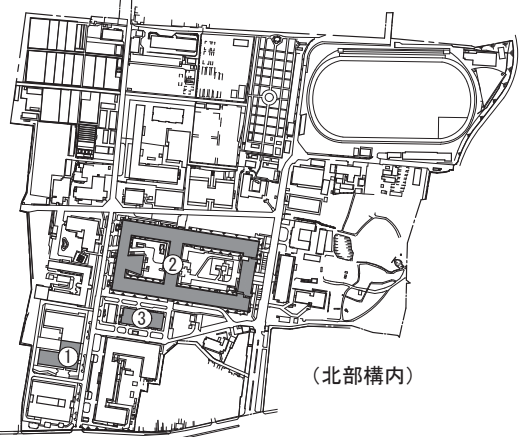
- 京都大学吉田キャンパス建物配置図
- 吉田南構内の安全通行について
- 吉田南構内建物等配置図・交通規制・駐輪駐車図
- 吉田南構内教室等配置図
- 吉田南構内教室設備一覧



● ● ● ● ● 京都大学吉田キャンパス建物配置図 ● ● ● ● ●



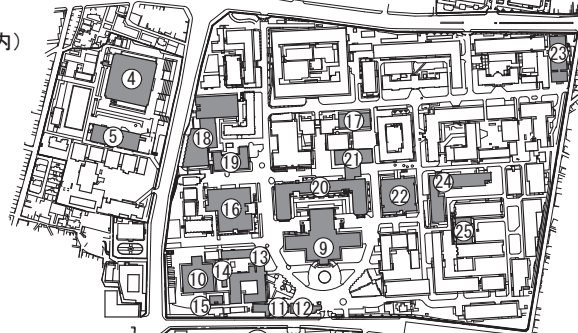
- 北部構内
- ① 理学部6号館  
理学部学部教務掛
  - ② 農学部総合館  
農学部学部教務掛
  - ③ 生協北部食堂・購買



(北部構内)

- 西部構内
- ④ 総合体育館
  - ⑤ 生協ショップ・カフェテリア

(西部構内)



(医学部構内)

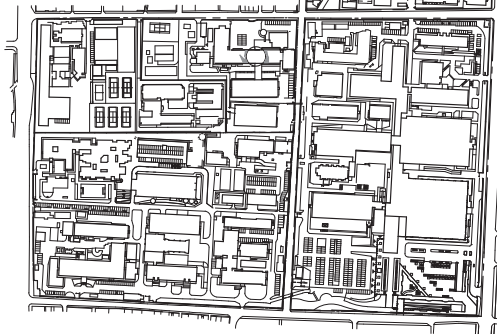
(本部構内)

- 本部構内
- ⑨ 百周年時計台記念館  
生協時計台ショップ・旅行センター
  - ⑩ 本部棟  
会計管理部経理課出納第一掛
  - ⑪ 健康管理室
  - ⑫ カフェレストラン・カンフォア
  - ⑬ 学務部棟  
学生総合支援機構  
学生相談部門・障害学生支援部門  
厚生課課外活動掛・厚生掛  
キャリアサポートセンター
  - ⑭ 国際交流セミナーハウス
  - ⑮ ディスアビリティ・インクルージョンセンター
  - ⑯ 附属図書館
  - ⑰ 文学部校舎  
文学部第一教務掛
  - ⑱ 総合博物館
  - ⑲ 教育学部本館  
教育学部教務掛・教職教務掛
  - ⑳ 法経済学部本館  
法学部教務掛
  - ㉑ 法経済学部東館  
経済学部教務掛
  - ㉒ 総合研究8号館  
生協中央食堂
  - ㉓ 学術情報ライオンセンター(北館)
  - ㉔ 総合研究10号館  
学生課奨学掛
  - ㉕ 工学部物理系校舎  
工学部教務掛

- 医学部構内
- ⑥ 医学部C棟  
医学部教務課学部教務掛  
人間健康教務掛
  - ⑦ 生協南部食堂・購買

- 吉田南構内
- ㉖ 吉田南1号館
  - ㉗ 総合人間学部棟  
総合人間学部学部教務掛
  - ㉘ 吉田南総合館
  - ㉙ 吉田南総合図書館
  - ㉚ 吉田南2号館
  - ㉛ 吉田南3号館
  - ㉜ 吉田南4号館
  - ㉝ 生協吉田食堂
  - ㉞ 大学院人間・環境学研究科棟
  - ㉟ 生協吉田ショップ・組合員センター
  - ㊱ 学術情報ライオンセンター(南館)
  - ㊲ 吉田国際交流会館  
留学生支援課  
(国際交流サービスオフィス等)
  - ㊳ 国際高等教育院棟  
全学共通科目学生窓口  
国際教育交流課(海外留学掛等)

(吉田南構内)



(病院西・薬学部構内)

(病院東構内)

- 病院西・薬学部構内
- ⑧ 薬学研究科本館  
薬学部教務掛

## ● ● ● ● 吉田南構内の安全通行について ● ● ● ●

### ● 吉田南構内への出入構の方法

吉田南構内への出入りは通常、次の6つの門から行うことになります。各所に構内整理員がいて指示を行いますので、それに従ってください。なお、各門からの出入構にはそれぞれ制約がありますので、出入構できる対象を確認してください。

出入構可能対象	開門時間
1. 正門…… 歩行者	1. 正門…… 終日
2. 北門…… 歩行者、自転車	2. 北門…… 終日
3. 東門…… 歩行者、自転車	3. 東門…… 7:00～19:00
4. 西門…… 歩行者、自転車	4. 西門…… 7:00～19:00
5. 東南門… 歩行者、自転車、バイク	5. 東南門… 7:00～19:00
6. 西南門… 歩行者、自転車、バイク及び自動車	6. 西南門… 7:00～21:00

上記の開門時間は授業のある平日の場合です。土、日、祝日は東門、東南門、西門は常時閉鎖となります。

### ● 駐車・駐輪場所

自転車は、構内各所の自転車置場に整然と並べてください。バイクは、西門及び東南門の近くに設けてあるバイク置場を使用することとし、構内を走行することはたいへん危険であり、かつ発生する騒音が授業等の支障になるので絶対にしないでください。やむを得ず構内でバイクを移動させる必要がある場合は、エンジンを止めて押して歩くようにして下さい（この際も歩行者、自転車に十分に注意を払うこと）。

◎生協吉田食堂付近は昼食時間帯、非常に混雑します。昼食をとりに来るときはなるべく自転車は控えてください。

### ● 通学のための自動車

吉田南構内では、学生などの自動車による登校は原則的に禁止されています。身体の状態等により自動車の使用が必要と認められる場合には、全学共通科目学生窓口に申し出たうえで、吉田南構内交通安全委員会の承認を得て使用することができます。

### ● 構内における常時駐車・駐輪禁止の場所

・法令により定められている駐車・駐輪禁止場所に関して：

- ◇ 消火栓、消防隊出入口の周辺（黄色画線で表示してあります）
- ◇ 緊急車両の進入口（各入構門）
- ◇ 各建物の緊急用通り抜け通路（次項参照）

・その他の駐車・駐輪禁止場所：

駐車・駐輪に当たっては原則として各指定場所（吉田南構内 交通規制・駐輪駐車図参照）を使用しますが、たとえやむを得ない場合でも次の場所に停めてはいけません。

- ◇ 図書館前の広場。図書館へ書籍納入に訪れる書店の車や、各研究室の手押し車の停車スペースです。
- ◇ 各棟の一階部分に設けられている通り抜け通路付近（東門から吉田南総合館中庭への通路や、吉田南2号館と3号館の間の通路など）。緊急車両の通り抜け口になっています。

### ● 不正駐車等一般ルールを守らない行為に対する処置

➤ 緊急用施設等、常時駐車禁止場所に停めた場合

自動車、バイク及び自転車に対しては予告なしに車輪止め（チェーン・ロック）を行うことがあります。また、これらの車両は他の場所へ移動させる処置を併せてとることもあります。この際、移動に要した（レッカー車・駐車場は業者に依頼する）費用は行為者本人の個人負担となり、料金は業者の請求に基づいて直接各人が業者に払い込む必要があります。

前記ケース以外は注意書き貼付、車止め予告の後、チェーン・ロックします。

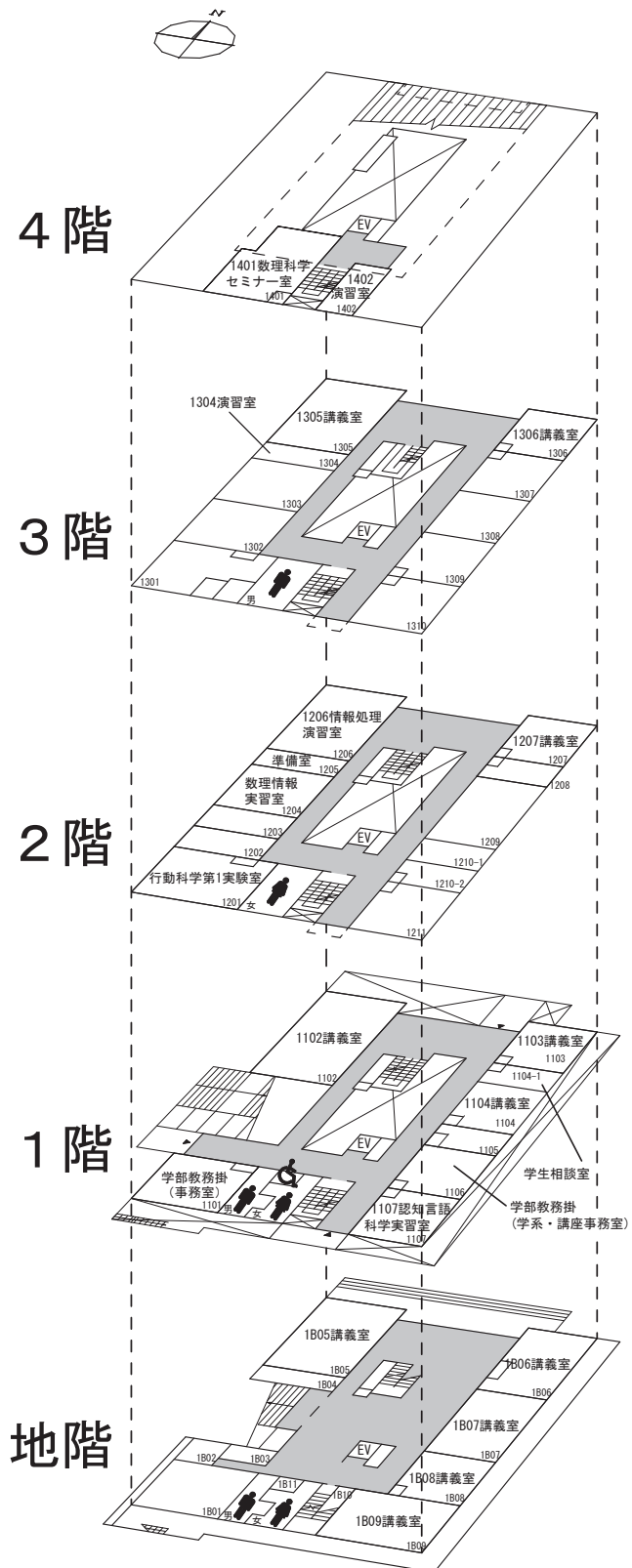
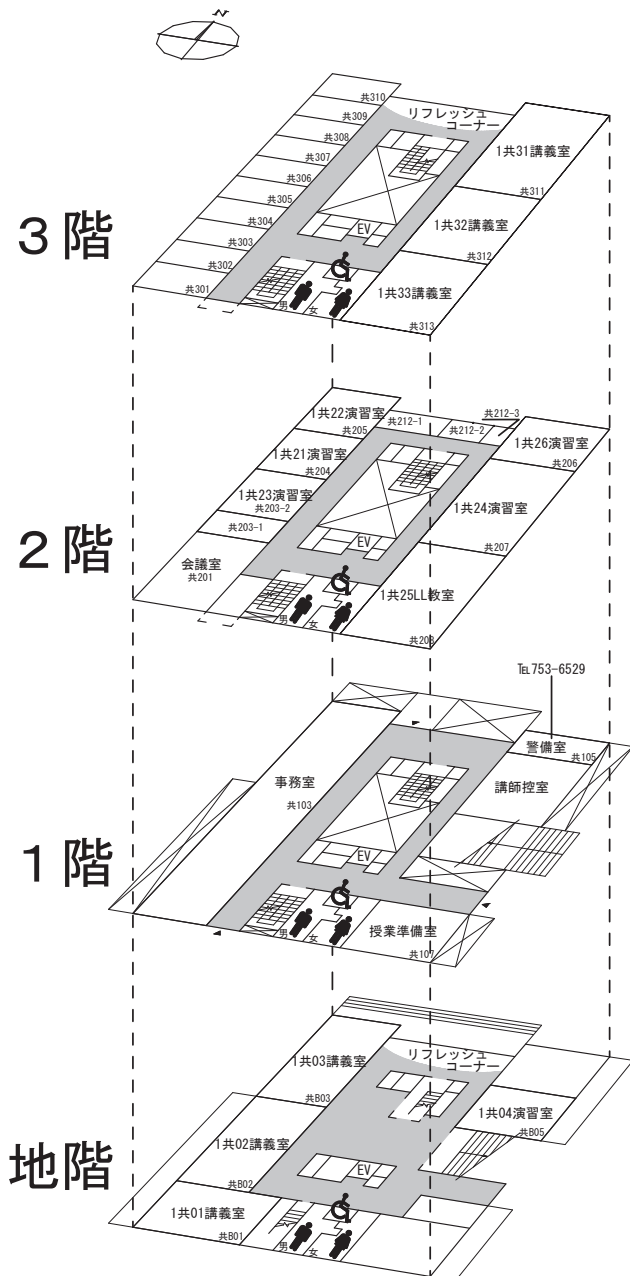
➤ 車止め（チェーン・ロック）の解除手続き

ルール違反によって車止め処置を受けた車両の持ち主は、資産・用度掛（吉田南1号館1階）に申し出、その指示に従って吉田南構内交通安全委員会に解錠申請を行ってください。委員会の解錠許可を受け、委員会立ち会いで解錠します。許可がなければ解錠、移動を行うことができないので注意してください。

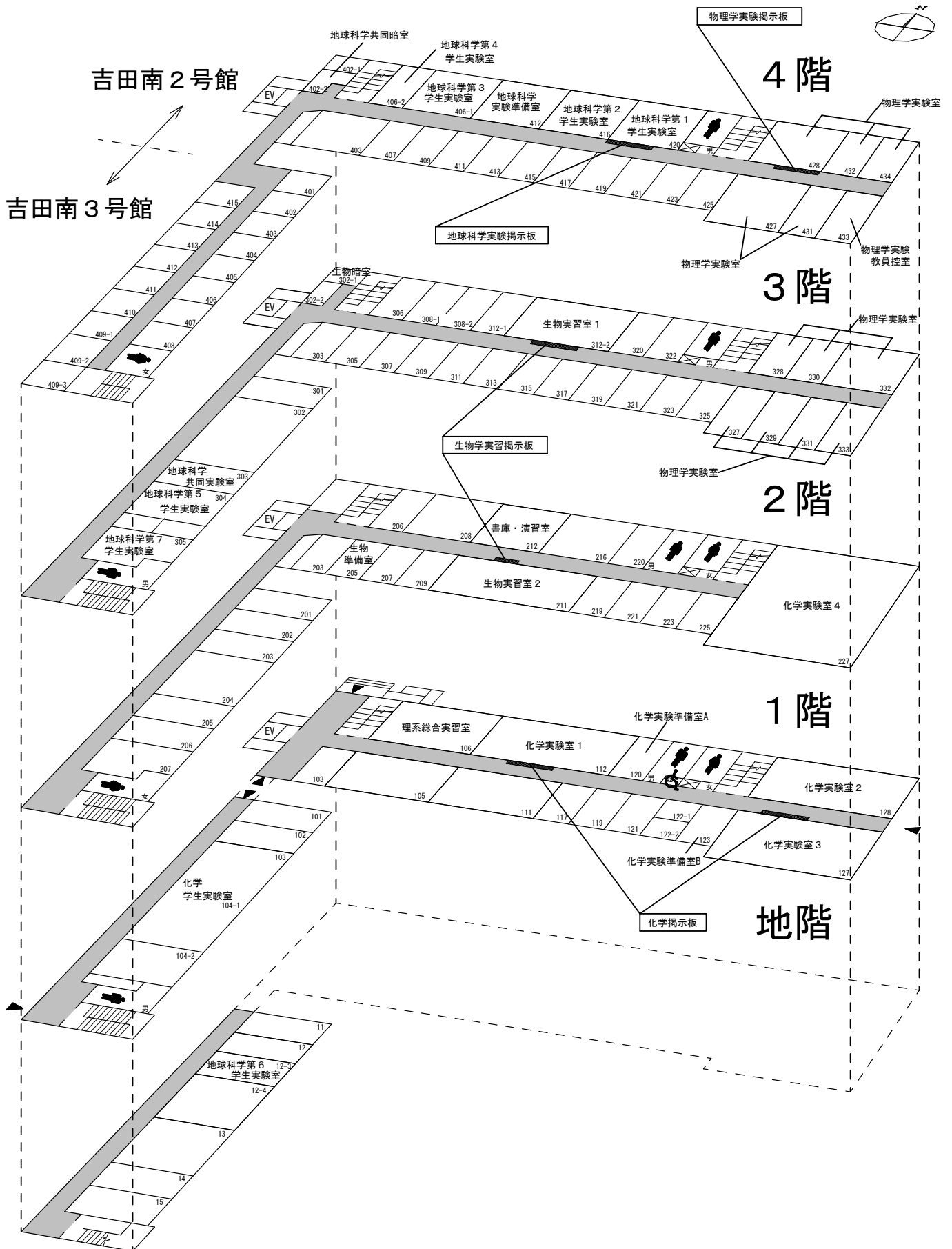


# 吉田南 1 号館

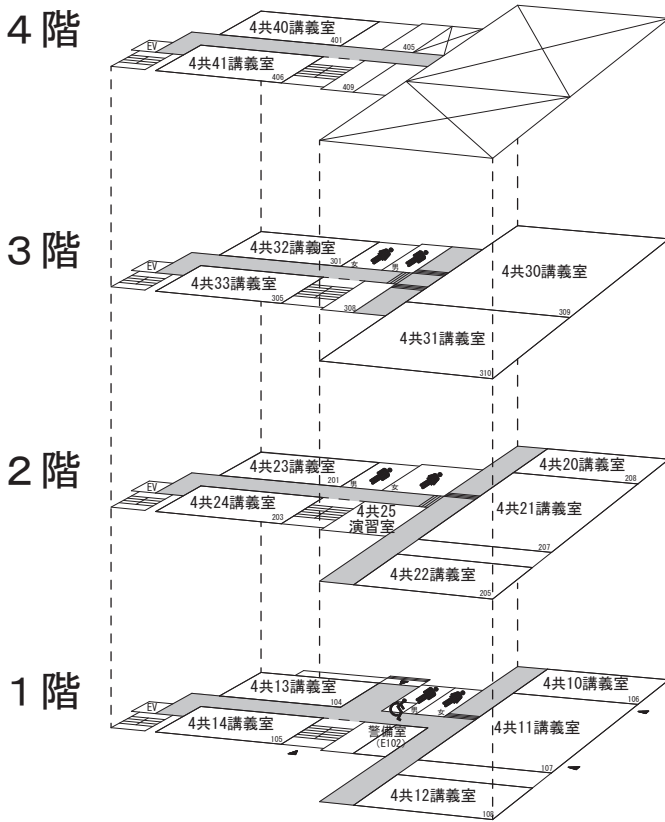
# 総合人間学部棟



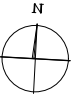
# 吉田南2・3号館



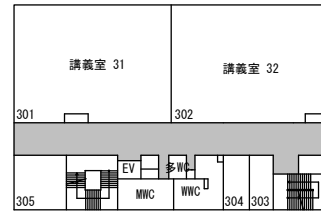
# 吉田南4号館



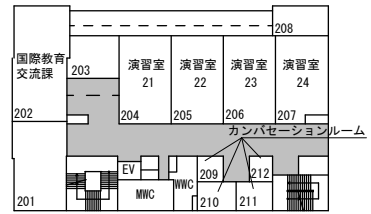
# 国際高等教育院棟



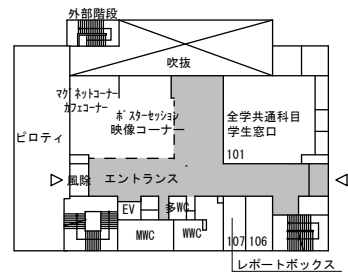
3階



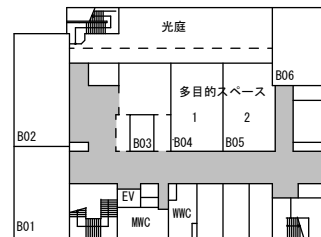
2階



1階



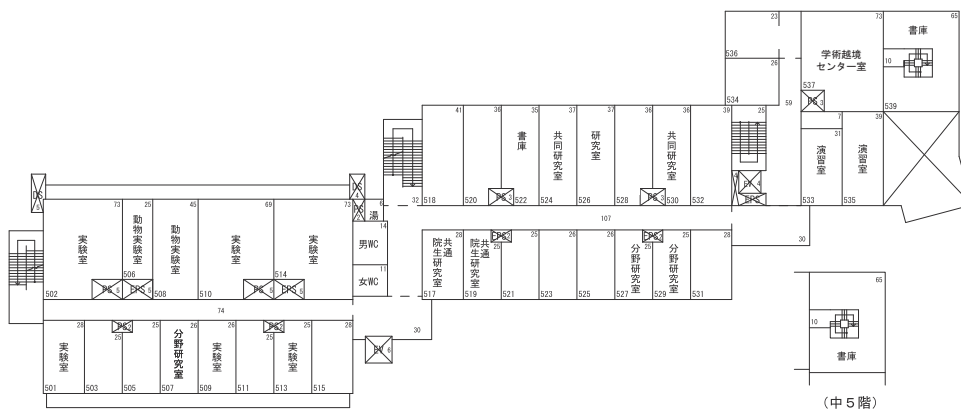
地階



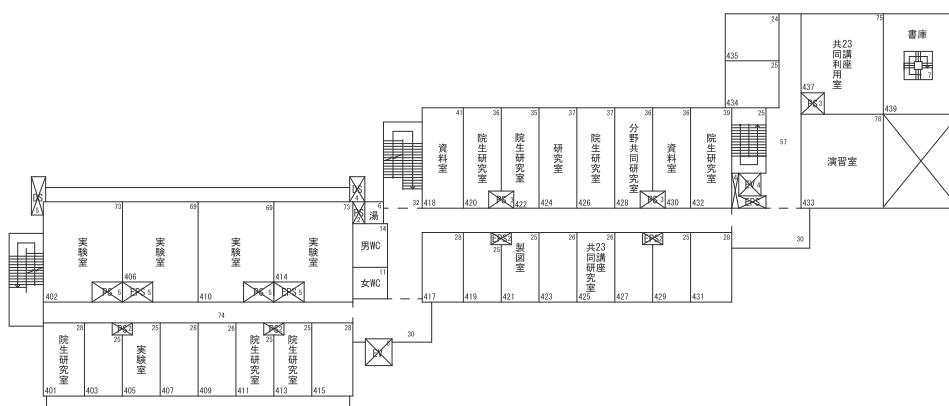
# 人間・環境学研究科棟 2～5階



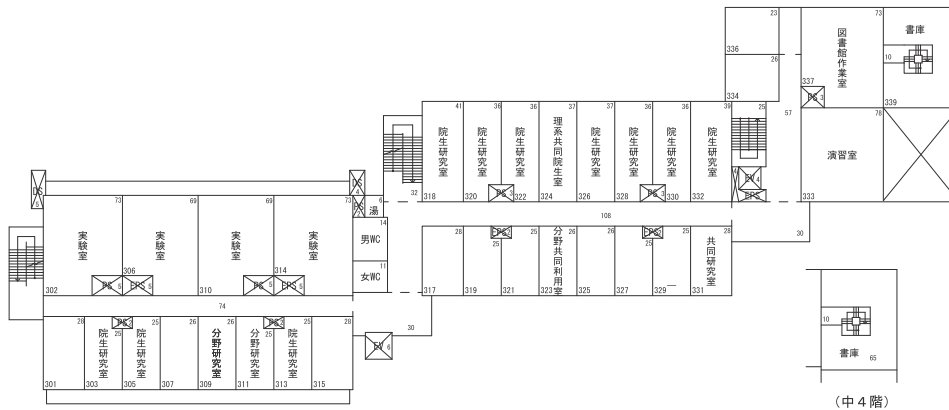
5階



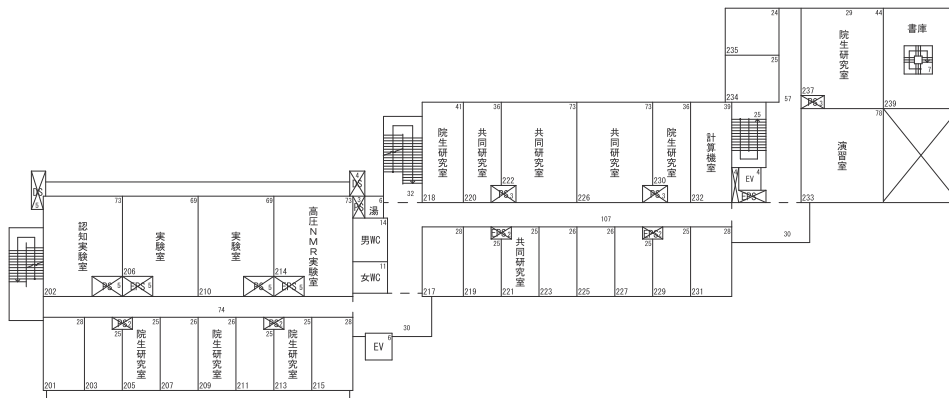
4階



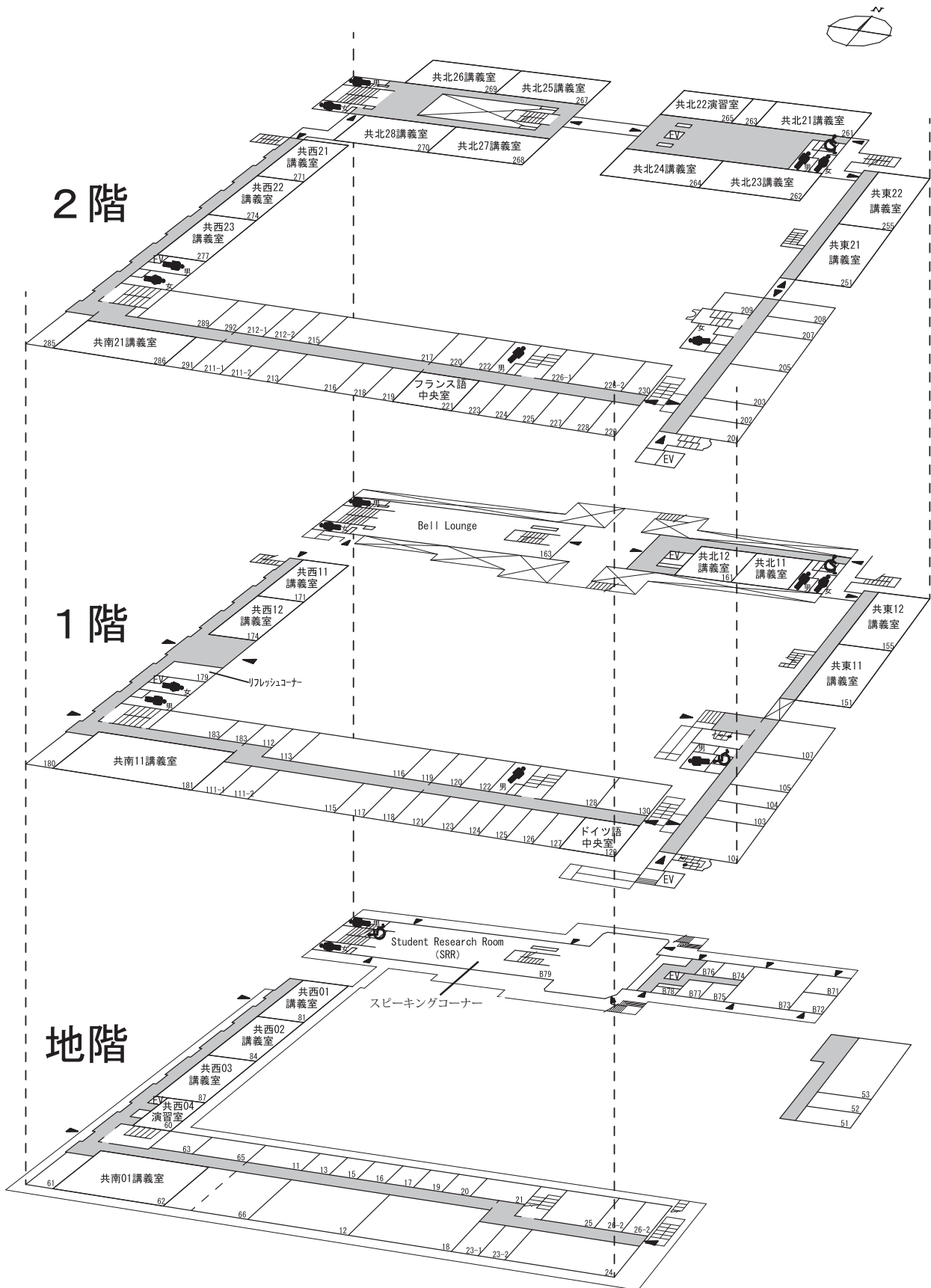
3階



2階

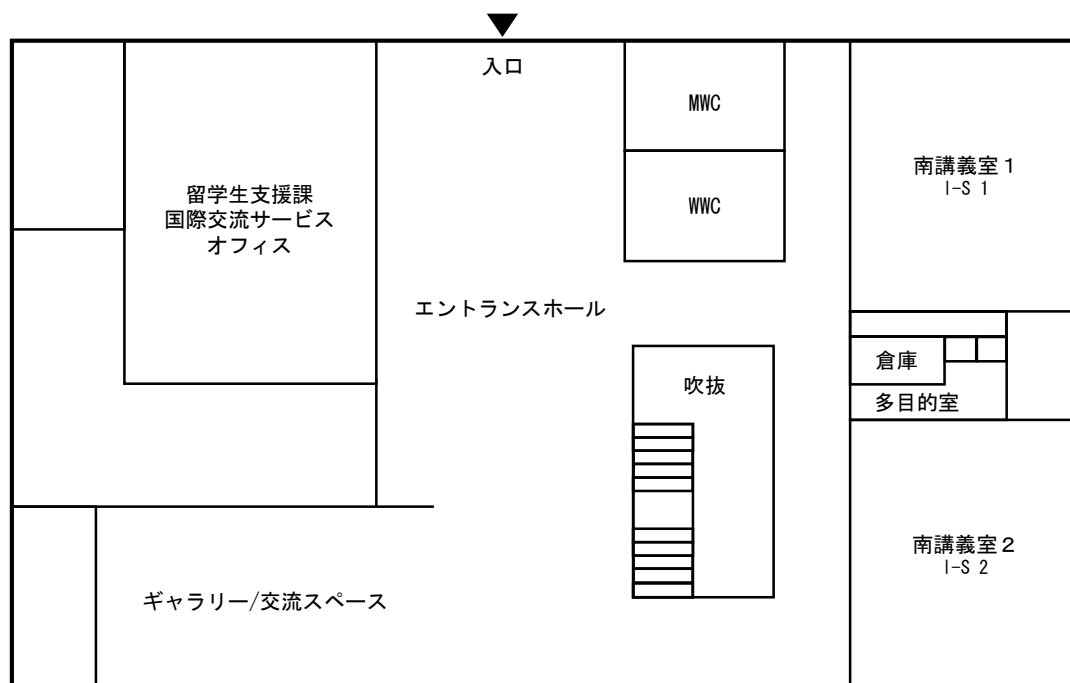


# 吉田南総合館

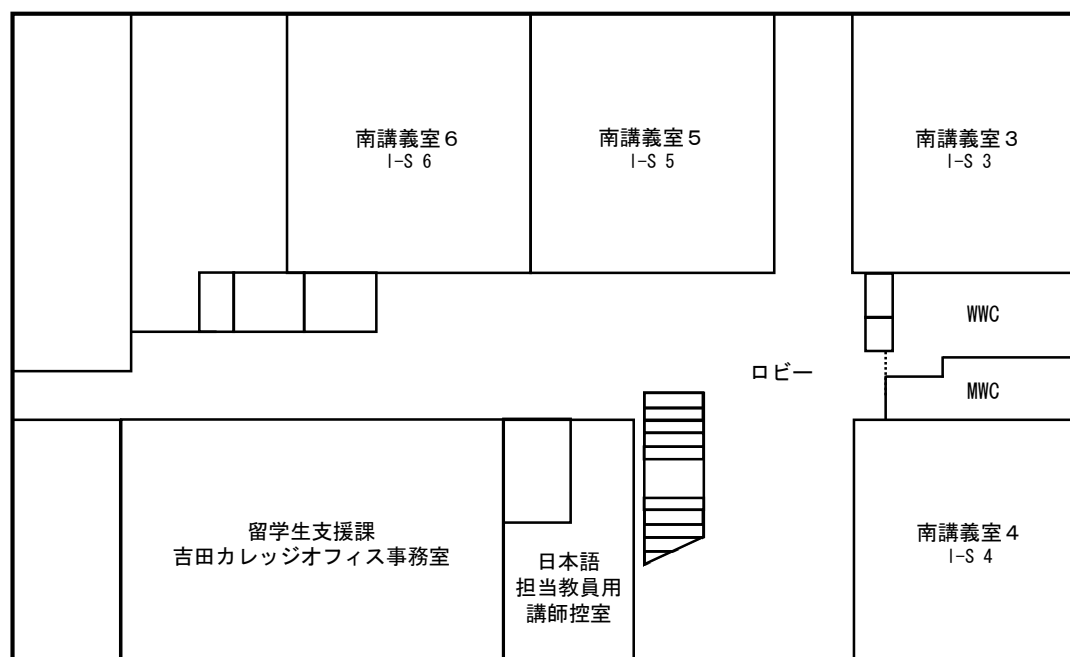




# 吉田国際交流会館



## 1 階



## 地下 1 階

● 吉田南構内教室設備一覧

建物	教室名	定員(人)		暗幕 *は電動	電動スクリーン	フラインド	ビデオ	DVD	ブルーレイ	マイク	モニター	プロジェクター *は電子黒板	LAN接続※	教材提示装置	黒板・白板	ICカードリーダー (出席登録システム)	ウェブカメラ	教室音声取込	概要	
		講義	試験																	
総合人間学部棟	地階	1B05	96	64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	スライドプロジェクター設置
		1B06	66	39	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○				
		1B07	57	38	○	○	○				○		○	○	○	○				
		1B08	30	-	○	○	○		○				○	○	○	○				可動機
		1B09	51	34	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○				
	1階	1102	132	88	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○				
		1103	30	-	○	○	○						○	○	○	○				可動機
		1104	30	-	○	○	○		○	○			○	○	○	○				可動機
	2階	1206	41	-		○	○				○		○	○	○	○				旧情報処理演習室 各席に電源有
		1207	30	-	○	○	○						○	○	○	○				可動機
	3階	1304	15	-		○	○						○	○	○	○				可動機
		1305	52	-	○*	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			センサーモニター、タッチペン、カーペット、各席に電源有(旧CALL教室)
1306		30	-	○	○	○		○				○	○	○	○				可動機	
4階	1401	-	-										○	○	○				セミナー室	
	1402	15	-	○	○	○						○	○	○	○				可動機	
人間・環境学研究科棟	地階	大講義室(B23(A・B))	160	-	○	○		○	○		○	○	○	○	○				可動機、(B23A/定員:80、B23B/定員:80)、スクリーン中央吊り	
	1階	134 演習室	20	-		○	○								○				可動機	
	2階	233 演習室	24	-	○	○		○	○			○	○	○	○				可動機、スクリーン中央吊り	
	3階	333 演習室	24	-	○	○		○	○			○	○	○	○				可動機、スクリーン中央吊り	
	4階	433 演習室	24	-	○	○		○	○				○	○	○	○				可動機、スクリーン中央吊り
		533 演習室	12	-		○							○			○				可動機
国際高等教育院棟	2階	演習室21	30	-		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○				テーブル付き椅子、電子黒板、カーペット
		演習室22	30	-			○	○	○			○*	○	○	○	○				テーブル付き椅子、電子黒板、カーペット
		演習室23	30	-			○	○	○			○*	○	○	○	○				テーブル付き椅子、電子黒板、カーペット
		演習室24	30	-		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			テーブル付き椅子、電子黒板、カーペット
	3階	講義室31	240	160		○	○		○	○	○	4	○	○	○	○	○	○	○	カーペット
		講義室32	240	160		○	○		○	○	○	4	○	○	○	○	○	○	○	カーペット
吉田南1号館	地階	1共01	70	45	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○				
		1共02	115	74	○	○	○		○	○	○	2	○	○	○	○				
		1共03	98	55		○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○				スクリーンは黒板の右側に設置
		1共04(演習室)	36	-		○	○	○	○	○			○	○	○	○				可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
	2階	1共21(演習室)	36	-		○	○	○	○	○			○	○	○	○				可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
		1共22(演習室)	36	-		○	○	○	○	○			○	○	○	○				可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
		1共23(演習室)	36	-		○	○	○	○	○			○	○	○	○				可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
		1共24(演習室)	40	-	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○				テーブル付き椅子、カーペット
		1共25(LL)	64	-	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○				センサーモニター、MD、CD、全世界対応方式ビデオ、タッチペン、カーペット
		1共26(演習室)	45	-		○	○		○	○			○	○	○	○				可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置、電子黒板
3階	1共31	132	87	○	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○		
	1共32	87	58	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		
	1共33	90	60	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		
吉田南2号館	1階	理系総合実習室	48	-	○	○		○	○	○	2	○	○	○	○				可動機(16台)、机前に着席可能な人数は48人	
		105 演習室	36	-		○	○		○		2	○	○	○	○				可動機、スクリーン中央吊り	
	4階	403 演習室	24	-		○	○	○	○			○	○	○	○				可動機	

建物	教室名	定員(人)		暗幕 *は電動	電動スクリーン	フラインド	ビデオ	DVD	ブルーレイ	マイク	モニター	プロジェクター *は電子黒板	LAN接続※	教材提示装置	黒板・白板	(ICカードリーダー) (出席記録システム)	ウェブカメラ	教室音声取込	概要			
		講義	試験																			
吉田南4号館	1階	4共10	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	○	○	○	○	○			
		4共11	254	144		○	○	○	○	○	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		4共12	80	50		○	○	○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
		4共13	80	50		○	○	○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
		4共14	80	50		○	○	○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
	2階	4共20	80	50		○	○		○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
		4共21	258	146		○	○	○	○	○	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		4共22	80	50		○	○	○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
		4共23	80	50		○	○	○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
		4共24	80	50		○	○	○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
		4共25(演習室)	24	-		○	○		○	○			○	○	○	○	○	○			可動機	
	3階	4共30	376	200		○	○	○	○	○	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		4共31	225	121		○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		4共32	80	50	○	○		○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
		4共33	80	50	○	○		○	○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○		
	4階	4共40	80	50	○	○		○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4共41		80	50	○	○		○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
4共42(演習室)		15	-									*	●		○	○	○			テーブル付き椅子, 電子黒板		
吉田国際交流会館	地階	南講義室3	48	24		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, CD, 遠隔講義システム	
		南講義室4	48	24		○	○		○	○		○	○	●	○	○	○	○	○	○	可動機, CD, カセットデッキ, テレビ	
		南講義室5	48	24		○	○		○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○	可動機	
		南講義室6	48	24		○	○		○	○	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○	可動機	
	1階	南講義室1	48	24		○	○		○	○		○	○	●	○	○	○	○	○	○	可動機, テレビ	
		南講義室2	48	24		○	○		○	○		○	○	●	○	○	○	○	○	○	可動機, CD, カセットデッキ, テレビ	
吉田南総合館	1階	共北11	48	-	○*	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, カベット	
		共北12	48	-	○*	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, カベット	
	2階	共北21	52	-	○*	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	センターモニター, カセットデッキ, カベット, 各席に電源有(旧CALL教室)
		共北22(演習室)	63	-	○	○	○		○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, カベット
		共北23	52	-	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	センターモニター, カセットデッキ, カベット, 各席に電源有(旧CALL教室)
		共北24	52	-	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	センターモニター, カセットデッキ, カベット, 各席に電源有(旧CALL教室)
		共北25	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		共北26	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		共北27	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	共北28	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		共北29(演習室)	15	-									*	●		○	○	○			テーブル付き椅子, 電子黒板	
	3階	共北31	125	83	○	○	○		○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		共北32	125	83	○	○	○		○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		共北33	59	35	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	一部可動機あり(可動機を含むと試験定員40人)
		共北34	59	35	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	一部可動機あり(可動機を含むと試験定員40人)
		共北35	59	35	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	一部可動機あり(可動機を含むと試験定員40人)
		共北36	59	35	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	一部可動機あり(可動機を含むと試験定員40人)
		共北37	125	83	○	○	○		○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		共北38	125	83	○	○	○		○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	教室後方に白板有
共北3A(演習室)		45	-		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, 電子黒板	
共北3B(演習室)		45	-		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, 電子黒板	
共北3C(演習室)	45	-		○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, 電子黒板		
共北3D(演習室)	45	-		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	可動機, 電子黒板		

建物	教室名	定員(人)		*は電動	電動スクリーン	フライト	ビデオ	DVD	ブルーレイ	マイク	モニター	プロジェクター	LAN接続※	教材提示装置	黒板・白板	ICカードリーダー (出席登録システム)	ウェブカメラ	教室音声取込	概要		
		講義	試験																		
吉田南総合館	東棟	1階	共東11	120	75	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
			共東12	80	-	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	白板	○	○	可動機	
		2階	共東21	120	75	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○		
			共東22	52	-	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	白板	○	○	センターモニター、セットデスク、カーペット、各席に電源有(旧CALL教室)	
		3階	共東31	120	75	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○		
			共東32	120	75	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○		
	4階	共東41	120	75	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
		共東42	120	75	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○	スクリーンは黒板の左側に設置		
	南棟	地階	共南01	154	98	○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	黒板	○	○			
		1階	共南11	181	115	○	○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	黒板	○	○		演示実験室
			共南21	100	63	○	○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	黒板	○	○		
		2階	216演習室	24	-	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	黒板				可動機、スクリーン中央吊り
			332演習室	14	-	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	黒板				可動機、スクリーン中央吊り
	3階	334演習室	24	-	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	黒板				可動機、スクリーン中央吊り	
		475演習室	18	-	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	白板				可動機	
	東南棟	1階	101演習室	24	-	○	○	○	○	○		○	○	○	○	黒板				可動機、スクリーン中央吊り	
		4階	402演習室	14	-	○	○	○	○	○		○	○	○	○	黒板				可動機、スクリーン中央吊り	
			409演習室	14	-	○	○	○	○	○	○		○	○	○	黒板				可動機、スクリーン中央吊り	
	西棟	地階	共西01	72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○		
			共西02	72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○		
共西03			72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
共西04(演習室)			24	-	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	白板	○	○		可動機	
1階		共西11	72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
		共西12	72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
2階		共西21	72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
		共西22	72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
3階		共西23	72	45	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	黒板	○	○			
		共西31	135	85	○	○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	黒板	○	○			
4階		共西32	114	72	○	○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	黒板	○	○			
		共西41	135	85	○	○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	黒板	○	○			
3階		共西42	103	65	○	○	○	○	○	○	4	○	○	○	○	黒板	○	○			
		地下講義室	248	124	○	○	○	○	○	○	3	○	○	○	○	黒板	○	○			
学術情報メディアセンター南館	2階	201(マルチメディア講義室)	120	-																	
		202(マルチメディア講義室)	120	-																	
		203(マルチメディア演習室1)	70	-																	
		204(マルチメディア演習室2)	70	-																	
3階	303(マルチメディア演習室3)	30	-																		

※ LAN接続欄の「●」は無線LANのみ接続可能であることを示しています。

## 総合人間学部便覧

---

編集 京都大学総合人間学部  
発行

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町  
電話 075-753-6506, 6507, 7875 (学部教務掛)